

**赤井川村地域福祉計画見直しのための
アンケート調査報告書**

令和6年1月

赤井川村

目次

調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査対象	1
3 調査方法	1
4 調査時期	1
5 回収結果	1
6 数値等の基本的な取扱いについて	1
アンケート結果	2
1 あなた(ご回答者)ご自身のことについておたずねします。.....	2
2 地域での付き合いや地域活動などについておたずねします。.....	5
3 暮らしの中で困ったことや福祉情報などについておたずねします。.....	23
4 災害時の支援についておたずねします。.....	37
5 地域福祉の活動についておたずねします。.....	43
6 自殺に関する意識についておたずねします。.....	49
7 うつ病についておたずねします。.....	52
8 今後の自殺対策についておたずねします。.....	55
9 権利擁護・成年後見制度についておたずねします。.....	60
10 地域における再犯防止についておたずねします。.....	62
11 社会福祉協議会の活動についておたずねします。.....	64
12 今後の福祉のあり方についておたずねします。.....	68
13 むらバスについておたずねします。.....	73

調査の概要

1 調査の目的

「地域と人のつながりを深め 安心して暮らせるむら」を目指して、ひとりひとりの「暮らしやすさ」に繋がるポイントがどこにあるのか、「地域福祉」に関するお考えやご意見についておうかがいし、計画策定の基本資料とするために実施するものです。

2 調査対象

18歳以上の村民

3 調査方法

郵送と Web 方式による調査票の配布・回収

4 調査時期

令和5年7月

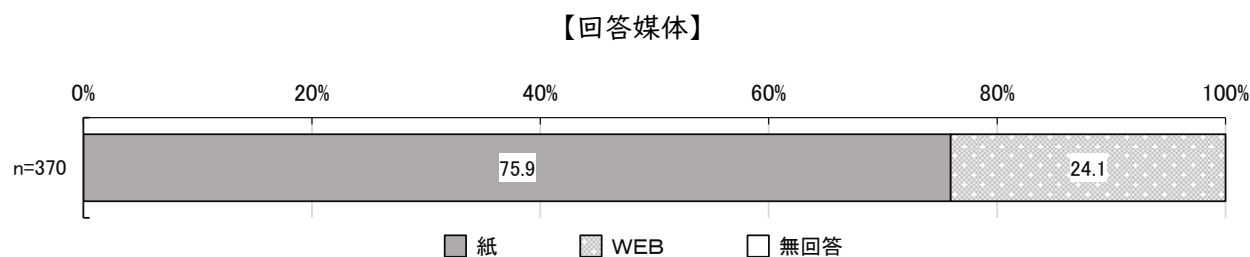
5 回収結果

配布数 790
回収数 370(うち Web 回答89)
回収率 46.8%

6 数値等の基本的な取扱いについて

- ・比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合もあります。
- ・基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。(回答者総数又は該当者数)
- ・複数回答については、ひとりの回答者が2つ以上の回答を出してもよい設問であり、したがって、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ・文中、グラフ中の設問カテゴリー(選択肢)の文言は、作図の都合上、簡略化する場合があります。
- ・本文中の“「」”内は[アンケートの回答項目]、“『』”内は[アンケートの回答項目を複数あわせて表示したもの]となります。

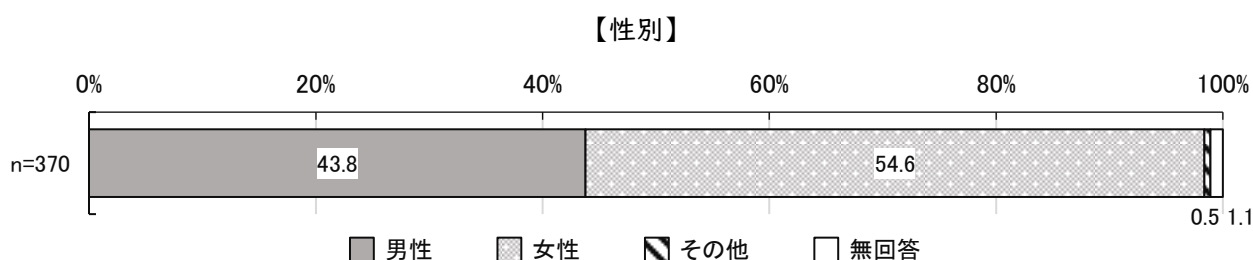
アンケート結果



Ⅰ あなた（ご回答者）ご自身のことについておたずねします。

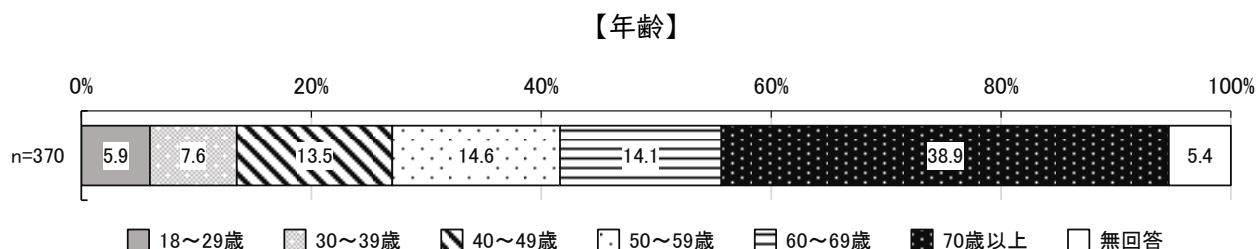
問Ⅰ あなたの性別をお答えください。（1つに○印）

性別については、「男性」が43.8%、「女性」が54.6%となっています。



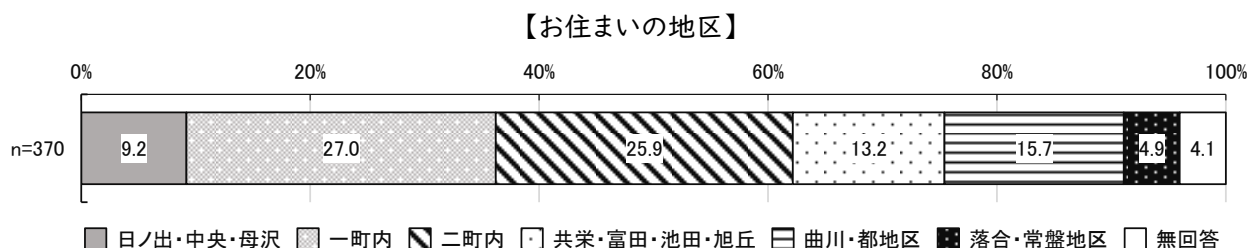
問2 令和5年4月1日のあなたの年齢をお答えください。（数字を記入）

年齢については、「70歳以上」が38.9%と最も高く、次いで「50歳～59歳」（14.6%）、「60歳～69歳」（14.1%）、「40歳～49歳」（13.5%）、「30歳～39歳」（7.6%）、「18歳～29歳」（5.9%）の順となっています。



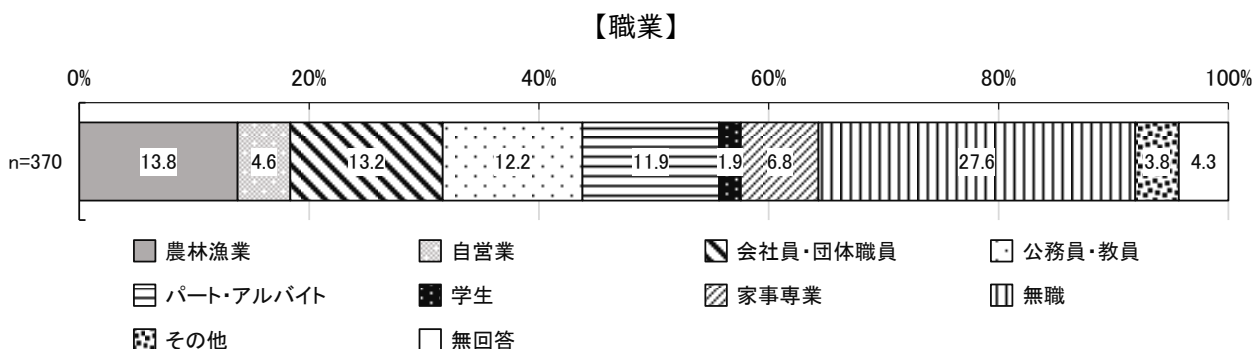
問3 あなたの住んでいる地区をお答えください。(1つに○印)

お住まいの地区については、「一町内」が27.0%と最も高く、次いで「二町内」(25.9%)、「曲川・都地区」(15.7%)、「共栄・富田・池田・旭丘」(13.2%)、「日ノ出・中央・母沢」(9.2%)、「落合・常盤地区」(4.9%)の順となっています。



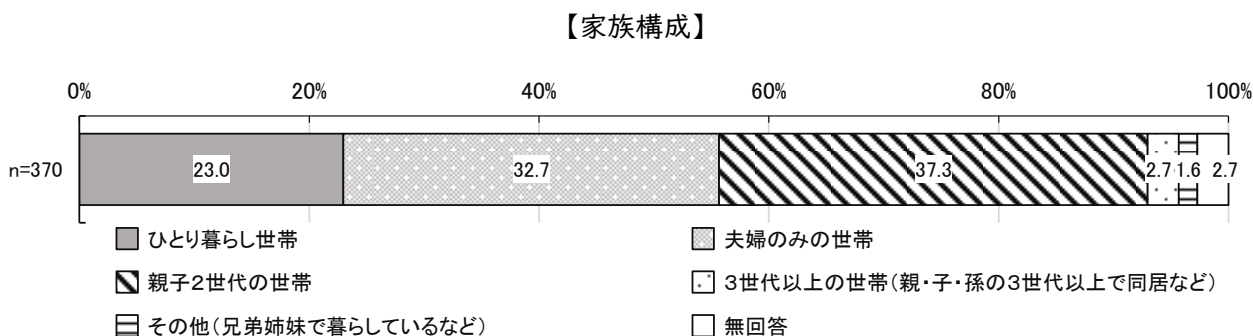
問4 あなたの職業をお答えください。(1つに○印)

職業については、「無職」が27.6%と最も高く、次いで「農林漁業」(13.8%)、「会社員・団体職員」(13.2%)、「公務員・教員」(12.2%)、「パート・アルバイト」(11.9%)、「家事専業」(6.8%)、「自営業」(4.6%)、「学生」(1.9%)の順となっています。



問5 あなたの家族構成についてお答えください。(1つに○印)

家族構成については、「親子2世代の世帯」が37.3%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」(32.7%)、「ひとり暮らし世帯」(23.0%)、「3世代以上の世帯(親・子・孫の3世代以上で同居など)」(2.7%)の順となっています。



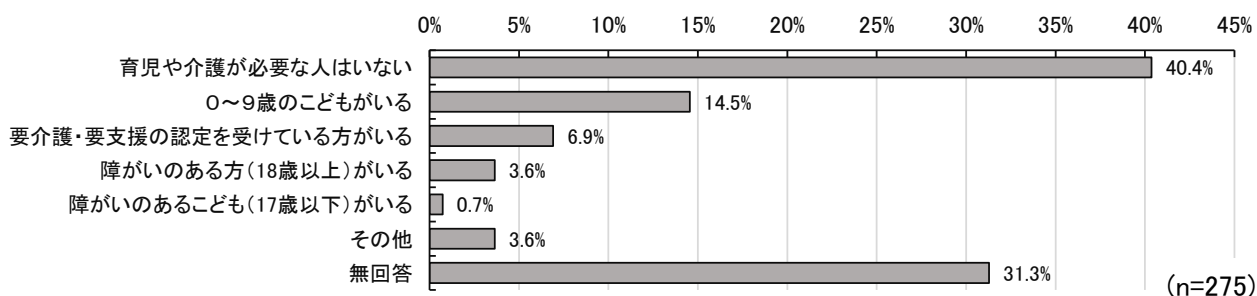
問5-1

問5で「2.」～「5.」と回答された方におたずねします。

現在、家族の中に育児や介護の必要な方がいらっしゃいますか。(〇印はいくつでも)

家族の中に育児や介護の必要な方がいるかについては、「育児や介護が必要な人はいない」が40.4%と最も高く、次いで「0～9歳のこどもがいる」(14.5%)、「要介護・要支援の認定を受けている方がいる」(6.9%)、「障がいのある方(18歳以上)がいる」(3.6%)、「障がいのあるこども(17歳以下)がいる」(0.7%)の順となっています。

【育児や介護の有無】



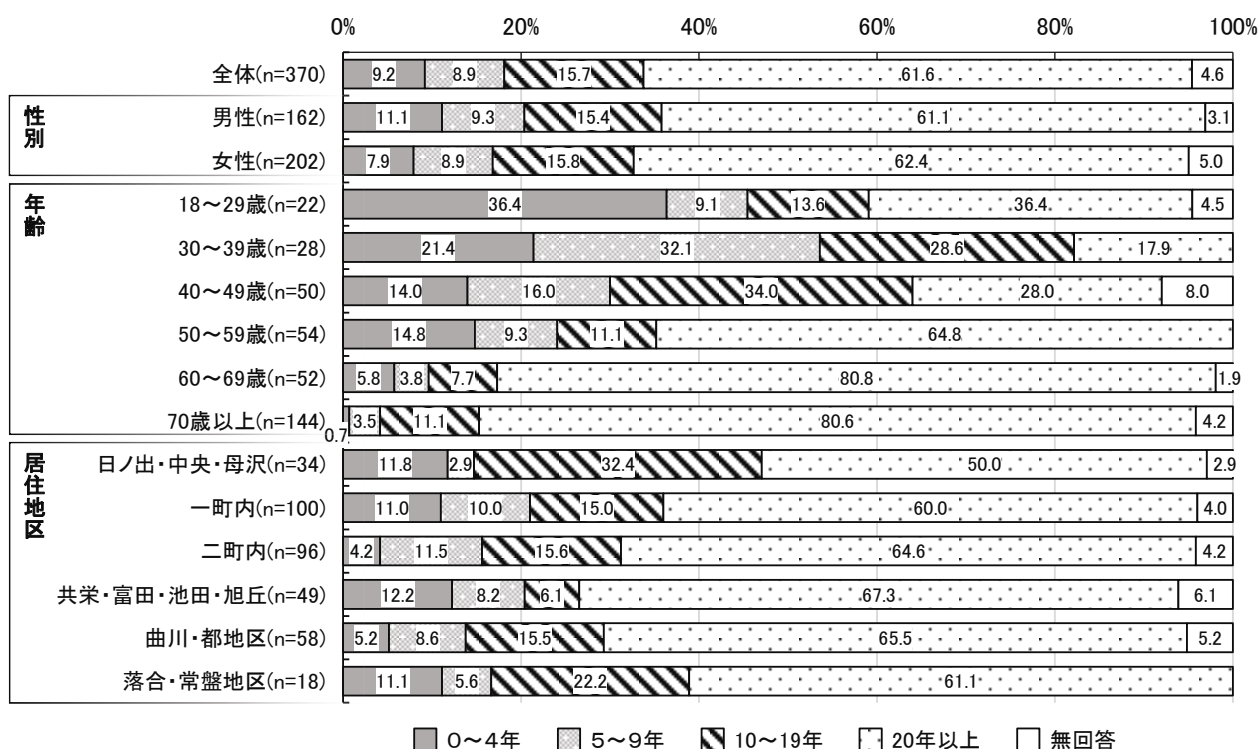
問6

あなたは赤井川村に何年間住んでいますか。(1つに〇印)

赤井川村の居住歴については、「20年以上」が61.6%と最も高く、次いで「10～19年」(15.7%)、「0～4年」(9.2%)、「5～9年」(8.9%)の順となっています。

属性別にみると、性別では、「0～4年」では、男性が11.1%で女性よりも割合がやや高くなっています。年齢では、「0～4年」では、18～29歳が36.4%で他の年代に比べて割合が高くなっています。居住地区別では、「10～19年」では、日ノ出・中央・母沢が32.4%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【居住歴】



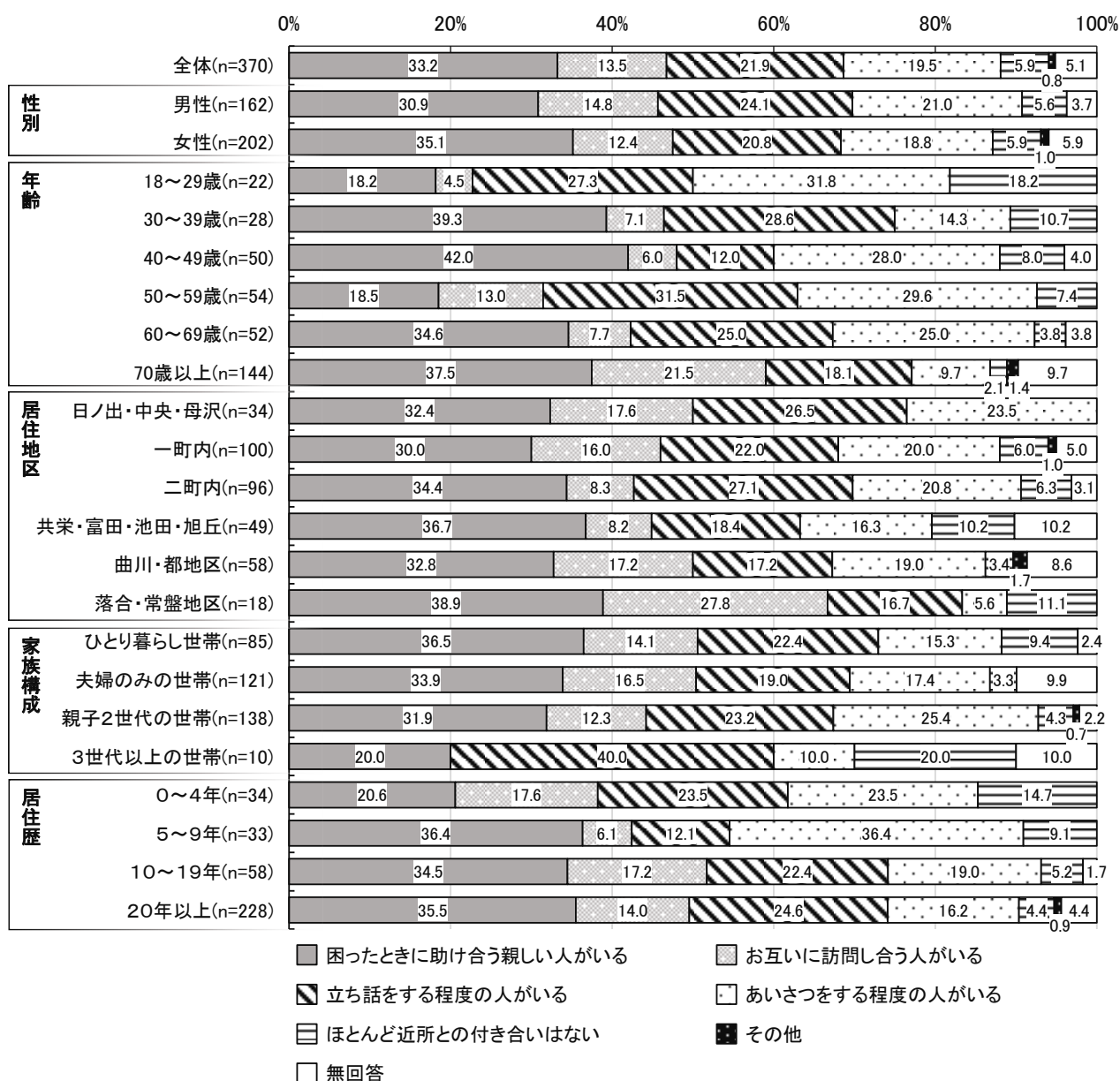
2 地域での付き合いや地域活動などについておたずねします。

問7 あなたは、ふだん、近所との付き合いはどの程度ですか。(1つに○印)

近所との付き合いについては、「困ったときに助け合う親しい人がいる」が33.2%と最も高く、次いで「立ち話をする程度の人がある」(21.9%)、「あいさつをする程度の人がある」(19.5%)、「お互いに訪問し合う人がある」(13.5%)、「ほとんど近所との付き合いはない」(5.9%)の順となっています。

属性別にみると、性別では、「困ったときに助け合う親しい人がいる」では、女性が35.1%で男性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「困ったときに助け合う親しい人がいる」では、40～49歳が42.0%で他の年代に比べて割合が高くなっています。家族構成別では、「立ち話をする程度の人がある」では、3世代以上の世帯が40.0%で他の家族構成に比べて割合が高くなっています。居住歴別では、「お互いに訪問し合う人がある」では、5～9年が6.1%で他の居住歴に比べて割合が低くなっています。

【近所付き合いの程度について】

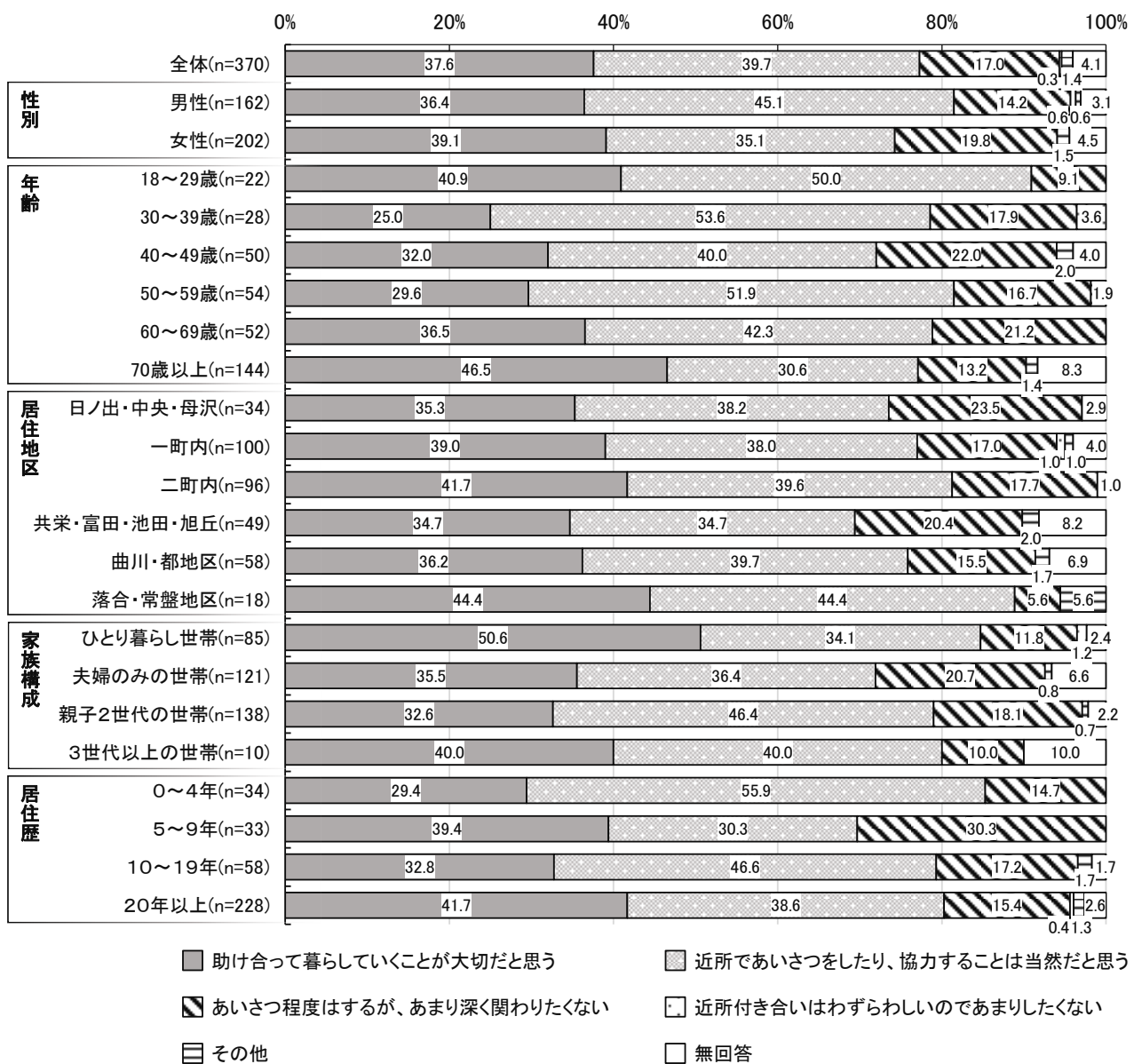


問8 あなたは、近所付き合いについてどのようにお考えですか。(1つに○印)

近所付き合いについてどのように考えているかについては、「近所であいさつをしたり、協力することは当然だと思う」が39.7%と最も高く、次いで「助け合って暮らしていくことが大切だと思う」(37.6%)、「あいさつ程度はするが、あまり深く関わりたくない」(17.0%)、「近所付き合いはわずらわしいのであまりしたくない」(0.3%)の順となっています。

属性別にみると、性別では、「近所であいさつをしたり、協力することは当然だと思う」では、男性が45.1%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「助け合って暮らしていく事が大切だと思う」では、30～39歳が25.0%で他の年代に比べて割合が低くなっています。家族構成別では、「助け合って暮らしていくことが大切だと思う」では、ひとり暮らし世帯が50.6%で他の家族構成に比べて割合が高くなっています。居住歴別では、「近所であいさつをしたり、協力することは当然だと思う」では、0～4年が55.9%で他の居住歴に比べて割合が高くなっています。

【近所付き合いについて】

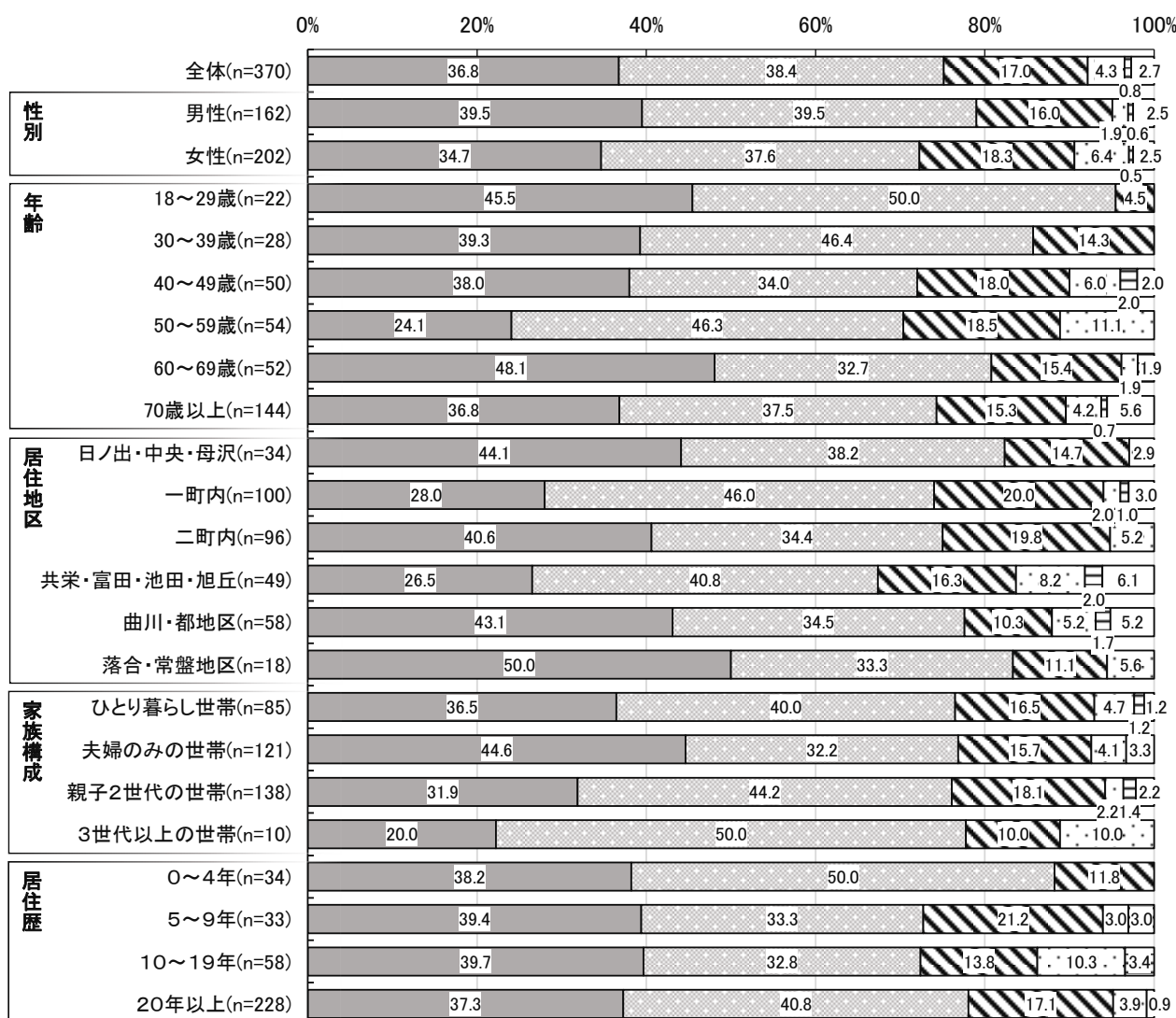


問9 あなたは、現在の近所付き合いに満足していますか。(1つに○印)

近所付き合いの満足度については、「ある程度満足している」が38.4%と最も高く、次いで「満足している」(36.8%)、「どちらともいえない」(17.0%)、「少し不満がある」(4.3%)、「大いに不満がある」(0.8%)の順となっています。

属性別にみると、「満足している」では、男性が39.5%で女性よりも割合がやや高くなっています。年齢別では、「満足している」では、50歳～59歳が24.1%で他の年代に比べて割合が低くなっています。家族構成別では、「満足している」では、3世代以上の世帯が20.0%で他の家族構成に比べて割合が低くなっています。居住歴別では、「ある程度満足している」では、0～4年が50.0%で他の居住歴に比べて割合が高くなっています。

【近所付き合いの満足度】

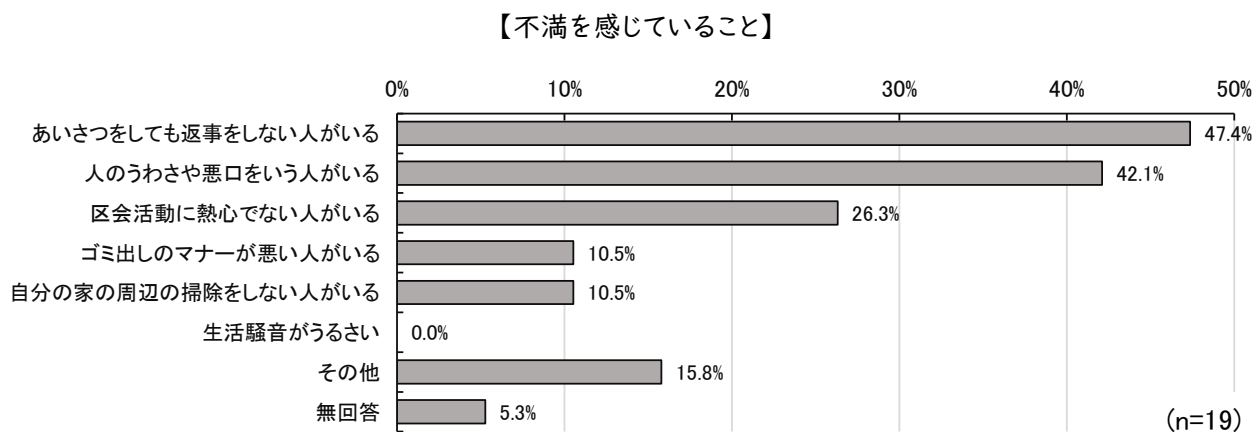


■ 満足している ■ ある程度満足している ▨ どちらともいえない □ 少し不満がある ▨ 大いに不満がある □ 無回答

問9-1

問9で「4. 少し不満がある」または「5. 大いに不満がある」と回答された方におたずねします。
どんなことに不満を感じていますか。(〇印はいくつでも)

どんなことに不満を感じているかについては、「あいさつをしても返事をしない人がいる」が47.4%と最も高く、次いで「人のうわさや悪口をいう人がいる」(42.1%)、「区会活動に熱心でない人がいる」(26.3%)等の順となっています。

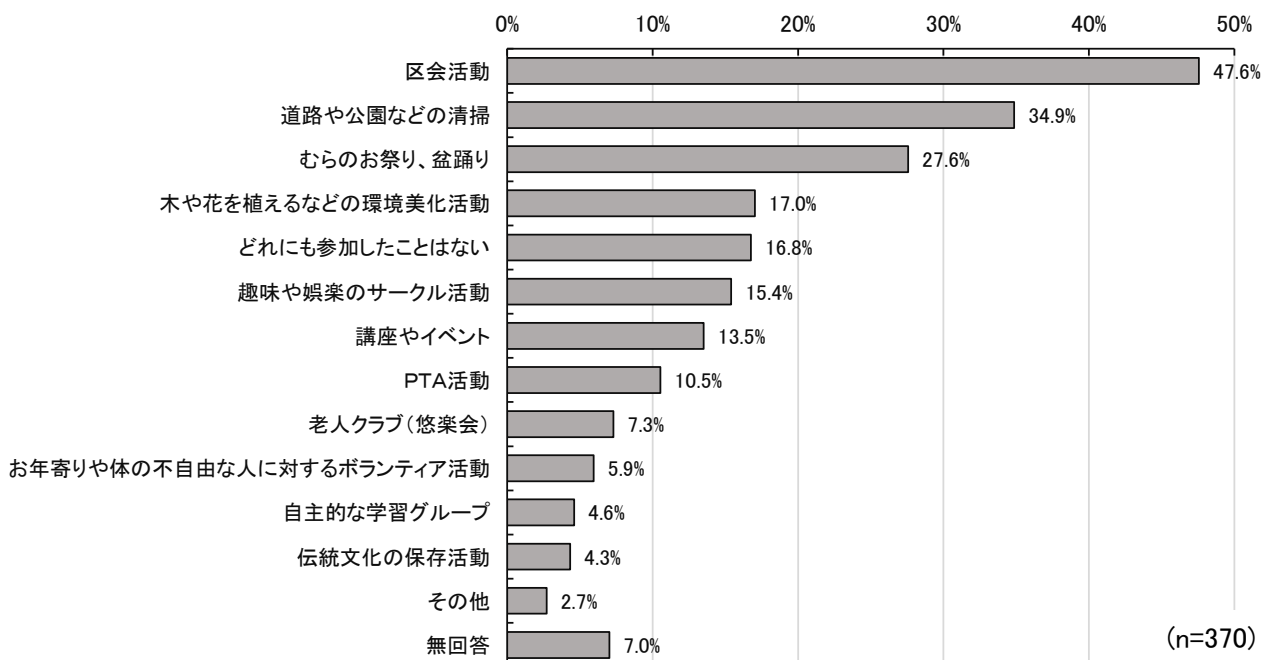


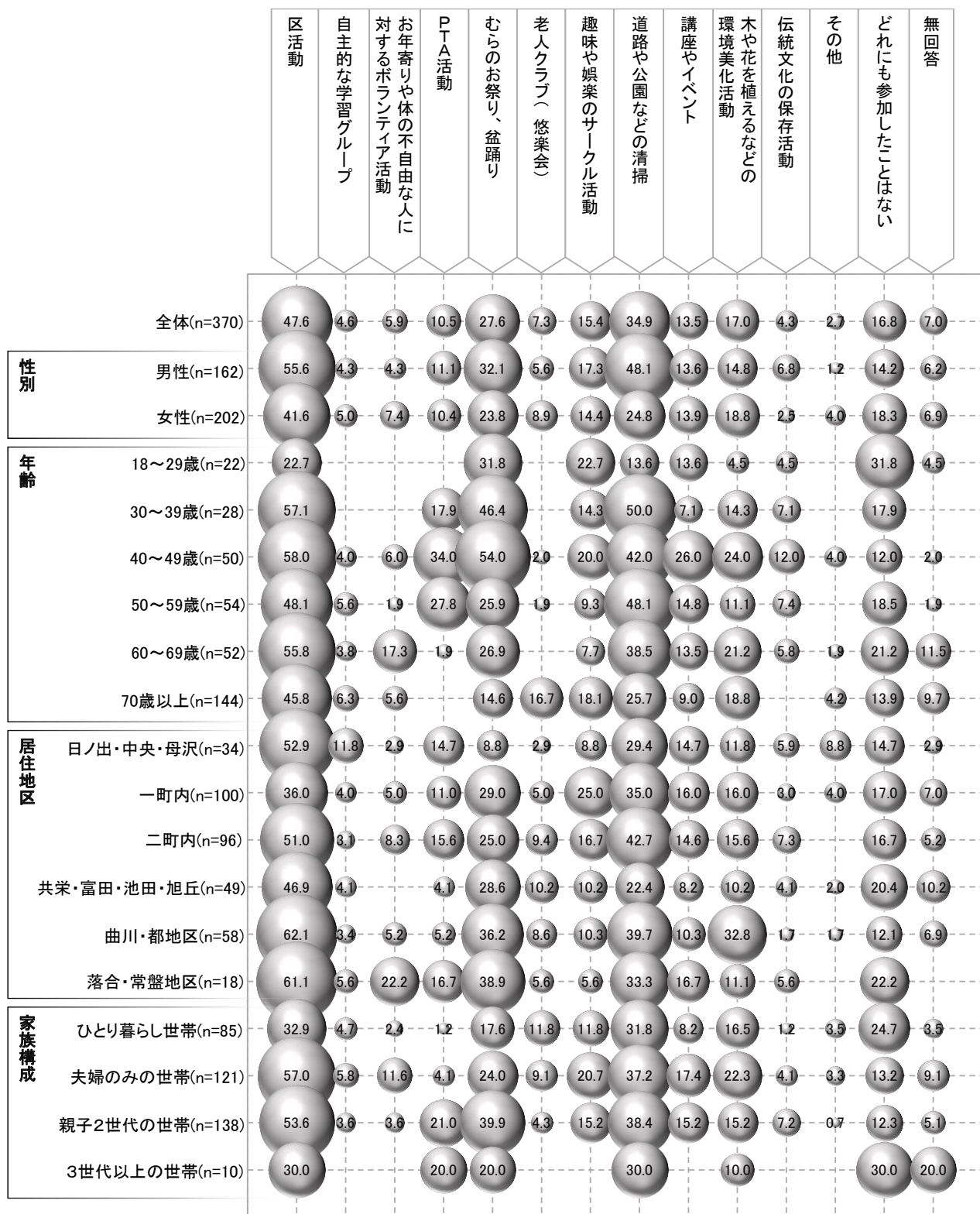
問10 あなたは、最近1年間で次の地域の行事や催しに参加したことがありますか。(〇印はいくつでも)

最近1年間で参加した地域の行事や催しについては、「区会活動」が47.6%と最も高く、次いで「道路や公園などの清掃」(34.9%)、「むらのお祭り、盆踊り」(27.6%)、「木や花を植えるなどの環境美化活動」(17.0%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「道路や公園などの清掃」では、男性が48.1%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「むらのお祭り、盆踊り」では、40～49歳が54.0%で他の年代に比べて割合が高くなっています。居住地区別では、「木や花を植えるなどの環境美化活動」では、曲川・都地区が32.8%で他の地区に比べて割合が高くなっています。家族構成別では、「むらのお祭り、盆踊り」では、親子2世代の世帯が39.9%で他の家族構成に比べて割合が高くなっています。

【最近1年間で参加した地域の行事や催し】





問10-1

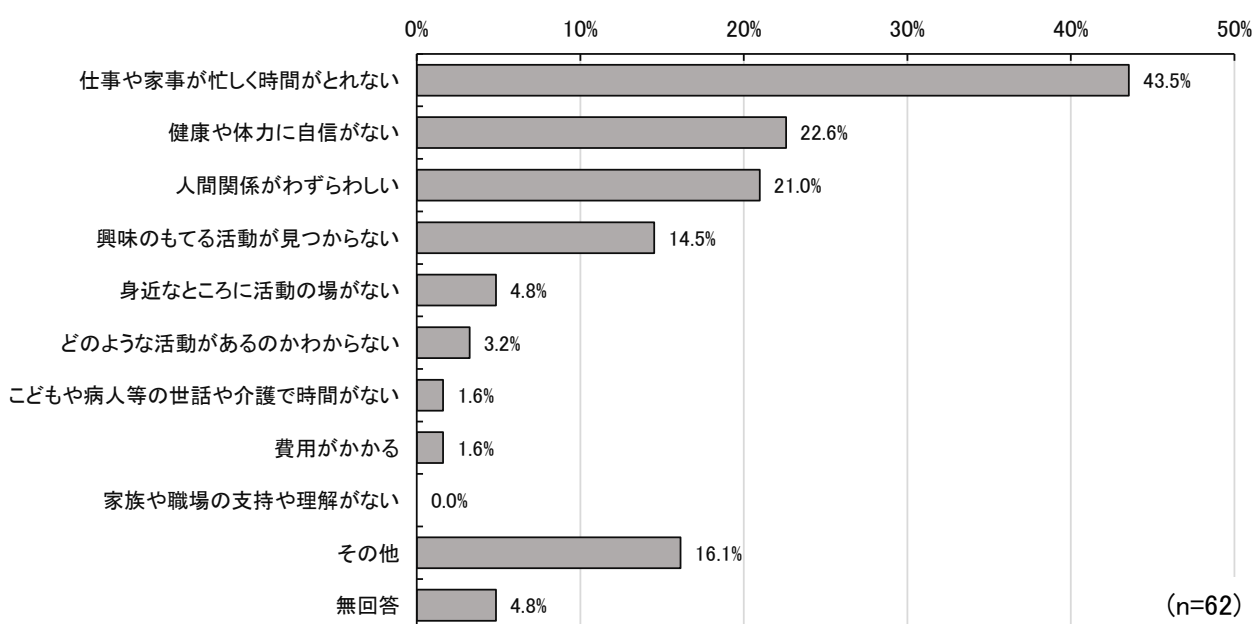
問10で「13. どれにも参加したことはない」と回答された方におたずねします。

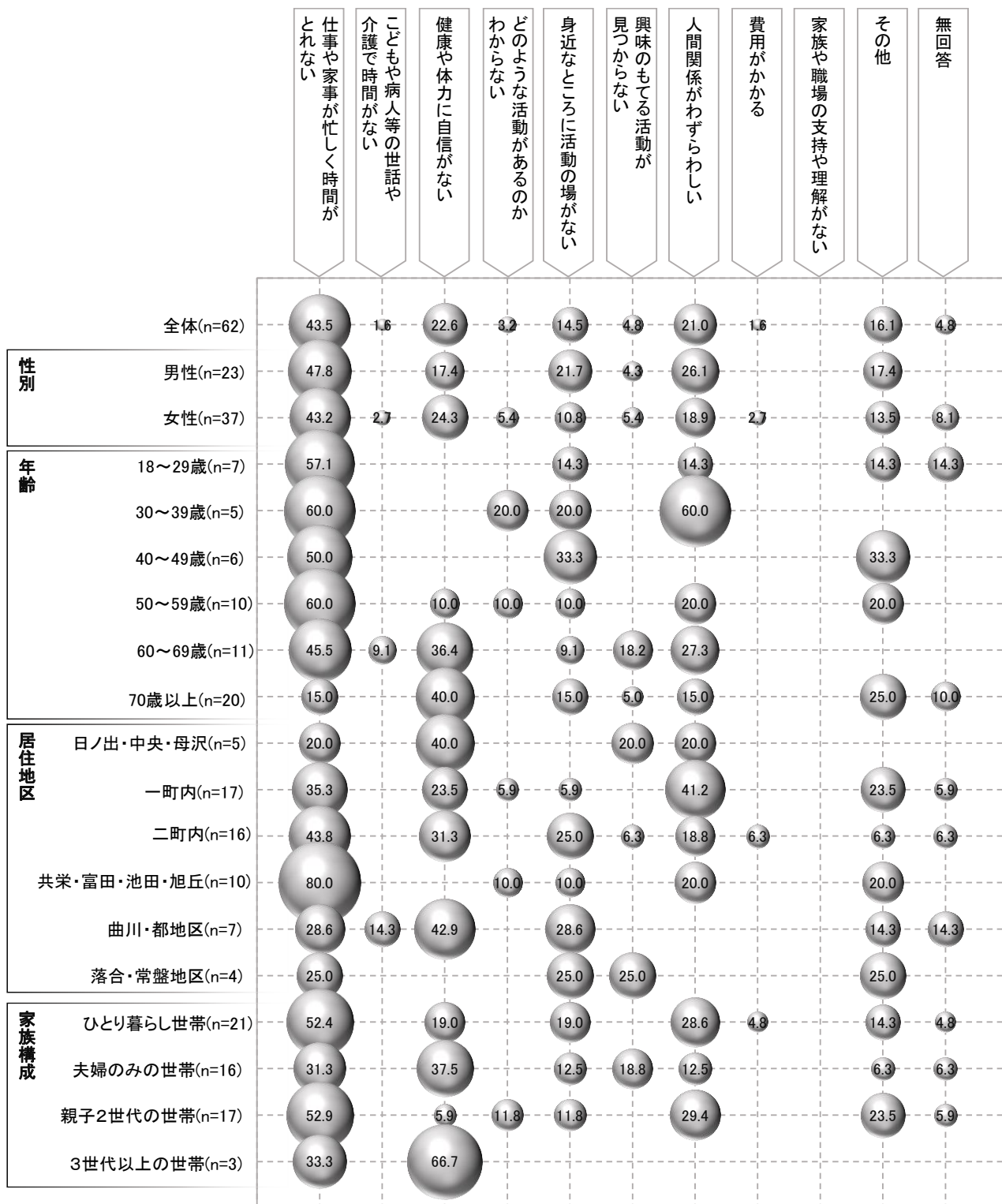
あなたは、地域の行事や催しに参加しなかった理由は何ですか。(〇印はいくつでも)

地域の行事や催しに参加しなかった理由については、「仕事や家事が忙しく時間がとれない」が43.5%と最も高く、次いで「健康や体力に自信がない」(22.6%)、「人間関係がわずらわしい」(21.0%)、「興味のもてる活動が見つからない」(14.5%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「身近なところに活動の場がない」では、男性が21.7%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「人間関係がわずらわしい」では、30歳～39歳が60.0%で他の年齢に比べて割合が高くなっています。家族構成別では、「健康や体力に自信がない」では、3世代以上の世帯が66.7%で他の家族構成に比べて割合が高くなっています。

【地域の行事や催しに参加しなかった理由】



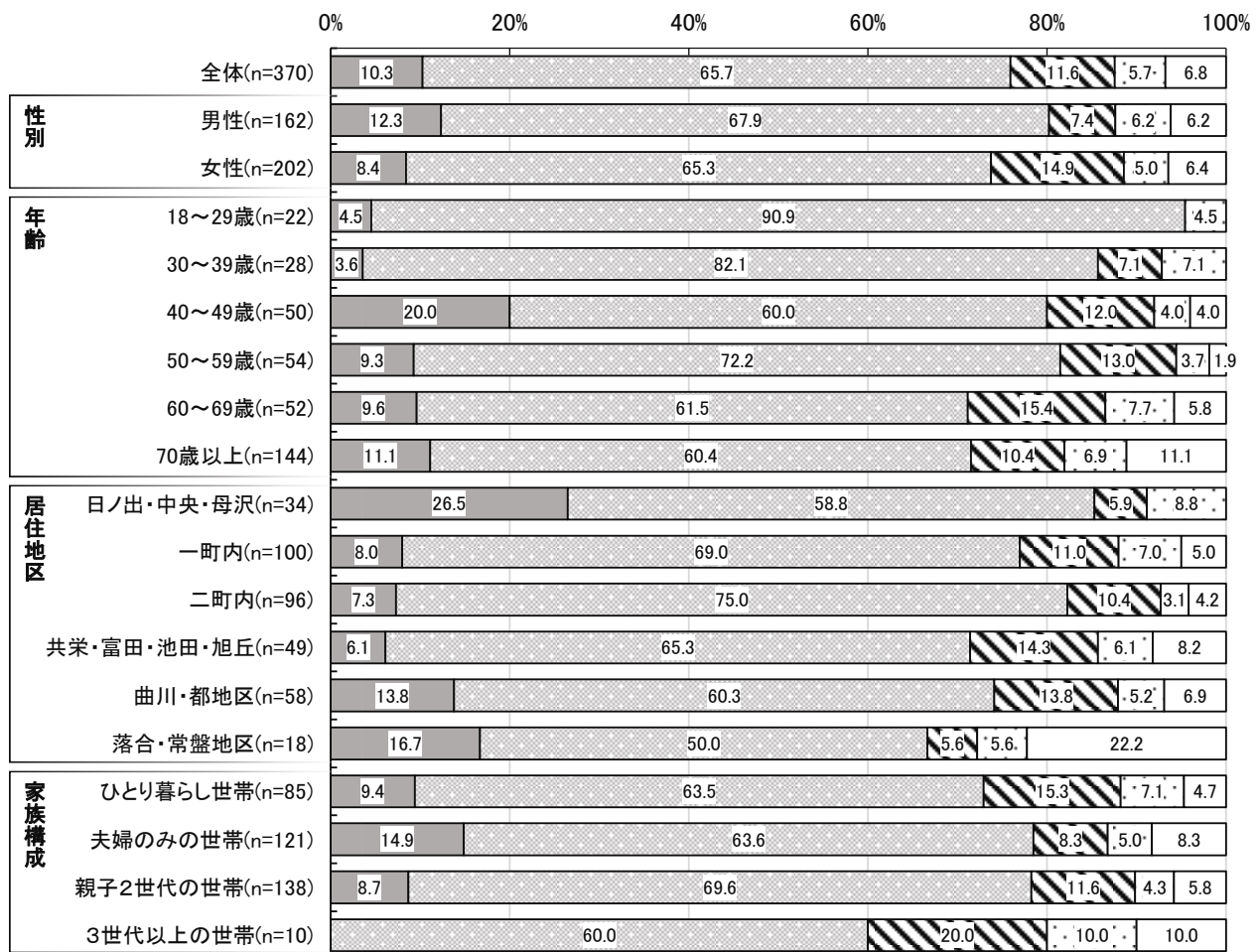


問11 あなたは、今後、地域活動に参加したいですか。(1つに○印)

今後、地域活動に参加したいかどうかについては、「機会があれば参加したい」が65.7%と最も高く、次いで「あまり参加したくない」(11.6%)、「是非参加したい」(10.3%)、「参加したくない」(5.7%)の順となっています。

属性別にみると、性別では、「あまり参加したくない」では、女性が14.9%で男性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「是非参加したい」では、40～49歳が20.0%で他の年代に比べて割合が高くなっています。居住地区別では、「是非参加したい」では、日ノ出・中央・母沢が26.5%で他の地区に比べて割合が高くなっています。家族構成別では、「あまり参加したくない」では、3世代以上の世帯が20.0%で他の家族構成に比べて割合が高くなっています。

【地域活動に参加したいか】



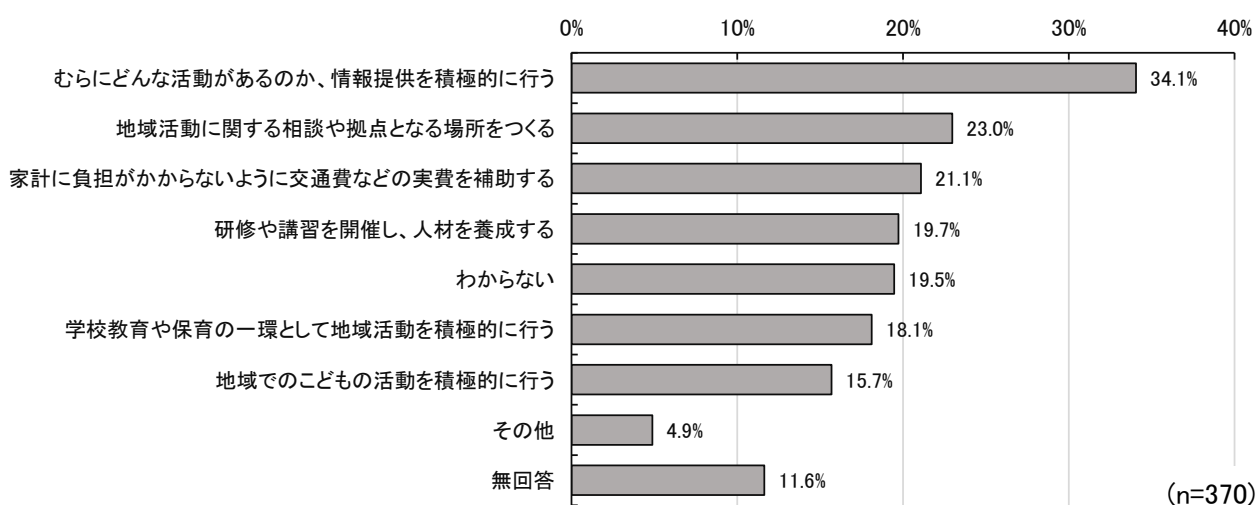
■ 是非参加したい ■ 機会があれば参加したい ■ あまり参加したくない □ 参加したくない □ 無回答

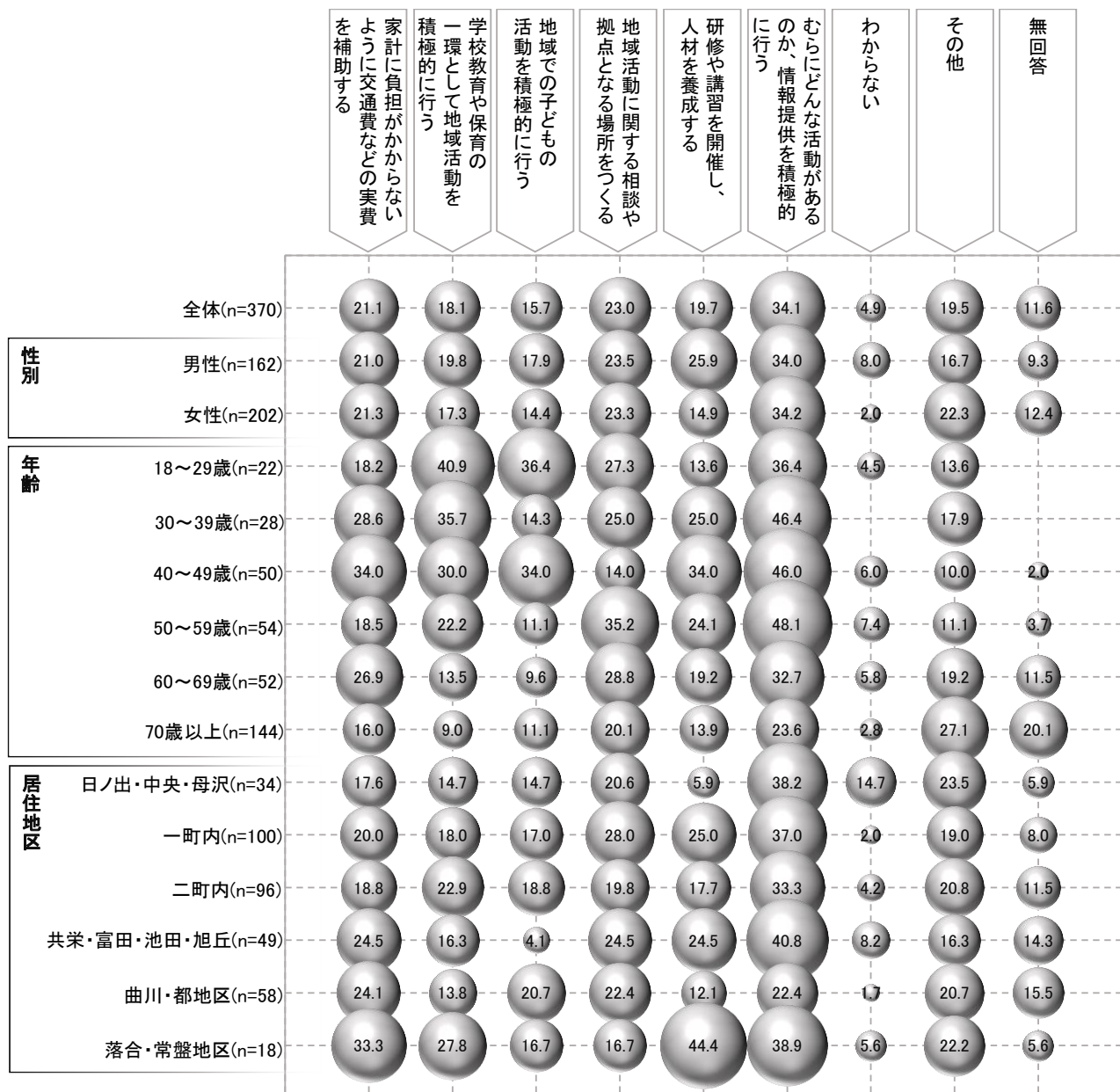
問12 あなたは、地域活動を活発にしていくためには何が必要だと思いますか。(〇印は3つまで)

地域活動を活発にしていくために必要だと思うことについては、「むらにどんな活動があるのか、情報提供を積極的に行う」が34.1%と最も高く、次いで「地域活動に関する相談や拠点となる場所を作る」(23.0%)、「家計に負担がかからないように交通費などの実費を補助する」(21.1%)、「研修や講習を開催し、人材を養成する」(19.7%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「研修や講習を開催し、人材を養成する」では、男性が25.9%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「地域活動に関する相談や拠点となる場所をつくる」では、40～49歳が14.0%で他の年代に比べて割合が低くなっています。

【地域活動を活発にしていくために必要だと思うこと】



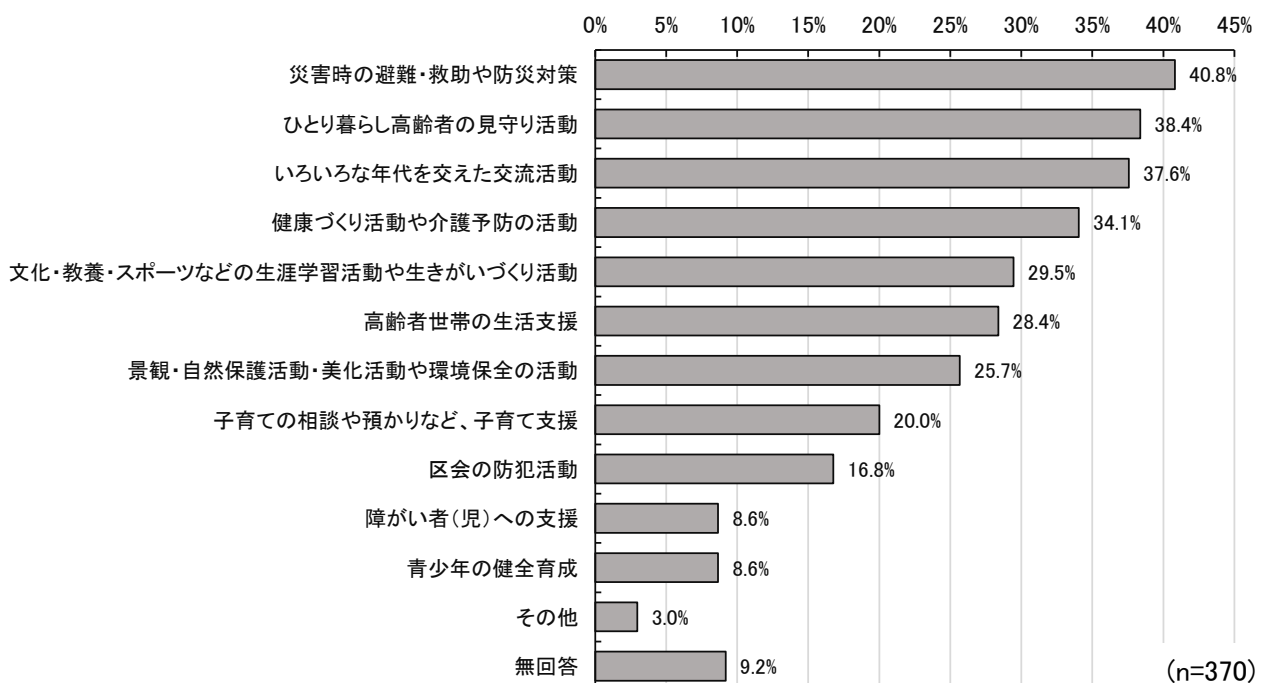


問13 あなたは、地域の人みんなで協力して行った方がいいと思うのはどのようなことですか。(〇印は5つまで)

地域の人みんなで協力して行った方がいいと思うことについては、「災害時の避難・救助や防災対策」が40.8%と最も高く、次いで「ひとり暮らしの高齢者の見守り活動」(38.4%)、「いろいろな年代を交えた交流活動」(37.6%)、「健康づくり活動や介護予防の活動」(34.1%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「文化・教養・スポーツなどの生涯学習活動や生きがいがづくり活動」では、男性が37.7%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「区会の防犯活動」では、60歳～69歳が25.0%で他の年代に比べて割合が高くなっています。居住地区別では、「ひとり暮らしの高齢者の見守り活動」では、落合・常盤地区が55.6%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【地域の人みんなで協力して行った方がいいと思うこと】



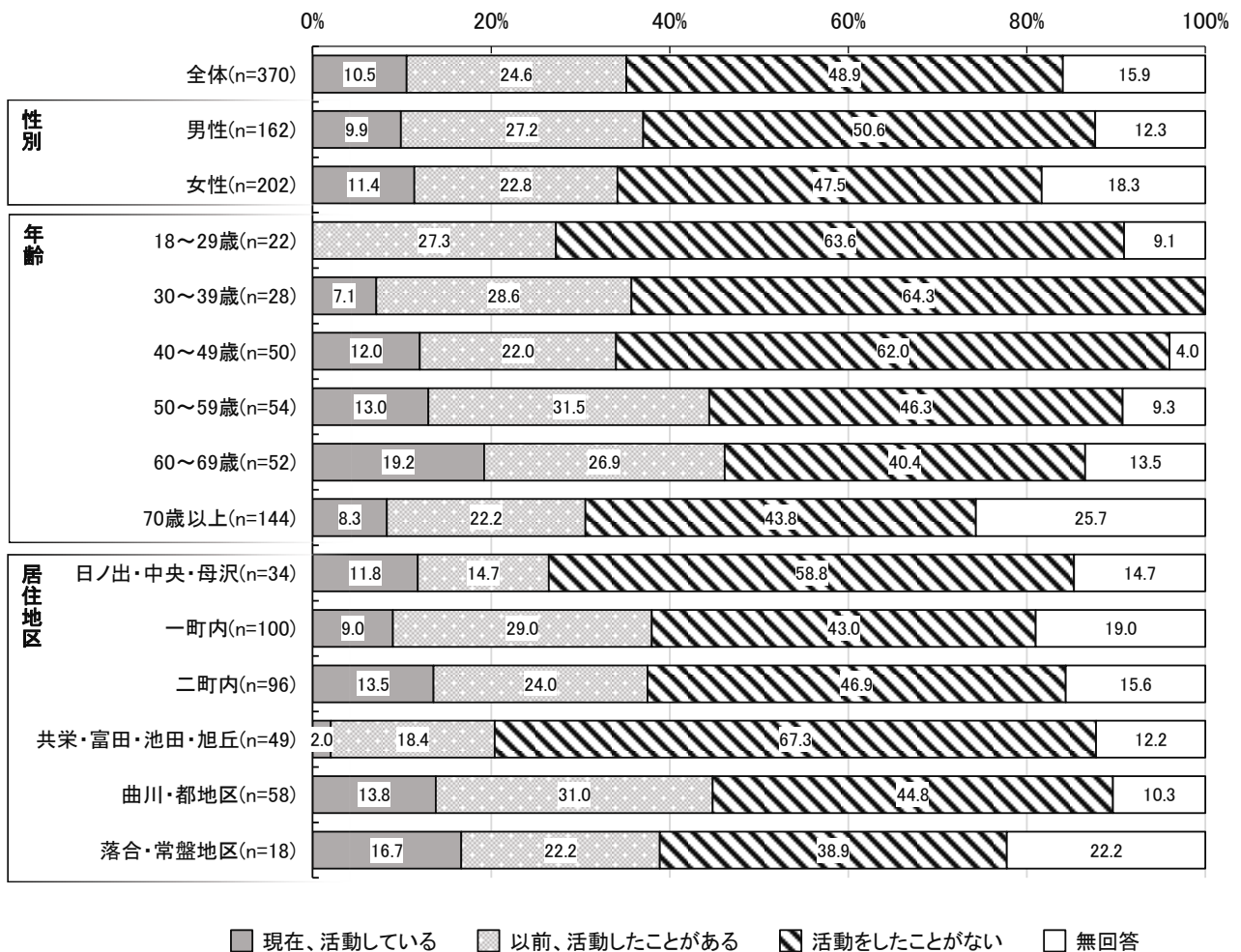
		健康づくり活動や介護予防の活動	文化・教養・スポーツなどの生涯学習活動や生きがいの活動	いろいろな年代を交えた交流活動	災害時の避難・救助や防災対策	区会の防犯活動	景観・自然保護活動・美化活動や環境保全の活動	子育ての相談や預かりなど、子育て支援	ひとり暮らし高齢者の見守り活動	高齢者世帯の生活支援	障がい者(児)への支援	青少年の健全育成	その他	無回答
性別	全体(n=370)	34.1	29.5	37.6	40.8	16.8	25.7	20.0	38.4	28.4	8.6	8.6	3.0	9.2
	男性(n=162)	31.5	37.7	38.9	40.1	21.0	35.2	18.5	36.4	24.7	9.3	9.9	3.7	8.0
	女性(n=202)	36.6	22.8	37.6	42.1	13.4	18.8	20.8	40.1	30.7	8.4	7.4	2.0	9.4
年齢	18～29歳(n=22)	31.8	59.1	54.5	50.0	13.6	18.2	31.8	18.2	18.2		9.1		4.5
	30～39歳(n=28)	21.4	35.7	39.3	39.3	10.7	42.9	53.6	21.4	14.3	10.7	14.3	3.6	3.6
	40～49歳(n=50)	24.0	42.0	38.0	52.0	14.0	28.0	42.0	30.0	20.0	6.0	10.0	2.0	6.0
	50～59歳(n=54)	33.3	38.9	40.7	55.6	11.1	38.9	22.2	51.9	25.9	14.8	11.1	5.6	5.6
	60～69歳(n=52)	32.7	23.1	44.2	44.2	25.0	23.1	11.5	48.1	34.6	11.5	7.7		3.8
	70歳以上(n=144)	43.8	20.1	33.3	31.3	16.7	20.8	6.3	38.2	34.0	7.6	6.9	3.5	13.2
居住地区	日ノ出・中央・母沢(n=34)	26.5	44.1	32.4	32.4	8.8	32.4	17.6	32.4	32.4	11.8		11.8	5.9
	一町内(n=100)	40.0	36.0	41.0	45.0	17.0	30.0	25.0	36.0	31.0	7.0	11.0	4.0	7.0
	二町内(n=96)	32.3	25.0	41.7	44.8	15.6	27.1	18.8	35.4	21.9	6.3	12.5		10.4
	共栄・富田・池田・旭丘(n=49)	36.7	24.5	32.7	34.7	18.4	18.4	18.4	46.9	34.7	12.2	4.1	2.0	8.2
	曲川・都地区(n=58)	31.0	24.1	34.5	37.9	19.0	24.1	20.7	37.9	29.3	10.3	6.9	1.7	6.9
	落合・常盤地区(n=18)	33.3	22.2	44.4	38.9	22.2	16.7	11.1	55.6	27.8	16.7	11.1		22.2

問14 あなたは、福祉ボランティア活動や助け合い活動を行ったことがありますか。(1つに○印)

福祉ボランティア活動や助け合い活動を行ったことがあるかについては、「現在、活動している」が10.5%、「以前、活動したことがある」が24.6%、「活動をしたことがない」が48.9%となっています。

属性別にみると、性別では、「以前、活動したことがある」では、男性が27.2%で女性よりも割合がやや高くなっています。年齢別では、「現在、活動している」では、60歳～69歳が19.2%で他の年代に比べて割合が高くなっています。

【福祉ボランティア活動や助け合い活動の経験の有無】



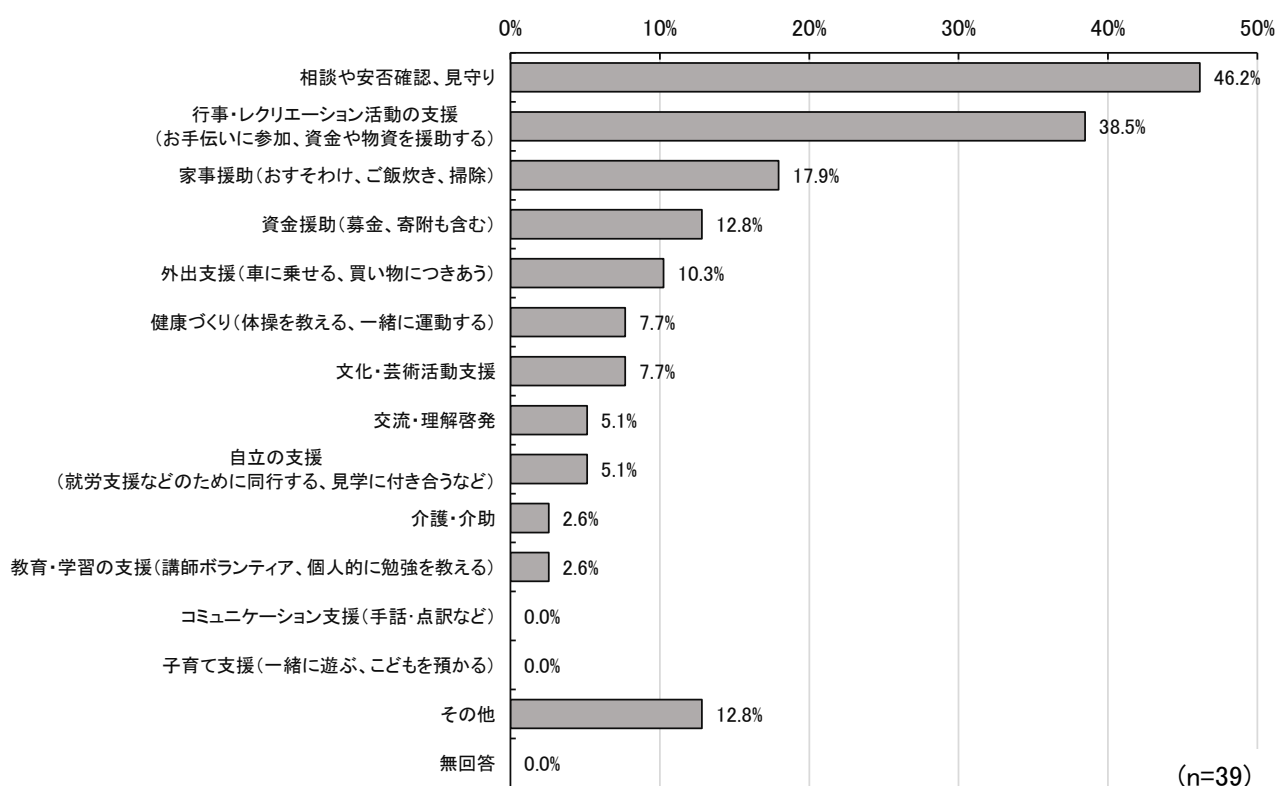
問14-1

問14で「1. 現在、活動している」と回答された方におたずねします。

あなたが現在取り組んでいる福祉ボランティア活動や助け合い活動の具体的な内容は次のどれですか。(〇印はいくつでも)

現在取り組んでいる福祉ボランティア活動や助け合い活動の具体的な内容については、「相談や安否確認、見守り」が46.2%と最も高く、次いで「行事・レクリエーション活動の支援(お手伝いに参加、資金や物資を援助する)」(38.5%)、「家事援助(おすそわけ、ご飯炊き、掃除)」(17.9%)、「資金援助(募金、寄付も含む)」(12.8%)等の順となっています。

【福祉ボランティア活動や助け合い活動の内容】

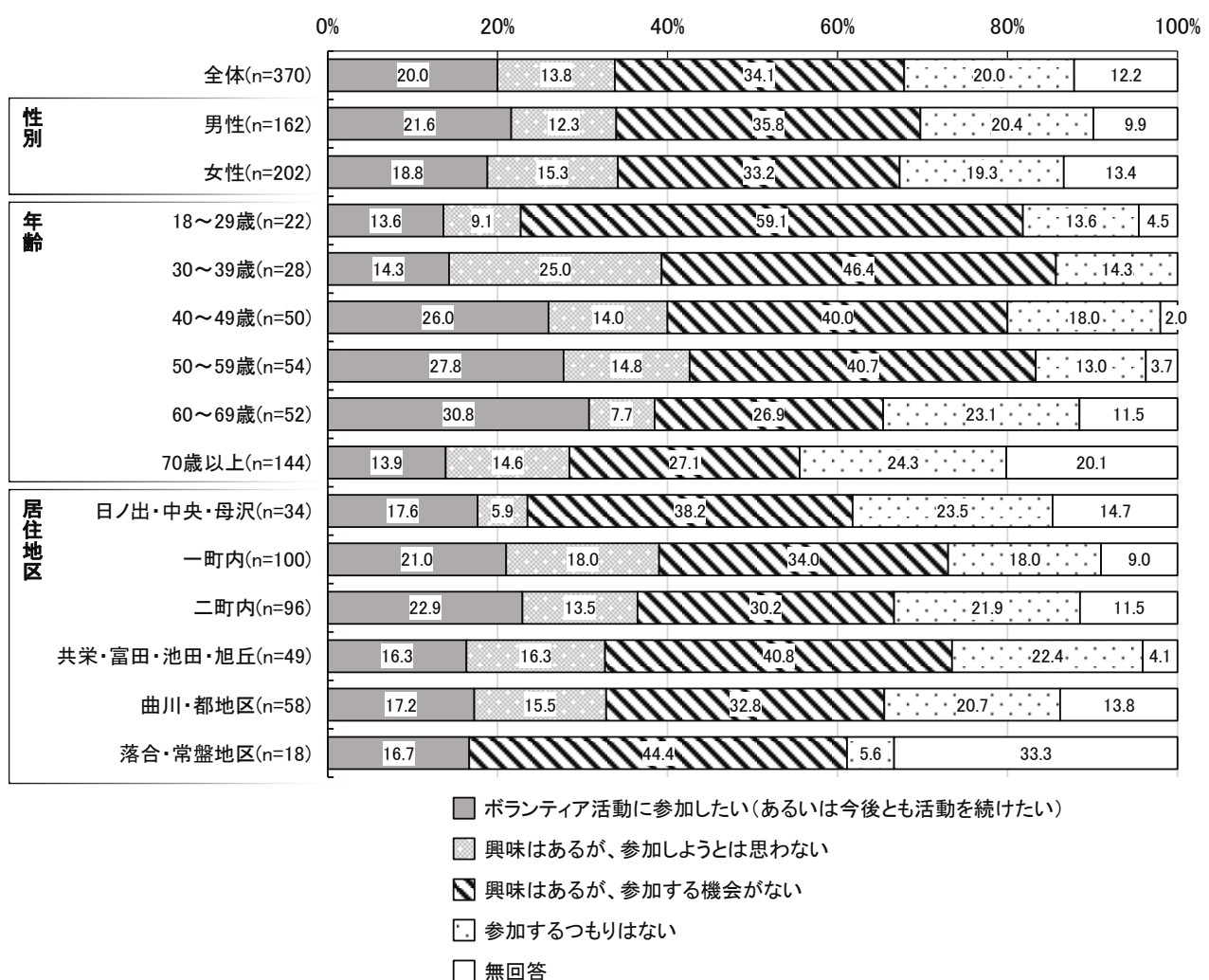


問15 あなたは、ボランティア活動に興味や参加の意向がありますか。(1つに○印)

ボランティア活動に興味や参加の意向があるかについては、「興味はあるが、参加する機会がない」が34.1%と最も高く、次いで「ボランティア活動には参加したい(あるいは今後とも活動を続けたい)」「参加するつもりはない」(それぞれ20.0%)、「興味はあるが、参加しようとは思わない」(13.8%)の順となっています。

属性別にみると、性別では、あまり大きな差はみられませんでした。年齢別では、「興味はあるが、参加する機会がない」では、18～29歳が59.1%で他の年代に比べて割合が高く、年齢が高くなるにつれ割合が低くなっています。

【福祉ボランティア活動に興味や参加の意向について】

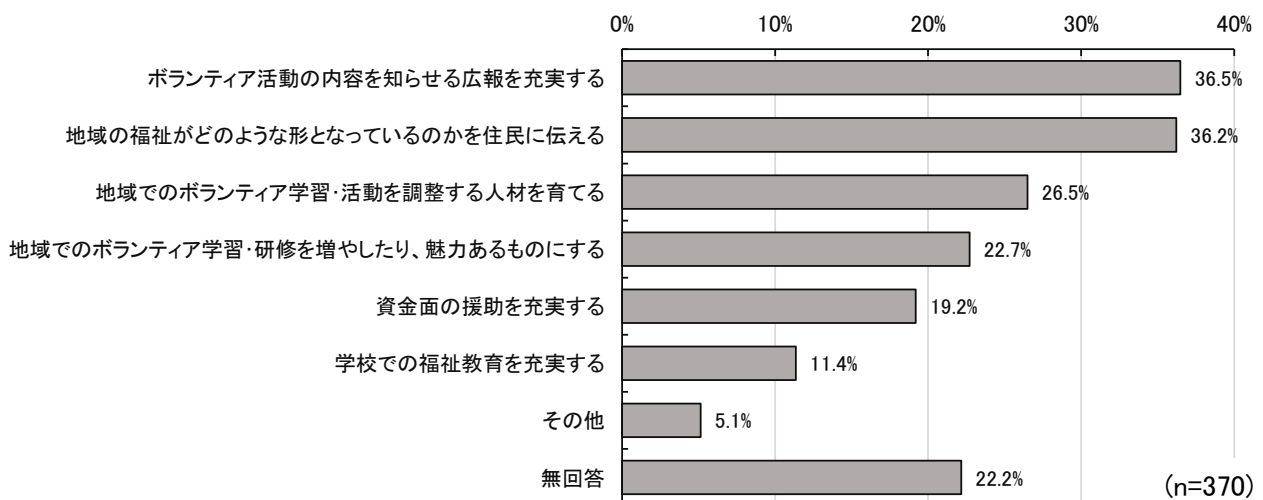


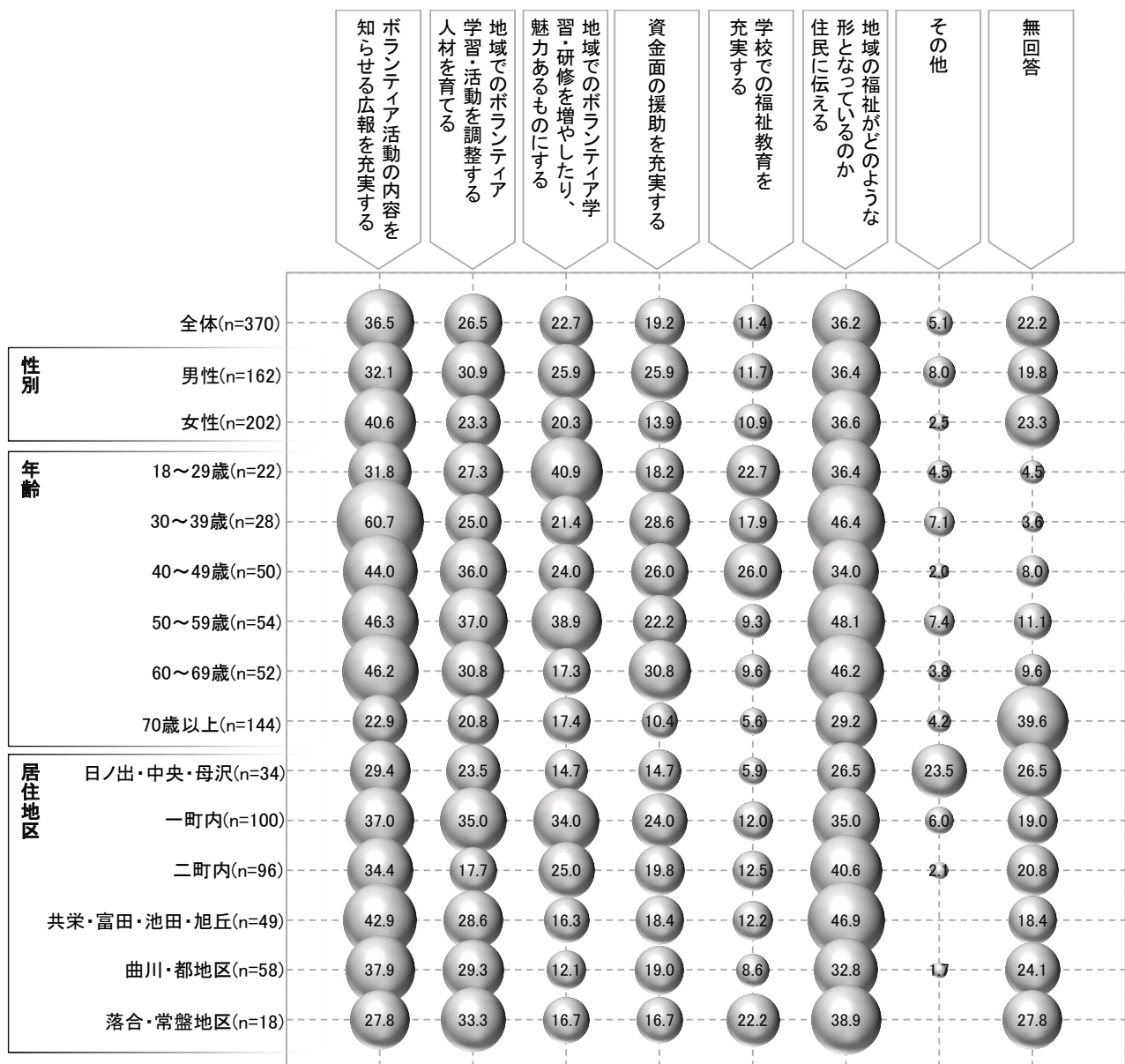
問16 あなたは、ボランティア活動の輪を広げるために、今後どのようなことが特に重要だと考えますか。(〇印は3つまで)

ボランティア活動を広げるために重要なことについては、「ボランティア活動の内容を知らせる広報を充実する」が36.5%と最も高く、次いで「地域の福祉がどのような形となっているのかを住民に伝える」(36.2%)、「地域でのボランティア学習・活動を調整する人材を育てる」(26.5%)、「地域でのボランティア学習・研修を増やしたり、魅力あるものにする」(22.7%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「資金面の援助を充実する」では、男性が25.9%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「ボランティア活動の内容を知らせる広報を充実する」では、30歳～39歳が60.7%で他の年代に比べて割合が高くなっています。居住地区別では、「学校での福祉教育を充実する」では、落合・常盤地区が22.2%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【ボランティア活動を広げるために重要なこと】





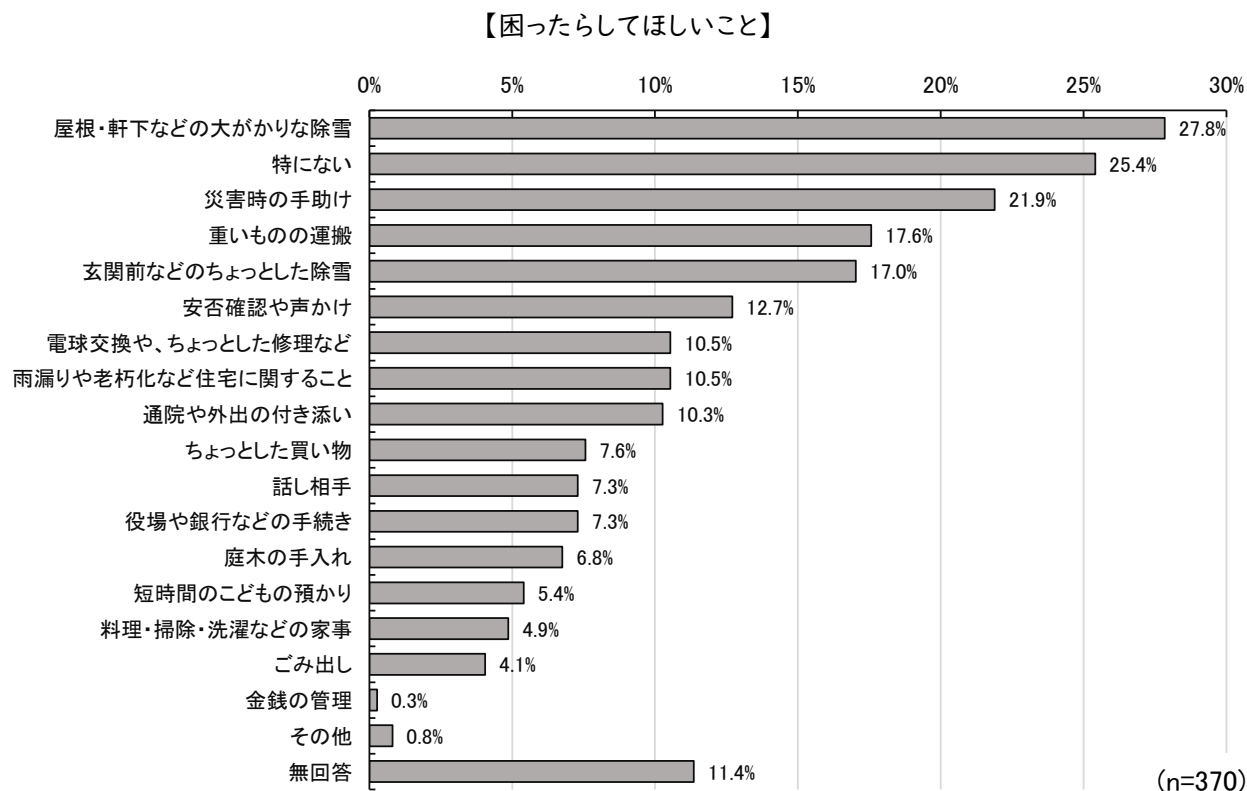
3 暮らしの中で困ったことや福祉情報などについておたずねします。

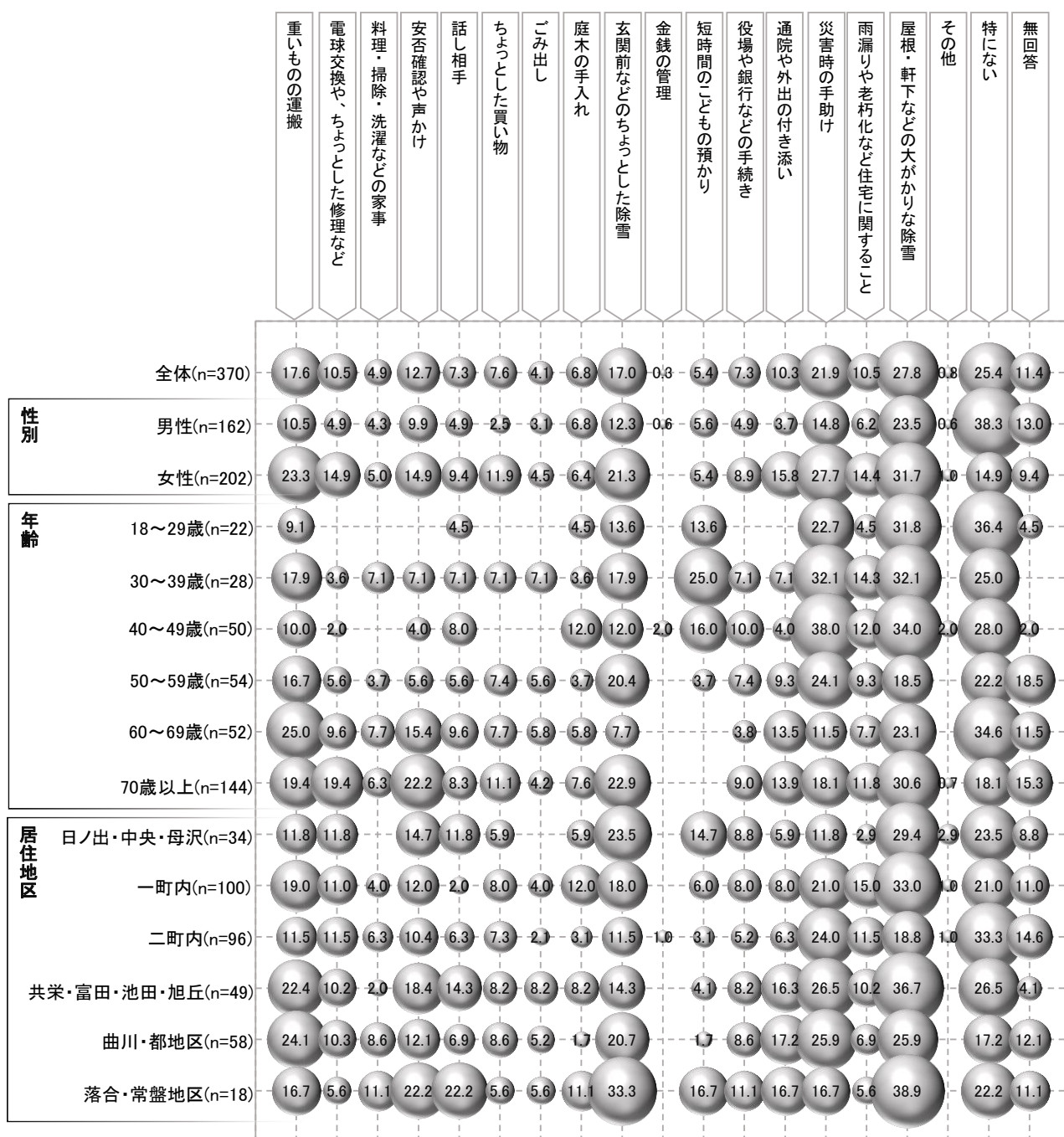
問17 あなたやご家族の日常生活での困りごとがあるとき、近所や地域に何をしてほしいですか。反対に、近所で困っている人や家庭に、あなたができることは何ですか。(それぞれ○印はいくつでも)

①困ったらあなたがしてほしいこと

困ったらしてほしいことについては、「屋根・軒下などの大がかりな除雪」が27.8%と最も高く、次いで、「特にない」(25.4%)、「災害時の手助け」(21.9%)、「重いものの運搬」(17.6%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「特にない」では、男性が38.3%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「玄関前などのちょっとした除雪」では、60歳～69歳が7.7%で他の年代に比べて割合が低くなっています。居住地区別では、「玄関前などのちょっとした除雪」では落合・常盤地区が33.3%で他の地区に比べて割合が高くなっています。



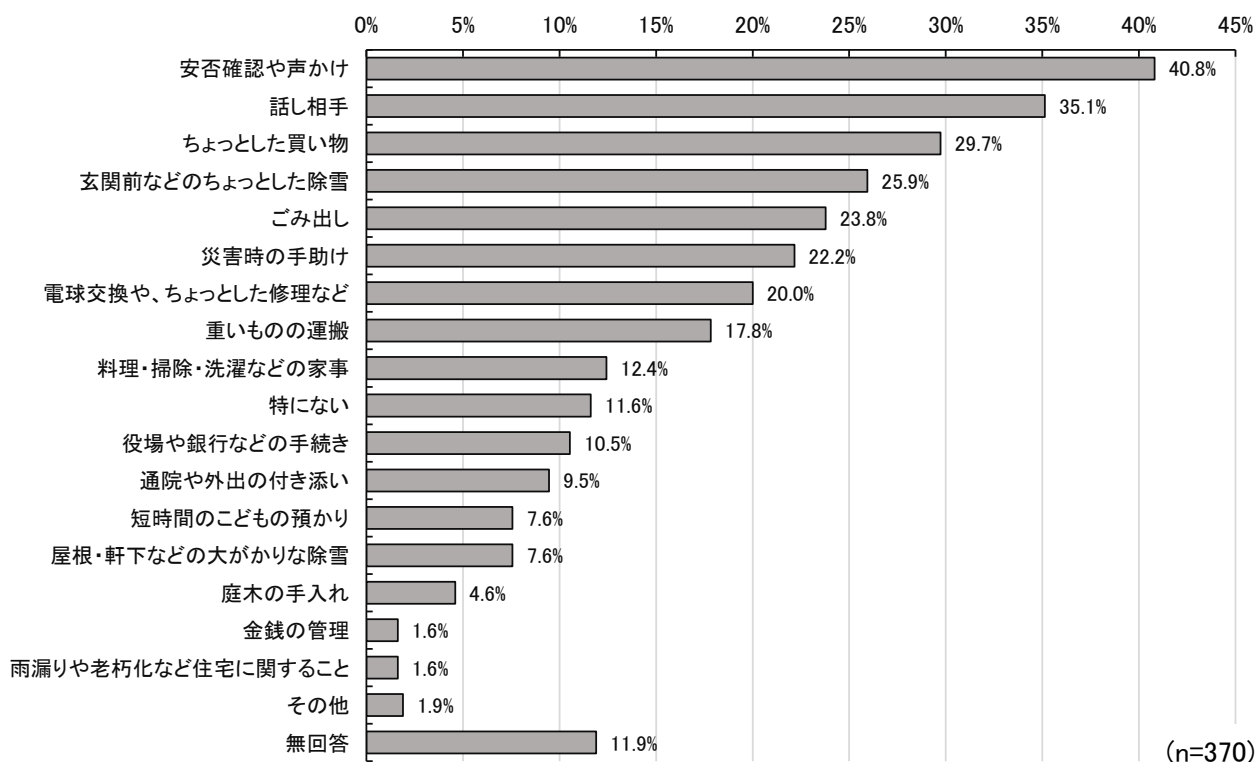


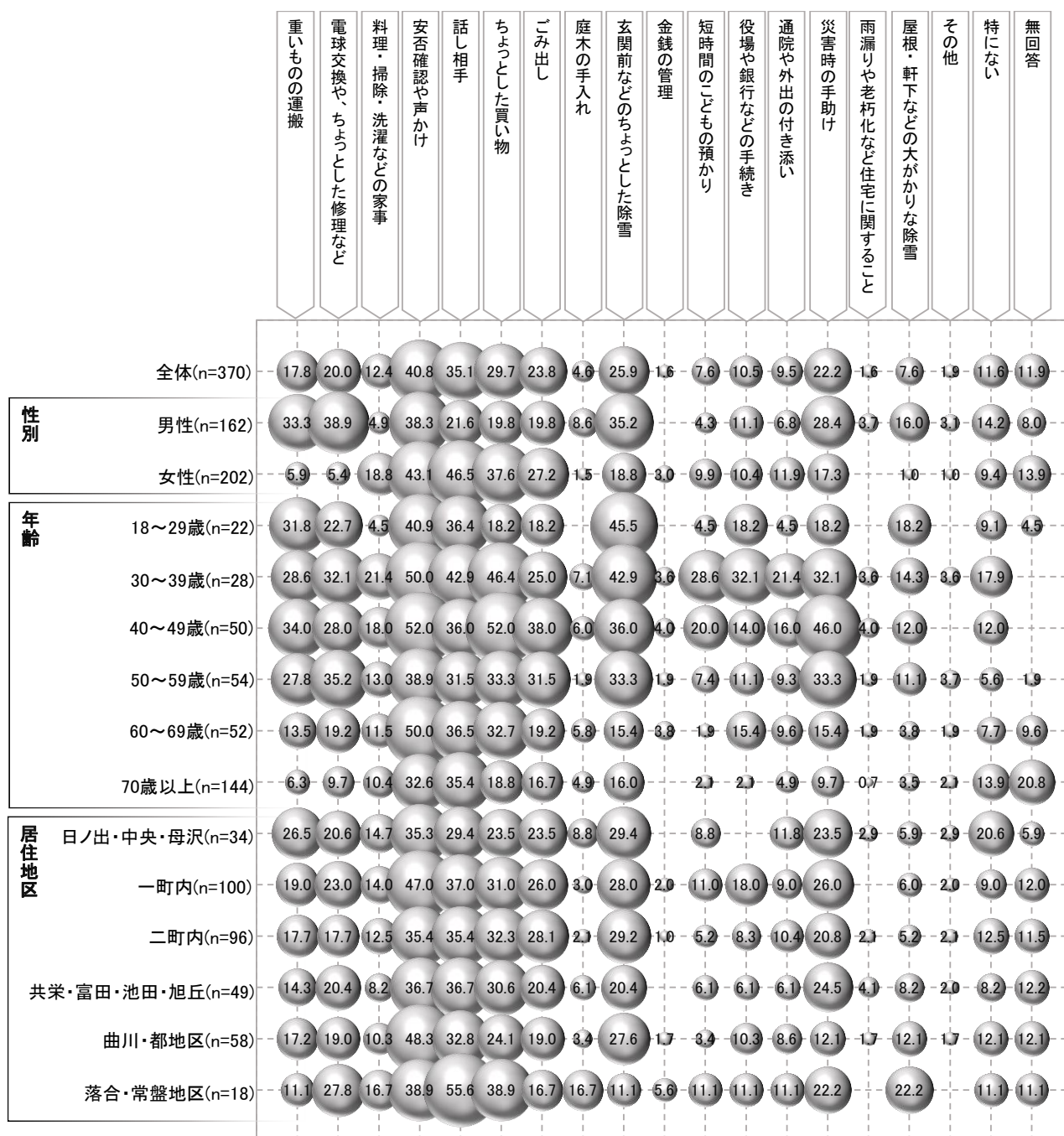
②困っている人にあなたができること

困っている人にあなたができることについては、「安否確認や声かけ」が40.8%と最も高く、次いで「話し相手」(35.1%)、「ちょっとした買い物」(29.7%)、「玄関前などのちょっとした除雪」(25.9%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「電球交換や、ちょっとした修理など」では、男性が38.9%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「災害時の手助け」では、40～49歳が46.0%で他の年代に比べて割合が高くなっています。居住地区別では、「話し相手」では、落合・常盤地区が55.6%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【困っている人にできること】



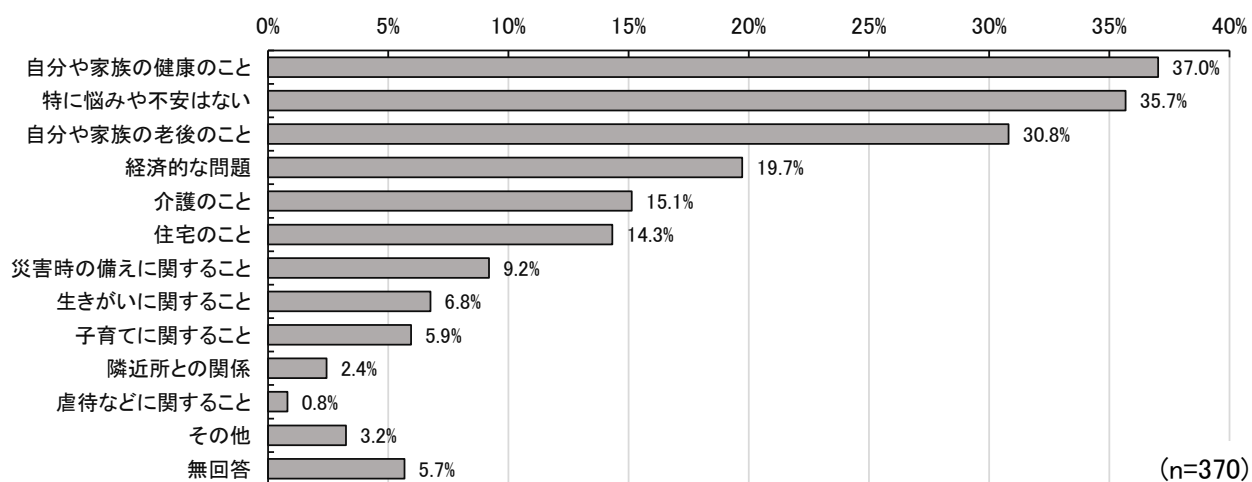


問18 あなたは、日常生活で悩みや不安を感じていますか。(〇印はいくつでも)

日常生活で悩みや不安を感じていることについては、「自分や家族の健康のこと」が37.0%と最も高く、次いで「特に悩みや不安はない」(35.7%)、「自分や家族の老後のこと」(30.8%)、「経済的な問題」(19.7%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「特に悩みや不安はない」では、男性が45.1%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「自分や家族の老後のこと」では、18~29歳が4.5%で他の年代に比べて割合が低くなっています。居住地区別では、「住宅のこと」では、一町内が22.0%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【日常生活で悩みや不安を感じていること】



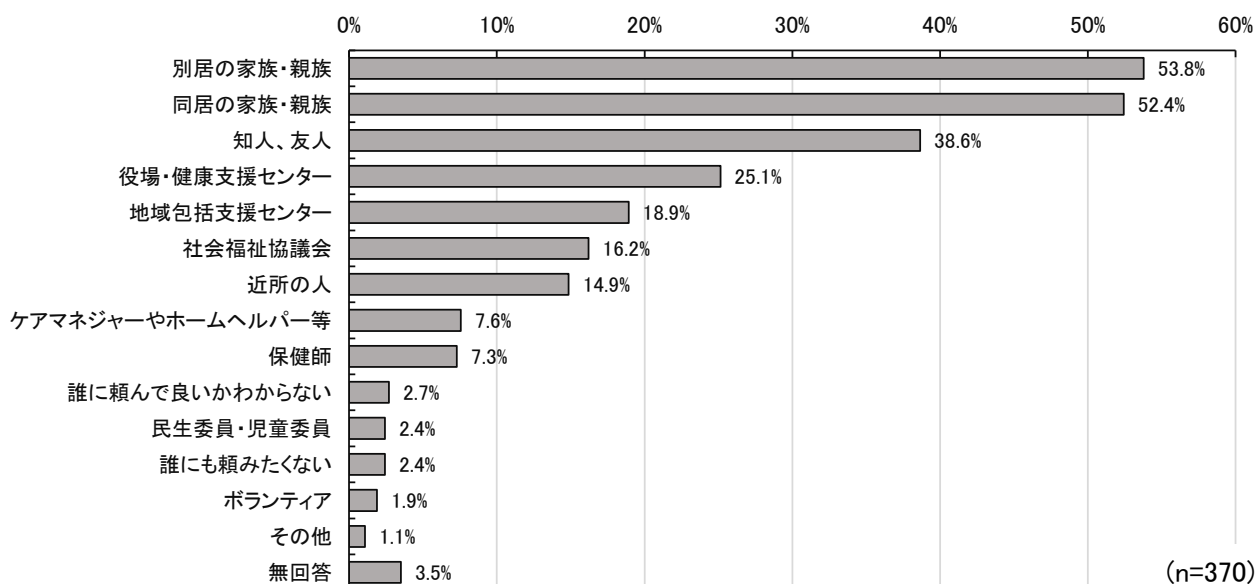
		特に悩みや不安はない	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	生きがいに関すること	子育てに関すること	介護のこと	経済的な問題	隣近所との関係	住宅のこと	災害時の備えに関すること	虐待などに関すること	その他	無回答
性別	全体(n=370)	35.7	37.0	30.8	6.8	5.9	15.1	19.7	2.4	14.3	9.2	0.8	3.2	5.7
	男性(n=162)	45.1	32.7	24.1	6.8	4.9	10.5	17.3	1.9	15.4	8.0	0.6	2.5	8.1
	女性(n=202)	28.2	41.1	36.6	6.9	6.4	19.3	21.8	2.5	13.4	10.4	1.0	3.5	7.4
年齢	18～29歳(n=22)	54.5	13.6	4.5	9.1	4.5	4.5	9.1		13.6	9.1			9.1
	30～39歳(n=28)	35.7	39.3	21.4	10.7	21.4	7.1	25.0	7.1	14.3	17.9	3.6	3.6	3.6
	40～49歳(n=50)	36.0	32.0	24.0	12.0	20.0	8.0	26.0	4.0	18.0	6.0		2.0	
	50～59歳(n=54)	31.5	37.0	40.7	5.6	5.6	16.7	18.5	3.7	16.7	9.3		5.6	7.4
	60～69歳(n=52)	42.3	40.4	34.6	5.8		17.3	19.2	1.9	11.5	9.6		1.9	1.9
	70歳以上(n=144)	34.7	41.7	33.3	4.2		20.1	14.6	1.4	11.8	9.0	1.4	1.4	6.3
居住地区	日ノ出・中央・母沢(n=34)	32.4	35.3	29.4	8.8	8.8	17.6	23.5	2.9	5.9	8.8		2.9	8.8
	一町内(n=100)	38.0	38.0	31.0	9.0	4.0	13.0	20.0	2.0	22.0	12.0	2.0	3.0	5.0
	二町内(n=96)	30.2	29.2	29.2	6.3	6.3	16.7	25.0	2.7	7.3	8.3		4.2	9.4
	共栄・富田・池田・旭丘(n=49)	38.8	40.8	34.7	6.1	8.2	10.2	10.2	4.1	16.3	10.2		2.0	
	曲川・都地区(n=58)	36.2	51.7	34.5	3.4	6.9	20.7	17.2	1.7	13.8	6.9	1.7	3.4	1.7
	落合・常盤地区(n=18)	50.0	33.3	27.8			11.1	5.6	5.6	11.1	11.1			11.1

問19 あなたが、生活上の問題で相談や助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。(○印はいくつでも)

生活上の問題で相談や助けを必要とするとき、手助けを頼みたい人については、「別居の家族・親族」が53.8%と最も高く、次いで「同居の家族・親族」(52.4%)、「知人、友人」(38.6%)、「役場・健康支援センター」(25.1%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「社会福祉協議会」では、女性が21.3%で男性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「知人、友人」では、30歳～39歳が67.9%で他の年代に比べて割合が高くなっています。家族構成別では、「ケアマネジャーやホームヘルパー等」では、3世代以上の世帯が30.0%で他の家族構成に比べて割合が高くなっています。

【相談や手助けを頼みたい人】



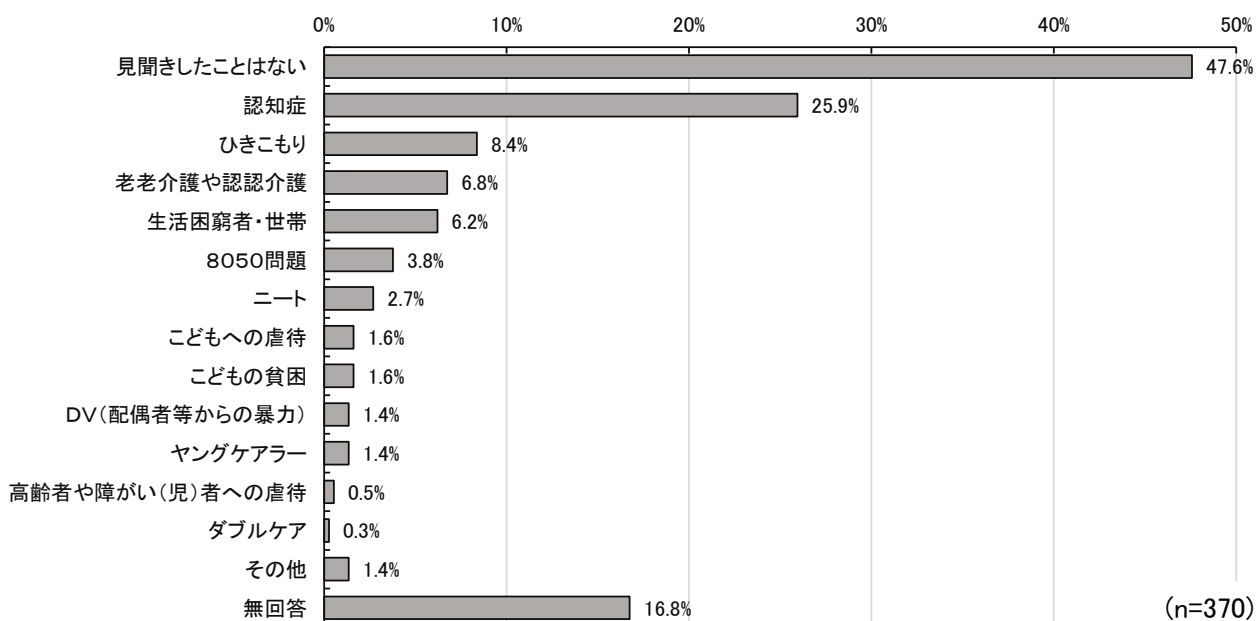
		同居の家族・親族	別居の家族・親族	知人、友人	近所の人	ボランティア	役場・健康支援センター	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	保健師	ケアマネジャーやホームヘルパー等	その他	誰にも頼みたくない	誰に頼んで良いかわからない	無回答
性別	全体(n=370)	52.4	53.8	38.6	14.9	1.9	25.1	18.9	16.2	2.4	7.3	7.6	1.1	2.4	2.7	3.5
	男性(n=162)	50.0	50.0	38.3	16.7	2.5	24.1	14.8	10.5	2.5	4.9	4.9	1.9	3.7	2.5	3.0
	女性(n=202)	55.0	57.4	39.1	12.4	1.5	26.2	22.8	21.3	2.3	9.4	9.4	0.5	1.0	3.0	3.0
年齢	18～29歳(n=22)	63.6	36.4	59.1	9.1		4.5		4.5		4.5					4.5
	30～39歳(n=28)	46.4	71.4	67.9	10.7		28.6	7.1	7.1	3.6	7.1	3.6		7.1	3.6	
	40～49歳(n=50)	68.0	44.0	50.0	16.0		16.0	8.0	6.0		2.0	2.0	2.0	2.0	10.0	2.0
	50～59歳(n=54)	59.3	53.7	37.0	16.7	5.6	24.1	20.4	9.3	1.9	1.9	7.4		1.9	1.9	3.7
	60～69歳(n=52)	50.0	50.0	34.6	13.5	1.9	28.8	17.3	17.3	5.8	7.7	3.8	1.9	1.9	3.8	1.9
	70歳以上(n=144)	43.8	58.3	27.8	15.3	1.4	29.2	29.2	25.7	2.3	12.5	12.5	1.4	2.1	0.7	2.3
居住地区	日ノ出・中央・母沢(n=34)	52.9	41.2	23.5	14.7	5.9	38.2	17.6	20.6	8.8	5.9	8.8	2.9	2.9		
	一町内(n=100)	48.0	56.0	42.0	15.0	3.0	28.0	22.0	20.0	1.0	8.0	10.0	1.0	2.0	2.0	5.0
	二町内(n=96)	60.4	50.0	39.6	13.5		20.8	14.6	15.6	1.0	8.3	4.2	1.0	3.0	2.1	3.0
	共栄・富田・池田・旭丘(n=49)	53.1	65.3	51.0	12.2	2.0	24.5	16.3	16.3	2.0	10.2	6.1	2.0		2.0	
	曲川・都地区(n=58)	51.7	51.7	29.3	17.2	1.7	20.7	25.9	12.1	1.7	3.4	10.3		1.7	6.9	1.7
	落合・常盤地区(n=18)	50.0	61.1	50.0	22.2		22.2	11.1	11.1	5.6	5.6	5.6				11.1
家族構成	ひとり暮らし世帯(n=85)	3.5	68.2	38.8	11.8		25.9	20.0	16.5		4.7	4.7	1.2	1.2	2.4	2.4
	夫婦のみの世帯(n=121)	58.7	52.9	34.7	19.8	5.0	33.1	24.8	21.5	5.0	14.0	9.1	1.7	3.3	1.7	2.5
	親子2世代の世帯(n=138)	76.8	49.3	45.7	13.0	0.7	18.8	14.5	12.3	1.4	4.3	5.8	0.7	1.4	3.6	2.9
	3世代以上の世帯(n=10)	90.0	20.0	20.0			20.0	20.0	20.0	10.0		30.0				

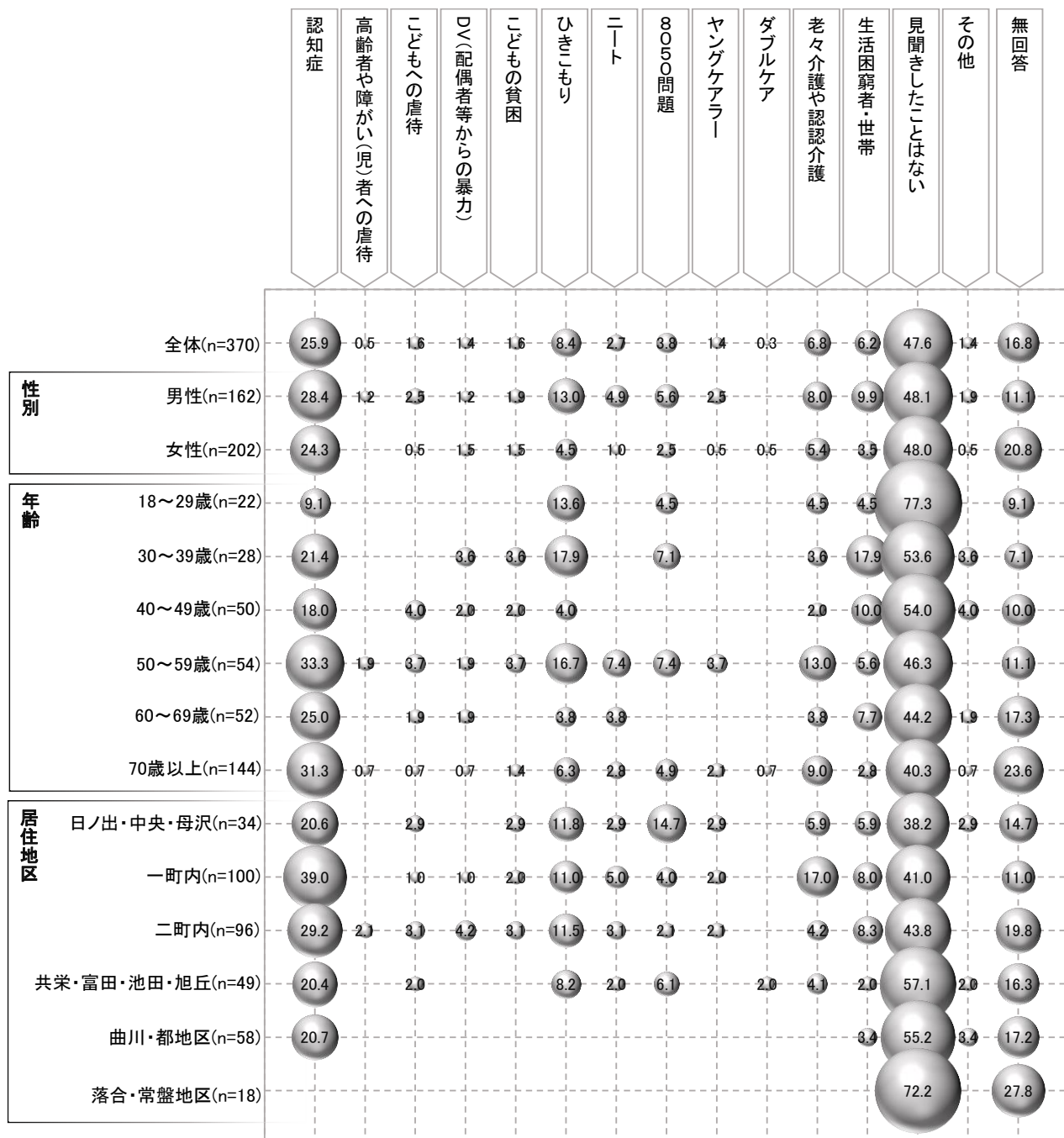
問20 あなたは、ご近所（家族は除く）で、以下のような生活課題を抱えた人を見聞きしたことがありますか。（○印はいくつでも）

近所で生活課題を抱えた人を見聞きしたことがあるかについては、「見聞きしたことはない」が47.6%と最も高く、次いで「認知症」（25.9%）、「ひきこもり」（8.4%）、「老老介護や認知介護」（6.8%）等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「ひきこもり」では、男性が13.0%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「見聞きしたことはない」では、18～29歳が77.3%で他の年代に比べて割合が高くなっています。

【近所で生活課題を抱えた人を見聞きしたことがあるか】



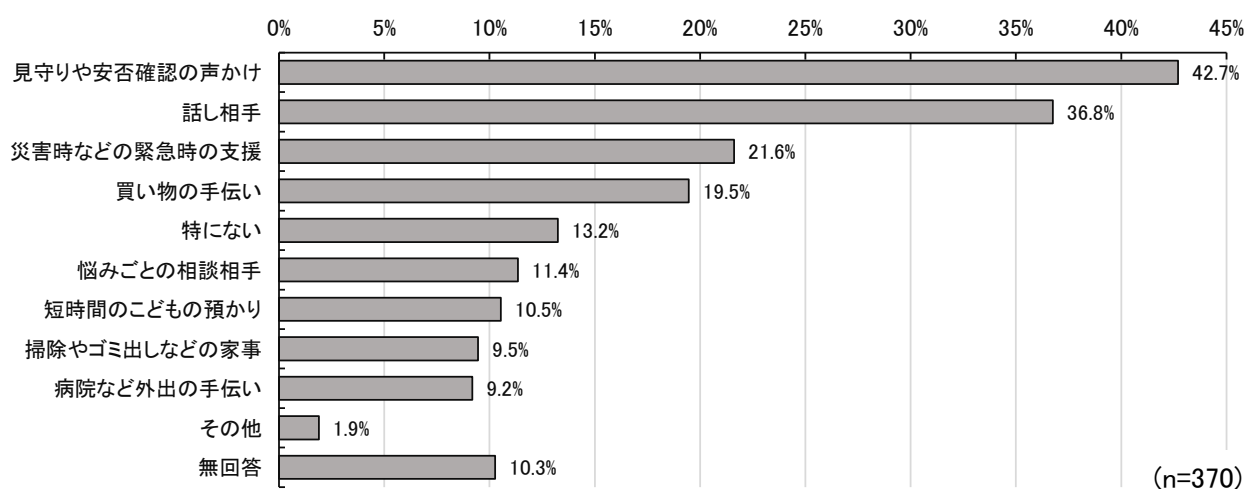


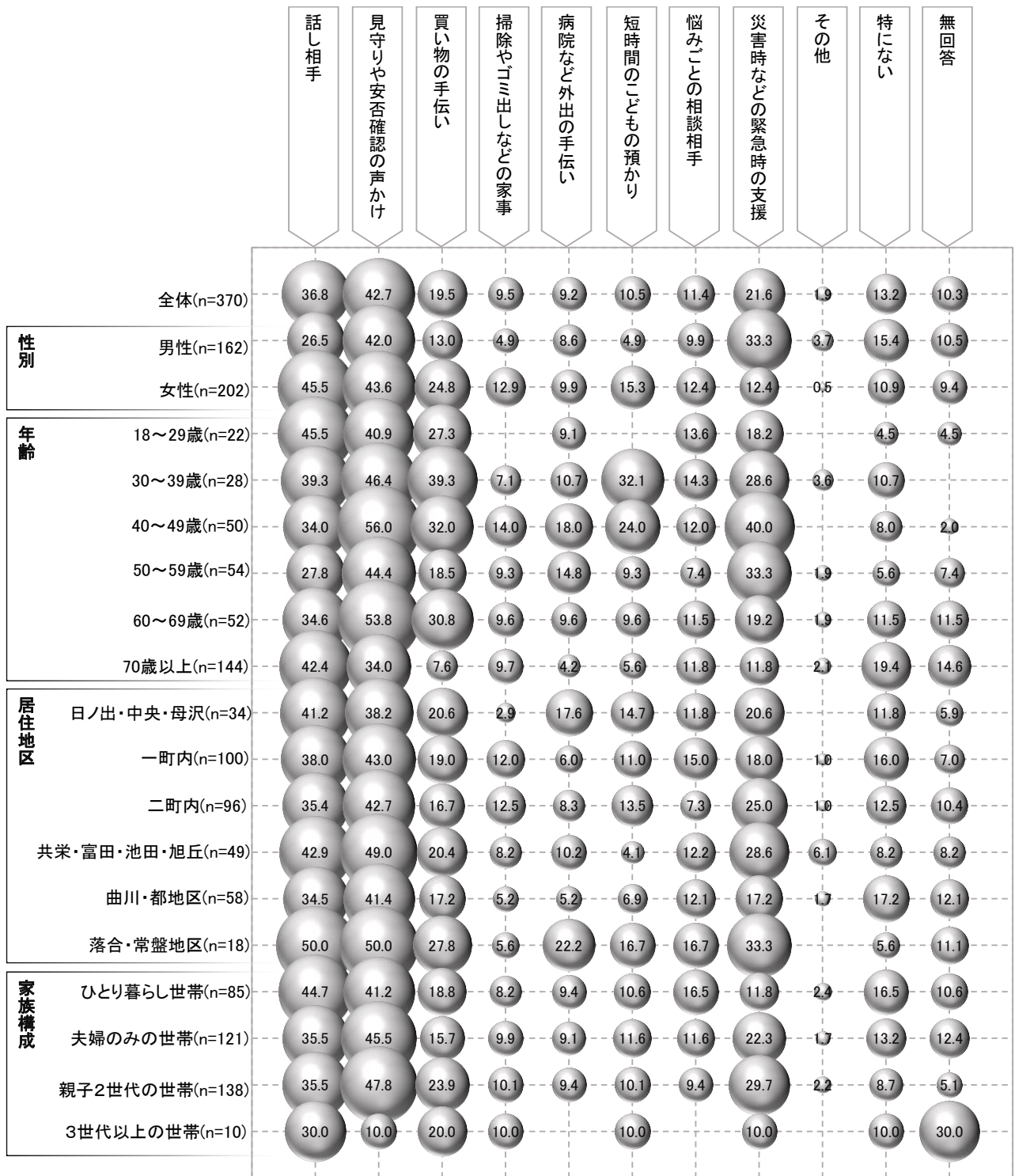
問21 地域でひとり暮らしの高齢者、病気や介護、子育てなどで困っている世帯があった場合、あなたはどのような手助けができますか。(〇印は3つまで)

地域で困っている世帯があった場合、できる手助けについては、「見守りや安否確認の声かけ」が42.7%と最も高く、次いで「話し相手」(36.8%)、「災害時などの緊急時の支援」(21.6%)、「買い物の手伝い」(19.5%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「災害時などの緊急時の支援」では、男性が33.3%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「短時間のこどもの預かり」では、30歳～39歳が32.1%で他の年代に比べて割合が高くなっています。家族構成別では、「見守りや安否確認の声かけ」では、3世代以上の世帯が10.0%で他の家族構成に比べて割合が低くなっています。

【困っている世帯にできる手助けについて】



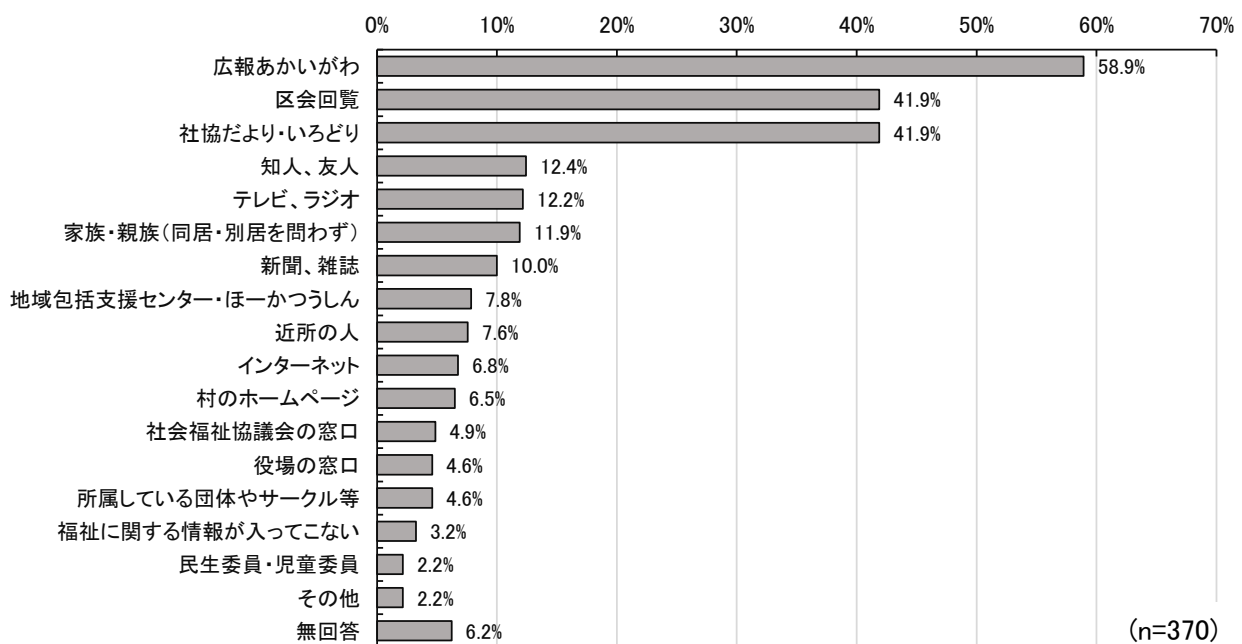


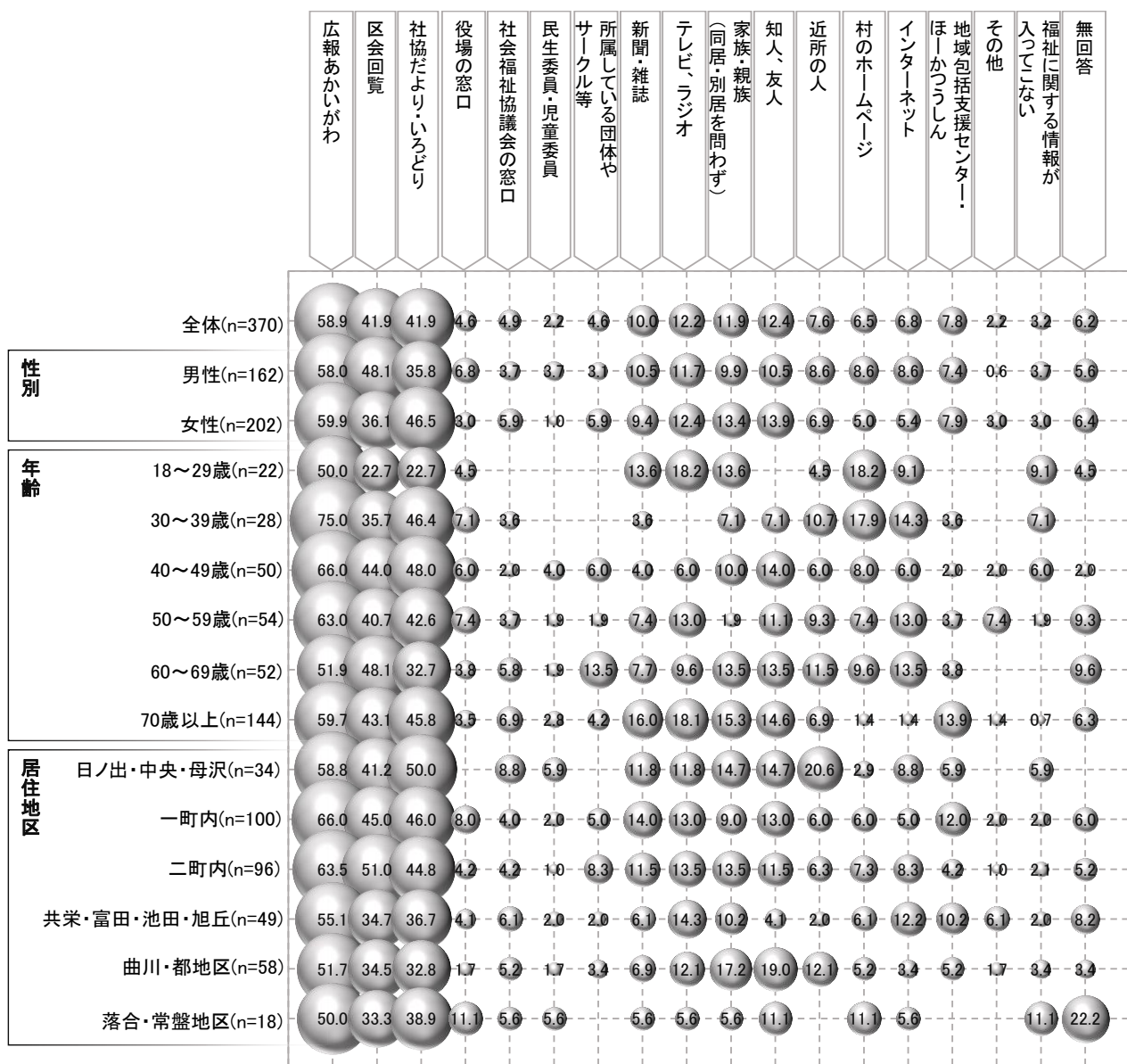
問22 あなたは、福祉に関する情報をどこから入手していますか。(〇印は3つまで)

福祉に関する情報の入手先については、「広報あかいがわ」が58.9%と最も高く、次いで「区会回覧」「社協だより・いろいろ」(それぞれ41.9%)、「知人、友人」(12.4%)、「テレビ・ラジオ」(12.2%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「区会回覧」では、男性が48.1%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「区会回覧」では、18～29歳が22.7%で他の年代に比べて割合が低くなっています。居住地区別では、「近所の人」では、日ノ出・中央・母沢が20.6%で外の地区に比べて割合が高くなっています。

【福祉に関する情報の入手先】





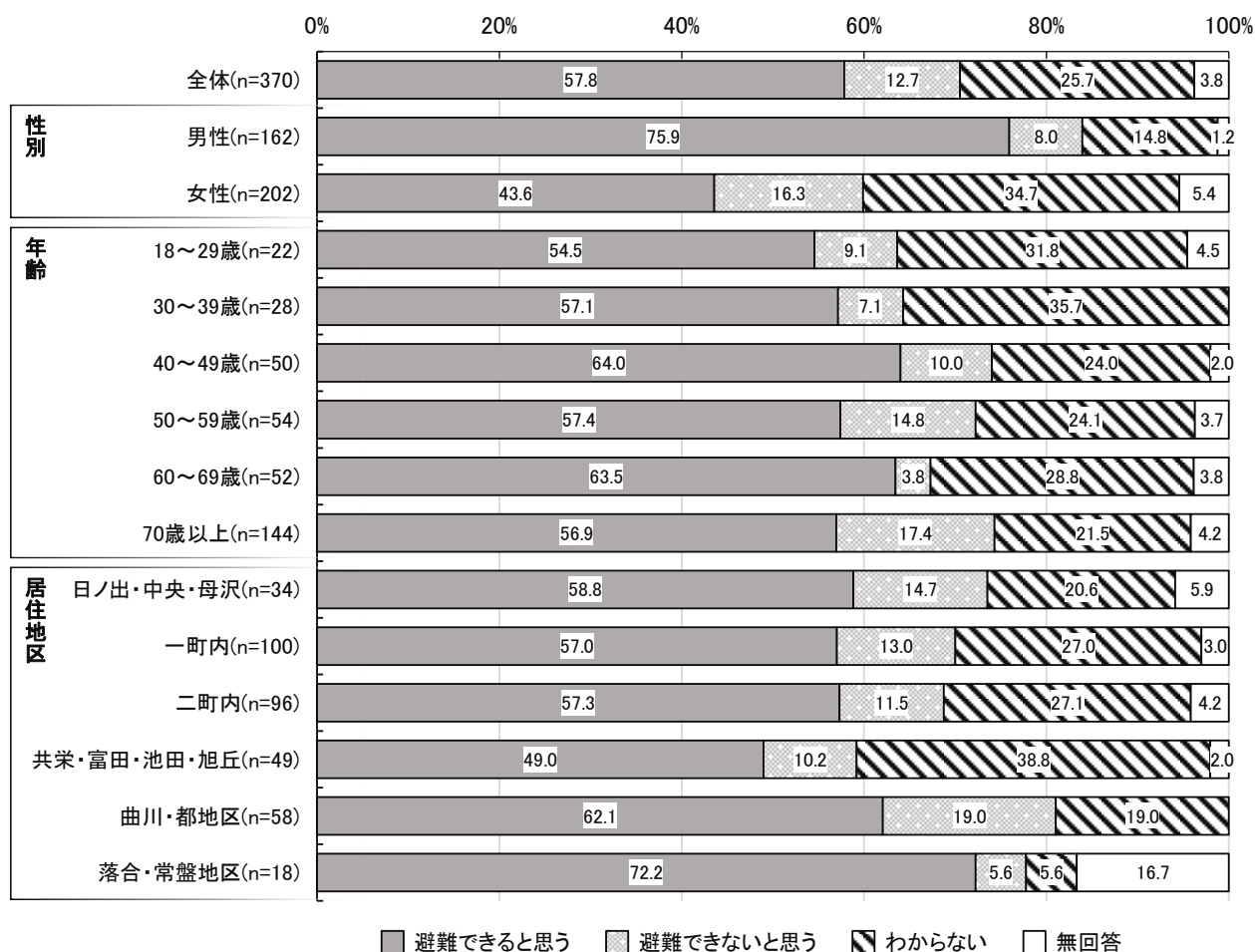
4 災害時の支援についておたずねします。

問23 あなたは、災害などの緊急事態が発生した場合、適切に避難できると思いますか。(1つに○印)

緊急事態が発生した場合、適切に避難できるかについては、「避難できると思う」が57.8%、「避難できないと思う」が12.7%、「わからない」が25.7%となっています。

属性別にみると、性別では、「避難できると思う」では、男性が75.9%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「避難できないと思う」では、70歳以上が17.4%で他の年代に比べて割合が高くなっています。居住地区別では、「避難できると思う」では、落合・常盤地区が72.2%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【緊急時、適切に避難できるかどうか】



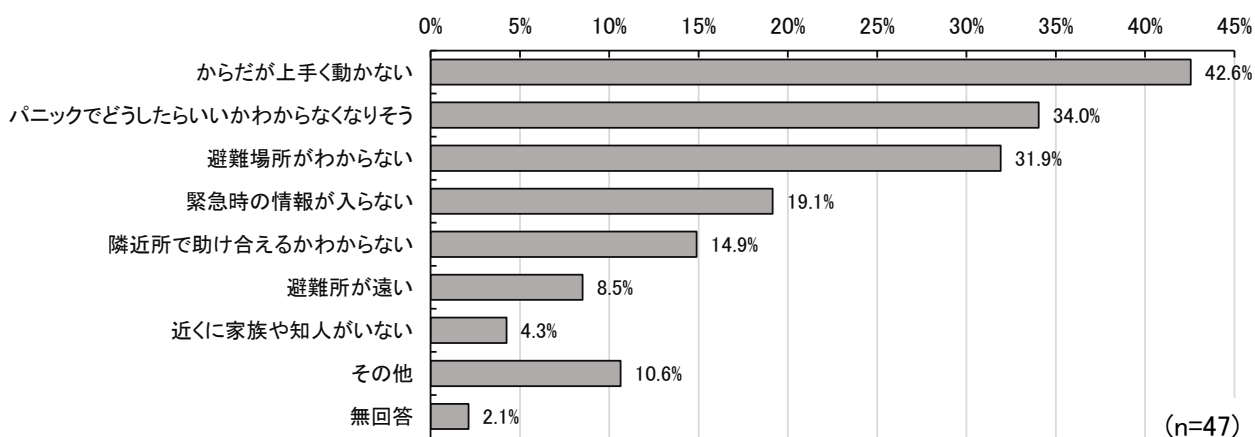
問23-1

問23で「2. 避難できないと思う」と回答された方におたずねします。

あなたが、災害などの緊急時に避難できないと思う理由は何ですか。(〇印はいくつでも)

避難できない理由については、「からだが上手く動かない」が42.6%と最も高く、次いで「パニックでどうしたらいいかわからなくなりそう」(34.0%)、「避難場所がわからない」(31.9%)、「緊急時の情報が入らない」(19.1%)等の順となっています。

【避難できない理由】

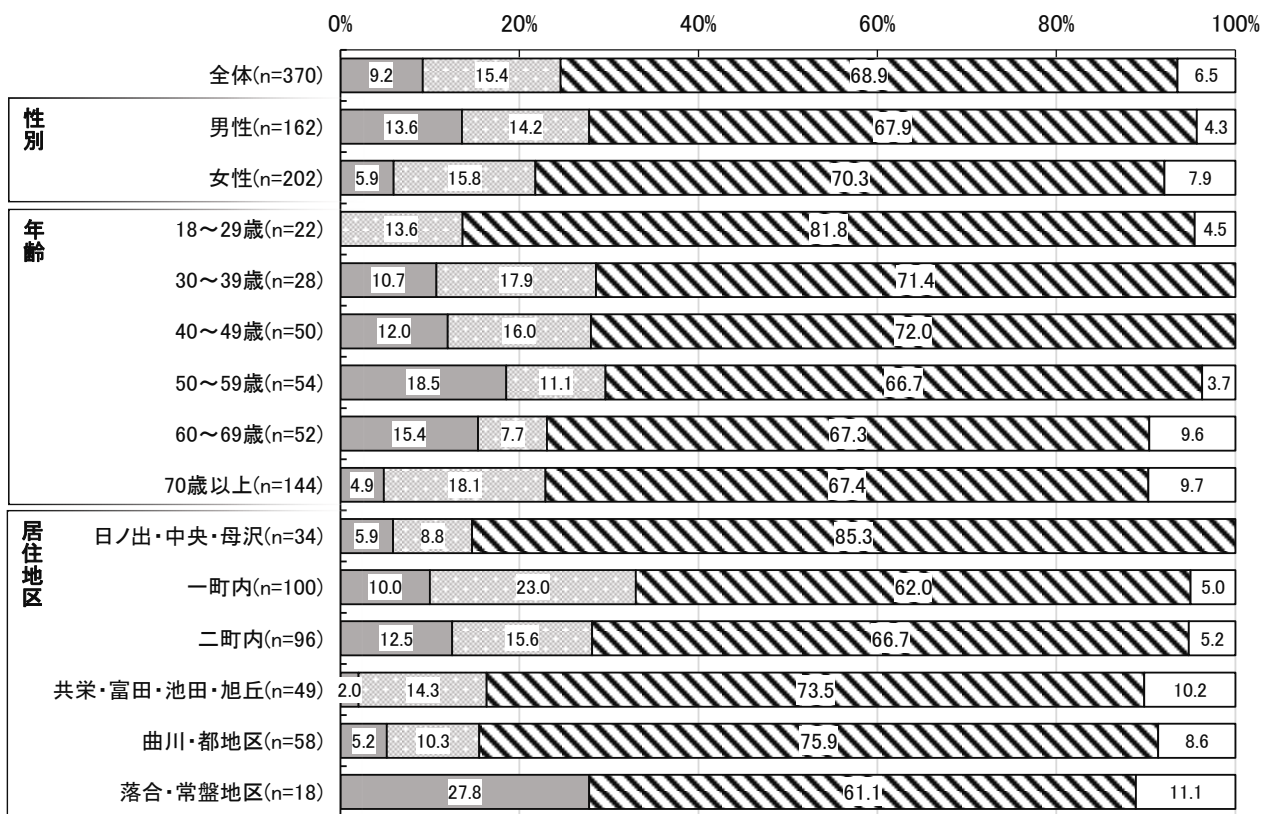


問24 災害時にひとり暮らしの高齢者や重い障害のある方など（以下「避難行動要支援者」）が避難するためにはさまざまな支援が必要になります。あなたは、避難行動要支援者名簿登録制度の内容を知っていますか。（1つに○印）

避難行動要支援者名簿登録制度の認知については、「どういった制度か知っている」が9.2%、「制度の名称は聞いたことがあるが、内容は知らない」が15.4%、「知らない」が68.9%となっています。

属性別にみると、性別では、「どういった制度か知っている」では、男性が13.6%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「どういった制度か知っている」では、50歳～59歳が18.5%で他の年代に比べて割合が高くなっています。居住地区別では、「どういった制度か知っている」では、落合・常盤地区が27.8%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【避難行動要支援者名簿登録制度の認知について】



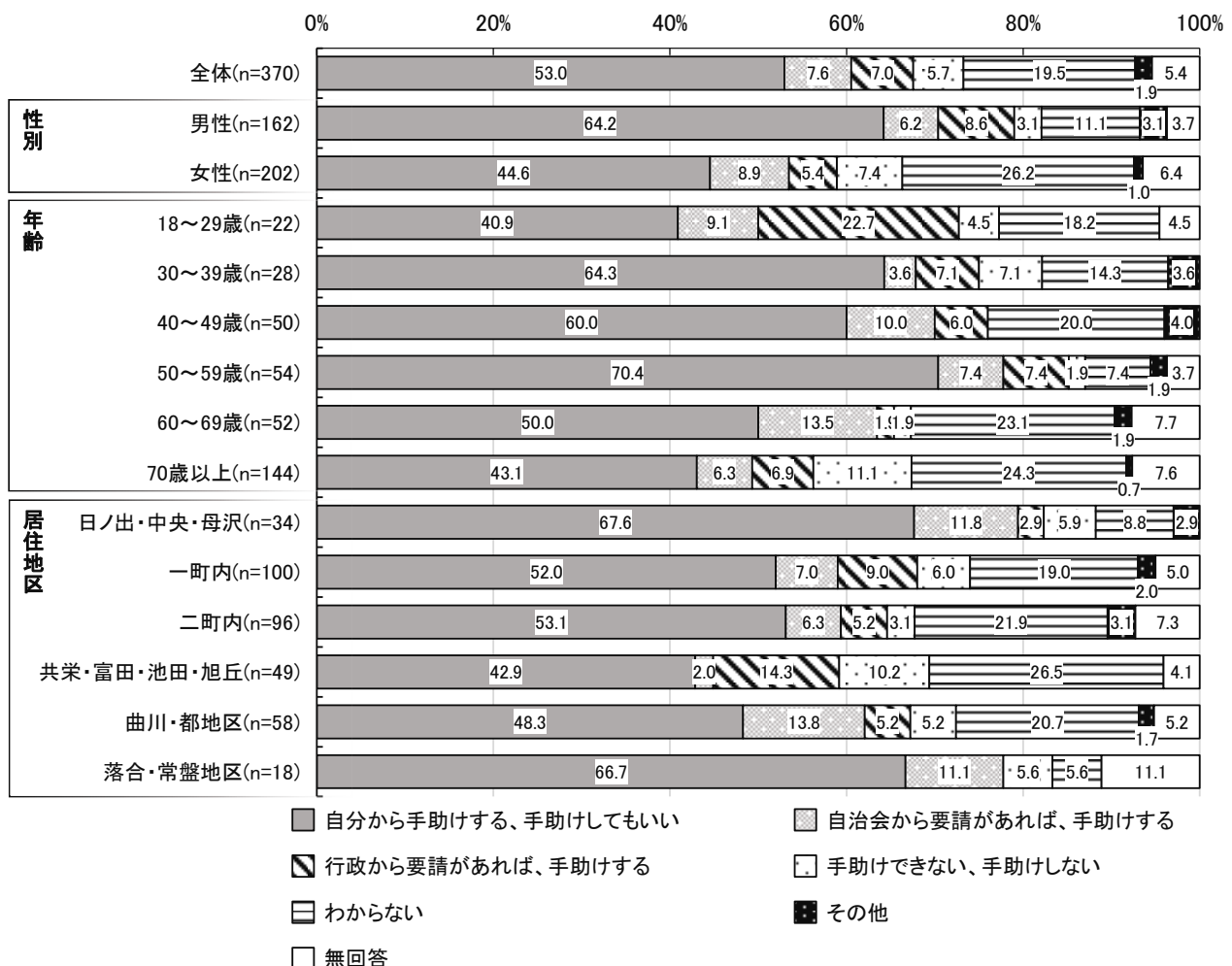
■ どういった制度か知っている ■ 制度の名称は聞いたことがあるが、内容は知らない ▨ 知らない □ 無回答

問25 あなた自身は、災害時に、高齢者、障がい者（児）、妊婦、乳幼児など隣近所に自力で避難できない人が出たとき、どう対応しますか。現時点のお考えとしてお答えください。（1つに○印）

隣近所に自力で避難できない人が出たときの対応については、「自分から手助けする、手助けしてもいい」が53.0%と最も高く、次いで「わからない」（19.5%）、「自治会から要請があれば、手助けする」（7.6%）、「行政から要請があれば、手助けする」（7.0%）、「手助けできない、手助けしない」（5.7%）の順となっています。

属性別にみると、性別では、「自分から手助けする、手助けしてもいい」では、男性が64.2%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「行政から要請があれば、手助けする」では、18～29歳が22.7%で他の年代に比べて割合が高くなっています。居住地区別では、「自分から手助けする、手助けしてもいい」では、共栄・富田・池田・旭丘が42.9%で他の地区に比べて割合が低くなっています。

【自力で避難できない人が出たときの対応】

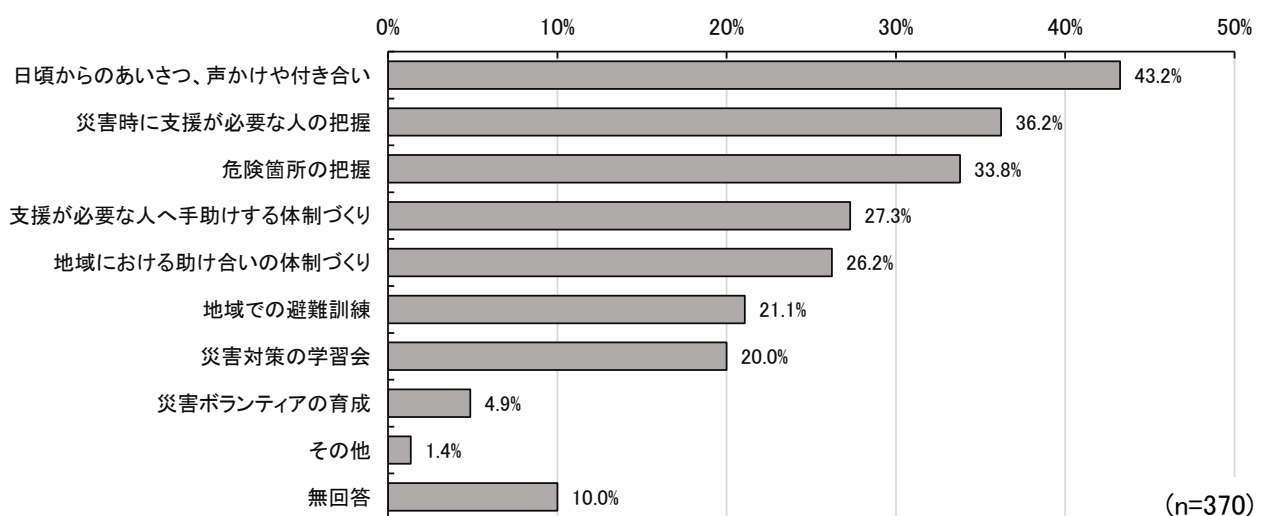


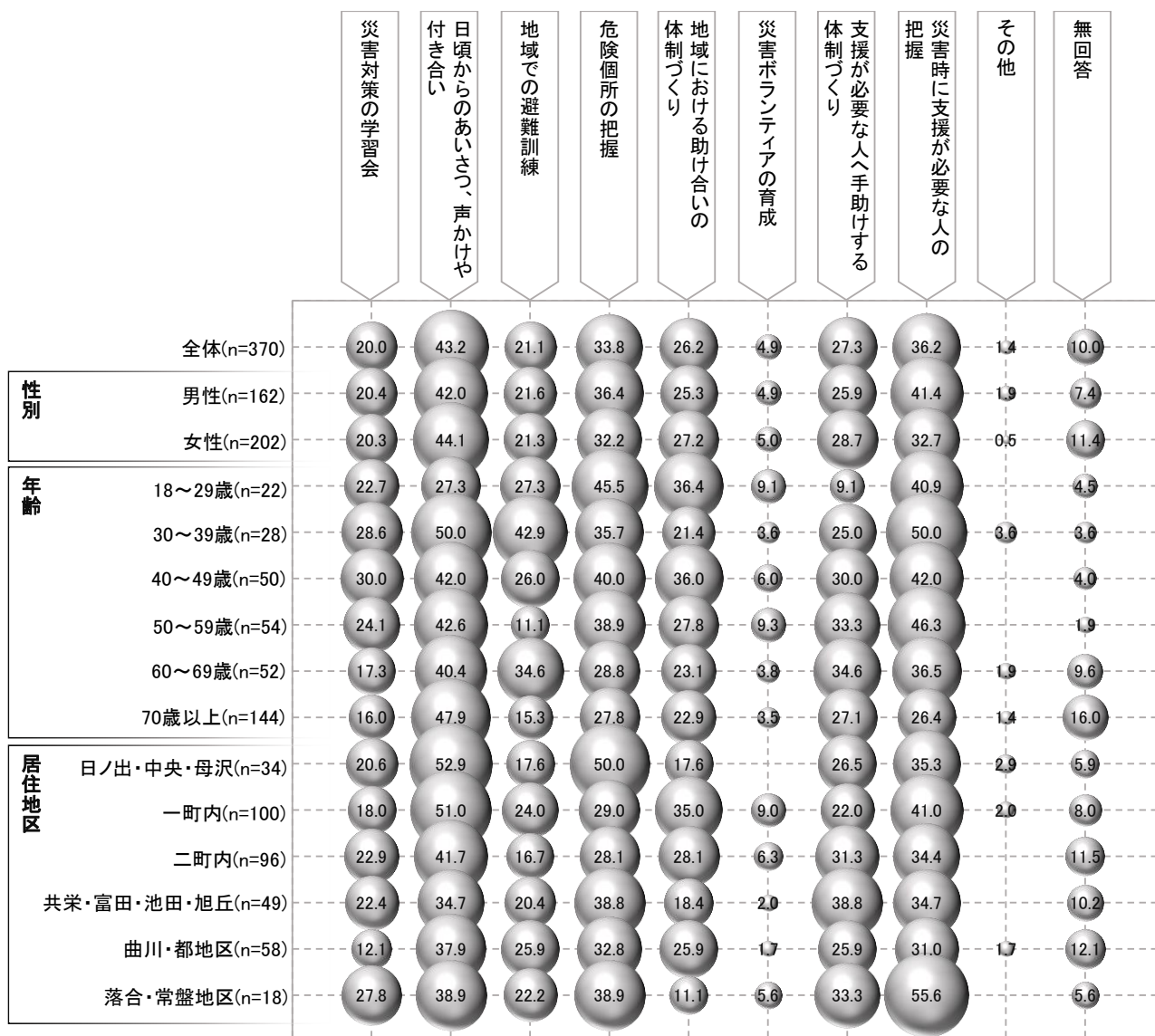
問26 地震などの災害時における地域の助け合いは、非常に重要なことです。あなたの住む区会などにおける災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。（〇印は3つまで）

災害時の備えとして、重要だと思うことについては、「日頃からのあいさつ、声かけや付き合い」が43.2%と最も高く、次いで「災害時に支援が必要な人の把握」（36.2%）、「危険箇所の把握」（33.8%）、「支援が必要な人へ手助けする体制づくり」（27.3%）等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「災害時に支援が必要な人の把握」では、男性が41.4%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「支援が必要な人へ手助けする体制づくり」では、18～29歳が9.1%で他の年代に比べて割合が低くなっています。居住地区別では、「災害時に支援が必要な人の把握」では、落合・常盤地区が55.6%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【災害時の備えとして、重要だと思うこと】





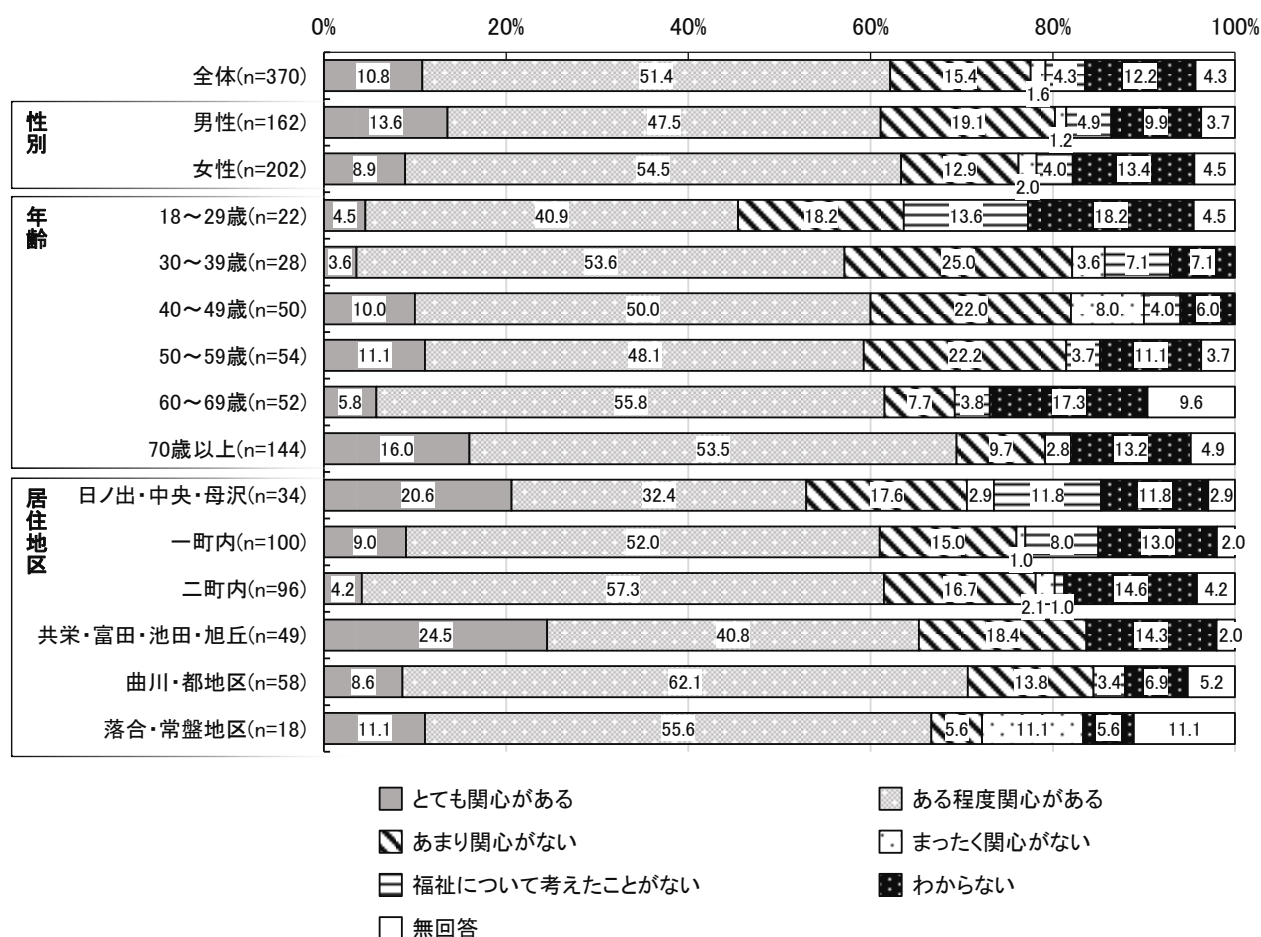
5 地域福祉の活動についておたずねします。

問27 あなたは、「地域福祉」にどのくらい関心がありますか。(1つに○印)

「地域福祉」に対する関心度合いについては、「ある程度関心がある」が51.4%と最も高く、次いで「あまり関心がない」(15.4%)、「わからない」(12.2%)、「福祉について考えたことがない」(4.3%)、「まったく関心がない」(1.6%)の順となっています。

属性別にみると、性別では、「ある程度関心がある」では、男性が13.6%で女性よりも割合がやや高くなっています。年齢別では、「あまり関心がない」では、60歳～69歳が7.7%で他の年代に比べて割合が低くなっています。居住地区別では、「ある程度関心がある」では、共栄・富田・池田・旭丘が24.5%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【地域福祉について】

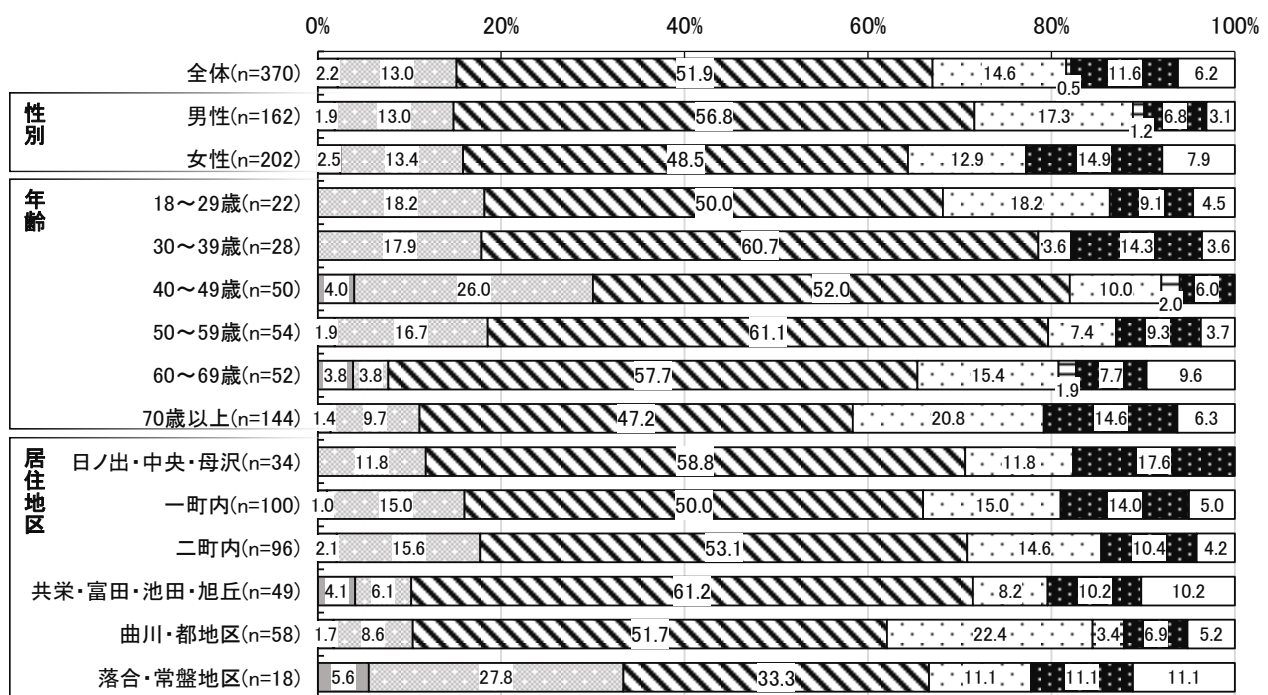


問28 地域福祉を充実させていく上で、行政と地域住民の関係について、あなたはどのように考えますか。(1つに○印)

地域福祉を充実させていく上での行政と地域住民の関係については、「福祉課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」が51.9%と最も高く、次いで「家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助すべきである」(14.6%)、「行政の手に届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである」(13.0%)、「わからない」(11.6%)、「地域福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない」(2.2%)の順となっています。

属性別にみると、性別では、「福祉課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」では、男性が56.8%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「行政の手に届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである」では、60歳～69歳が3.8%で他の年代に比べて割合が低くなっています。

【行政と地域住民の関係について】



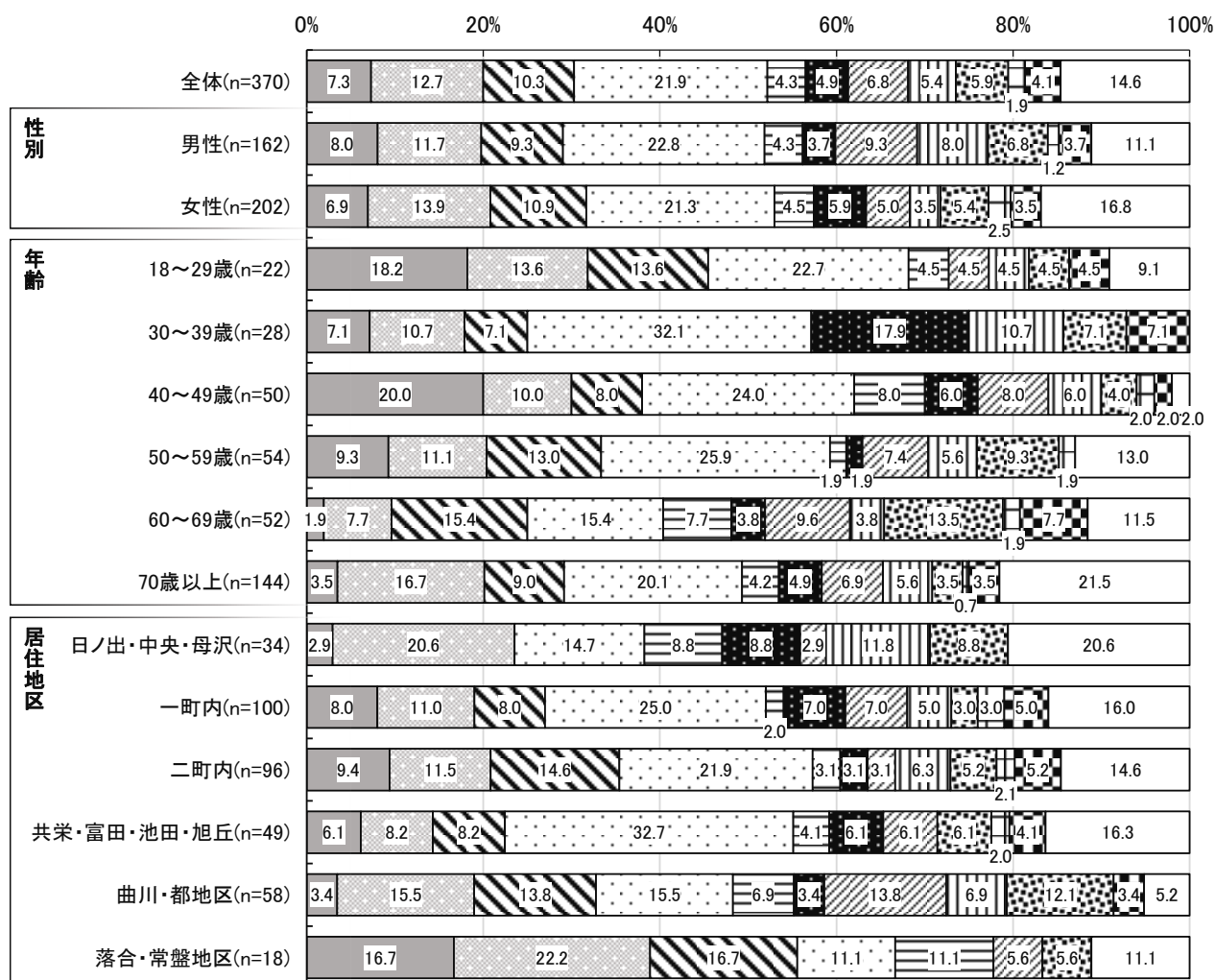
- ☐ 地域福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない
- ☐ 行政の手に届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである
- ☒ 福祉課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである
- ☐ 家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助すべきである
- ☐ その他
- ☒ わからない
- ☐ 無回答

問29 地域での助け合いや支え合いの活動の輪を広げるために、今後特にどのようなことが重要だと思いますか。(1つに○印)

地域での助け合いや支え合いの活動の輪を広げるために重要なことについては、「手助けを必要としている人」と「手助けをしたいと思っている人」をつなぐための調整の場や組織を充実する」が21.9%と最も高く、次いで、「助け合いや支え合いの大切さをみんなで学ぶ」(12.7%)、「地域で行っているさまざまな活動内容のお知らせを充実する」(10.3%)、「学校教育や社会教育などを通じた福祉教育を充実する」(7.3%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「活動の拠点となる場を整備する」では、男性が8.0%で女性よりも割合がやや高くなっています。年齢別では、「地域活動や福祉活動等に携わる人やリーダーの養成を充実する」では、30歳～39歳が17.9%で他の年代に比べて割合が高くなっています。居住地区別では、「手助けを必要としている人」と「手助けをしたいと思っている人」をつなぐための調整の場や組織を充実する」では、共栄・富田・池田・旭丘が32.7%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【地域での助け合いや支え合いの活動の輪を広げるために重要なこと】



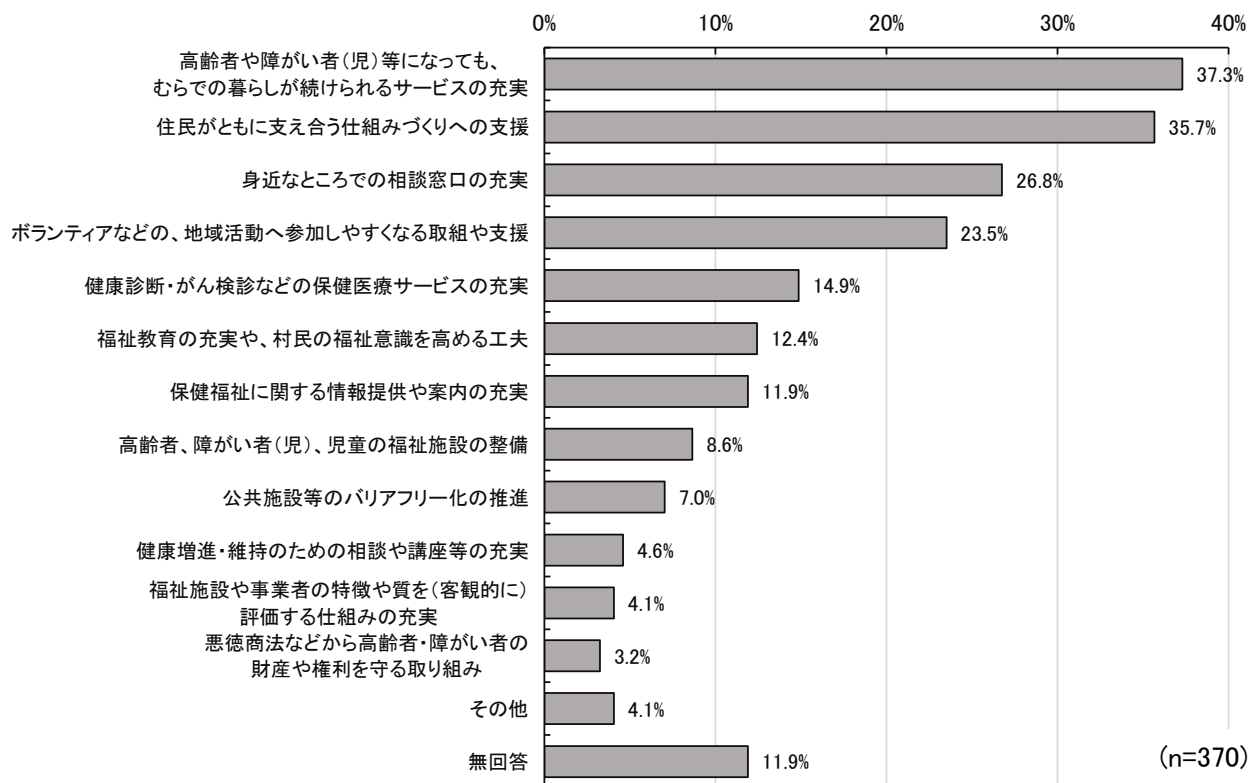
- ☒ 学校教育や社会教育などを通じた福祉教育を充実する
- ☒ 助け合いや支え合いの大切さをみんなで学ぶ
- ☒ 地域で行っているさまざまな活動内容のお知らせを充実する
- ☒ 「手助けを必要としている人」と「手助けをしたいと思っている人」をつなぐための調整の場や組織を充実する
- ☒ 介護方法やボランティア活動の方法等について、地域での学習機会を充実する
- ☒ 地域活動や福祉活動等に携わる人やリーダーの養成を充実する
- ☒ 地域活動や福祉活動等の相談・指導を行う専門職員を充実する
- ☐ 活動の拠点となる場を整備する
- ☒ いろいろな活動への資金面の援助を充実する
- ☐ その他
- ☒ 特に必要ない
- ☐ 無回答

問30 今後、地域福祉の充実のために村が積極的に取り組むべきことは何だと思えますか。(〇印は3つまで)

地域福祉の充実のために村が積極的に取り組むべきことについては、「高齢者や障がい者(児)等になっても、むらでの暮らしが続けられるサービスの充実」が37.3%と最も高く、次いで「住民がともに支え合う仕組みづくりへの充実」(35.7%)、「身近なところでの相談窓口の充実」(26.8%)、「ボランティアなどの、地域活動へ参加しやすくなる取組や支援」(23.5%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「ボランティアなどの、地域活動へ参加しやすくなる取組や支援」では、男性が29.0%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「ボランティアなどの、地域活動へ参加しやすくなる取組や支援」では、70歳以上が9.0%で他の年代に比べて割合が低くなっています。居住地区別では、「健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実」では、共栄・富田・池田・旭丘が24.5%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【地域福祉の充実のために村が積極的に取り組むべきこと】



		ボランティアなどの、地域活動へ参加しやすくなる取組や支援	住民がともに支え合う仕組みづくりへの支援	身近なところでの相談窓口の充実	高齢者や障がい者（児）等になっても、むらでの暮らしが続けられるサービスの充実	保健福祉に関する情報提供や案内の充実	健康増進・維持のための相談や講座等の充実	健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実	悪徳・商法などから高齢者・障がい者の財産や権利を守る取組	福祉施設や事業者の特徴や質を（客観的に）評価する仕組みの充実	福祉教育の充実や、村民の福祉意識を高める工夫	高齢者、障がい者（児）、児童の福祉施設の整備	公共施設等のバリアフリー化の推進	その他	無回答
性別	全体(n=370)	23.5	35.7	26.8	37.3	11.9	4.6	14.9	3.2	4.1	12.4	8.6	7.0	4.1	11.9
	男性(n=162)	29.0	38.3	21.6	33.3	14.8	5.6	12.3	3.7	4.9	14.8	4.3	3.1	4.9	9.9
	女性(n=202)	19.3	33.7	31.2	40.6	9.9	4.0	17.3	3.0	3.0	10.9	11.9	10.4	3.0	12.9
年齢	18～29歳(n=22)	45.5	27.3	18.2	27.3	9.1	4.5	13.6		4.5	13.6	13.6	4.5	4.5	9.1
	30～39歳(n=28)	32.1	42.9	21.4	28.6	21.4		17.9	3.6	3.6	25.0	7.1	3.6	7.1	3.6
	40～49歳(n=50)	34.0	46.0	20.0	36.0	6.0	4.0	16.0	6.0	4.0	18.0	12.0	14.0	4.0	4.0
	50～59歳(n=54)	46.3	44.4	18.5	29.6	29.6	11.1	11.1	1.9	3.7	18.5	5.6	7.4	3.7	5.6
	60～69歳(n=52)	17.3	38.5	21.2	44.2	9.6		9.6	7.7	7.7	7.7	9.6	3.8	3.8	15.4
	70歳以上(n=144)	9.0	30.6	36.1	41.7	7.6	5.6	18.1	2.1	3.5	7.6	7.6	7.6	2.9	15.3
居住地区	日ノ出・中央・母沢(n=34)	29.4	41.2	26.5	35.3	5.9	8.8	8.8	8.8		2.9		5.9	5.9	14.7
	一町内(n=100)	30.0	42.0	25.0	36.0	14.0	1.0	14.0	3.0	6.0	15.0	10.0	4.0	4.0	9.0
	二町内(n=96)	17.7	36.5	25.0	39.6	12.5	6.3	13.5	1.0	1.0	15.6	7.3	8.3	3.1	13.5
	共栄・富田・池田・旭丘(n=49)	26.5	24.5	26.5	30.6	12.2	8.2	24.5	6.1	10.2	12.2	14.3	8.2	4.1	14.3
	曲川・都地区(n=58)	15.5	31.0	32.8	41.4	12.1	1.7	8.6	3.4	3.4	10.3	12.1	8.6	5.2	8.6
	落合・常盤地区(n=18)	27.8	50.0	16.7	44.4	16.7	5.6	16.7		5.6	16.7		16.7		11.1

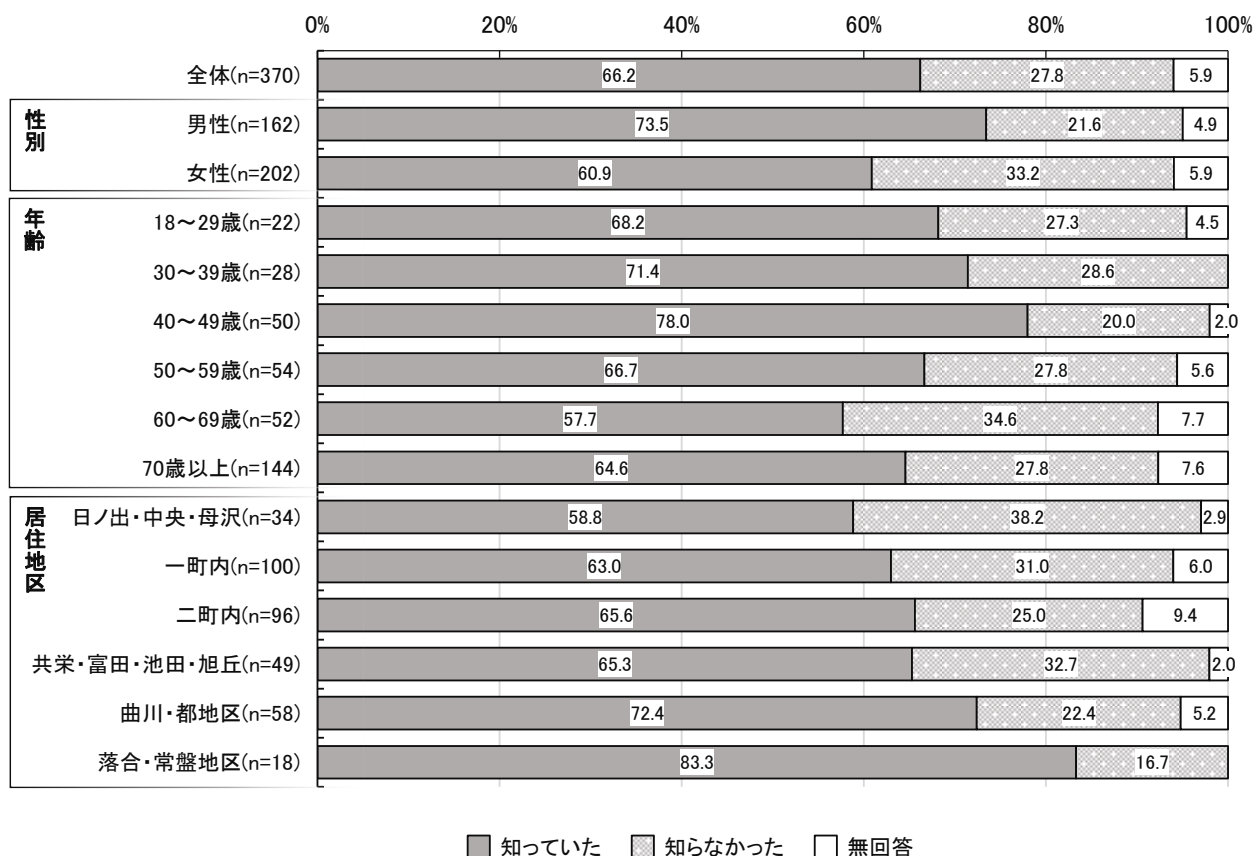
6 自殺に関する意識についておたずねします。

問31 我が国の自殺者数は令和元年まで10年連続で減少していましたが、令和2年には11年ぶりの増加となり、令和4年はおよそ2万2千人の方が亡くなっています。あなたは、毎年、このように多くの方が自殺で亡くなっていることを知っていましたか。(1つに○印)

毎年の自殺者の認知については、「知っていた」が66.2%、「知らなかった」が27.8%となっています。

属性別にみると、性別では、「知っていた」では、男性が73.5%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「知っていた」では、60～69歳が57.7%で他の年代に比べて割合が低くなっています。居住地区別では、「知っていた」では、落合・常盤地区が83.3%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【毎年の自殺者の認知について】

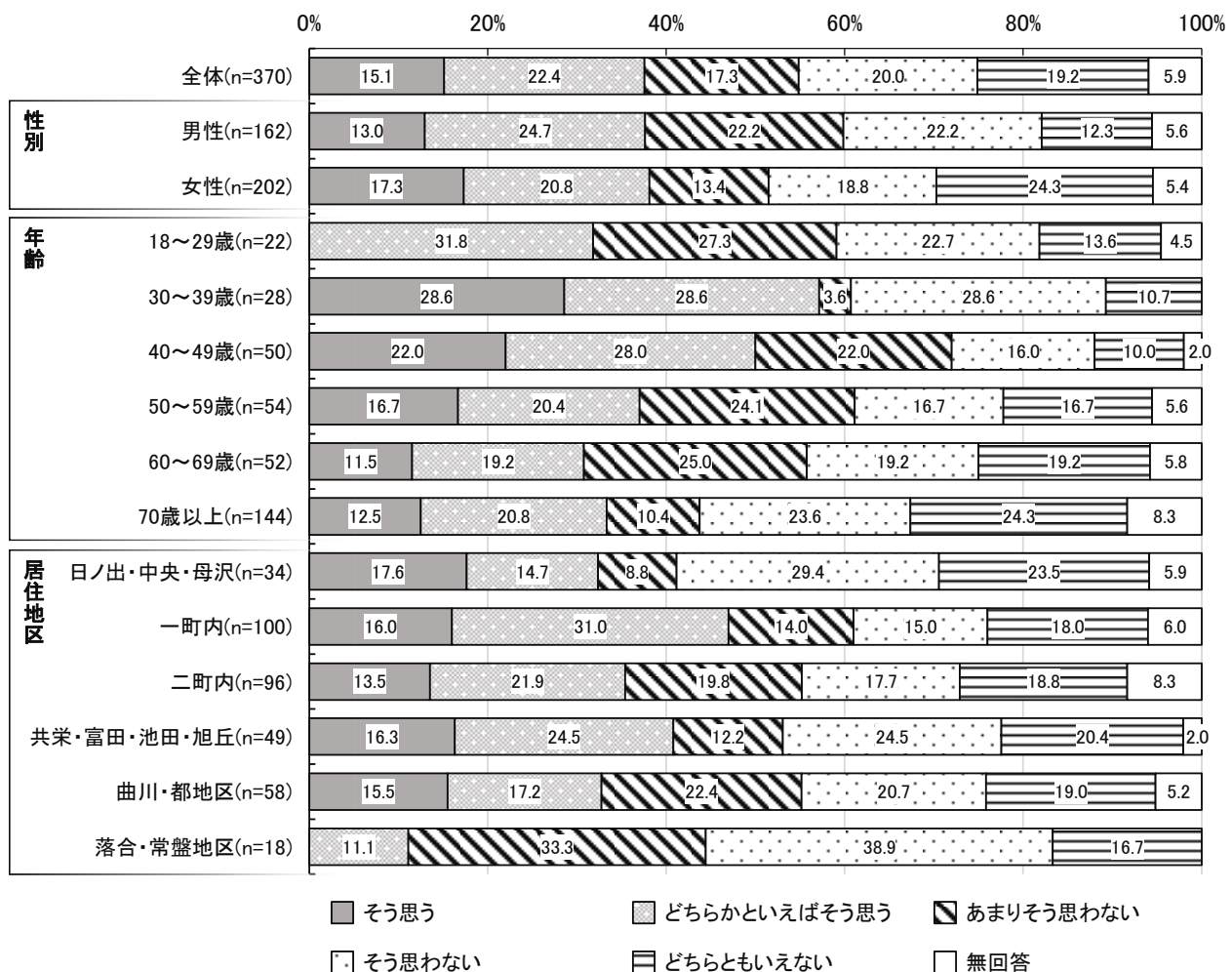


問32 あなたは、自殺対策は自分自身に関わる問題だと思いますか。(1つに○印)

自殺対策は自分自身に関わる問題だと思うかについては、「どちらかといえばそう思う」が22.4%と最も高く、次いで「そう思わない」(20.0%)、「どちらともいえない」(19.2%)、「あまりそう思わない」(17.3%)、「そう思う」(15.1%)の順となっています。

属性別にみると、性別では、「どちらともいえない」では女性が24.3%で男性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「あまりそう思わない」では、30歳～39歳が3.6%で他の年代に比べて割合が低くなっています。

【自殺対策は自分自身に関わる問題だと思うか】

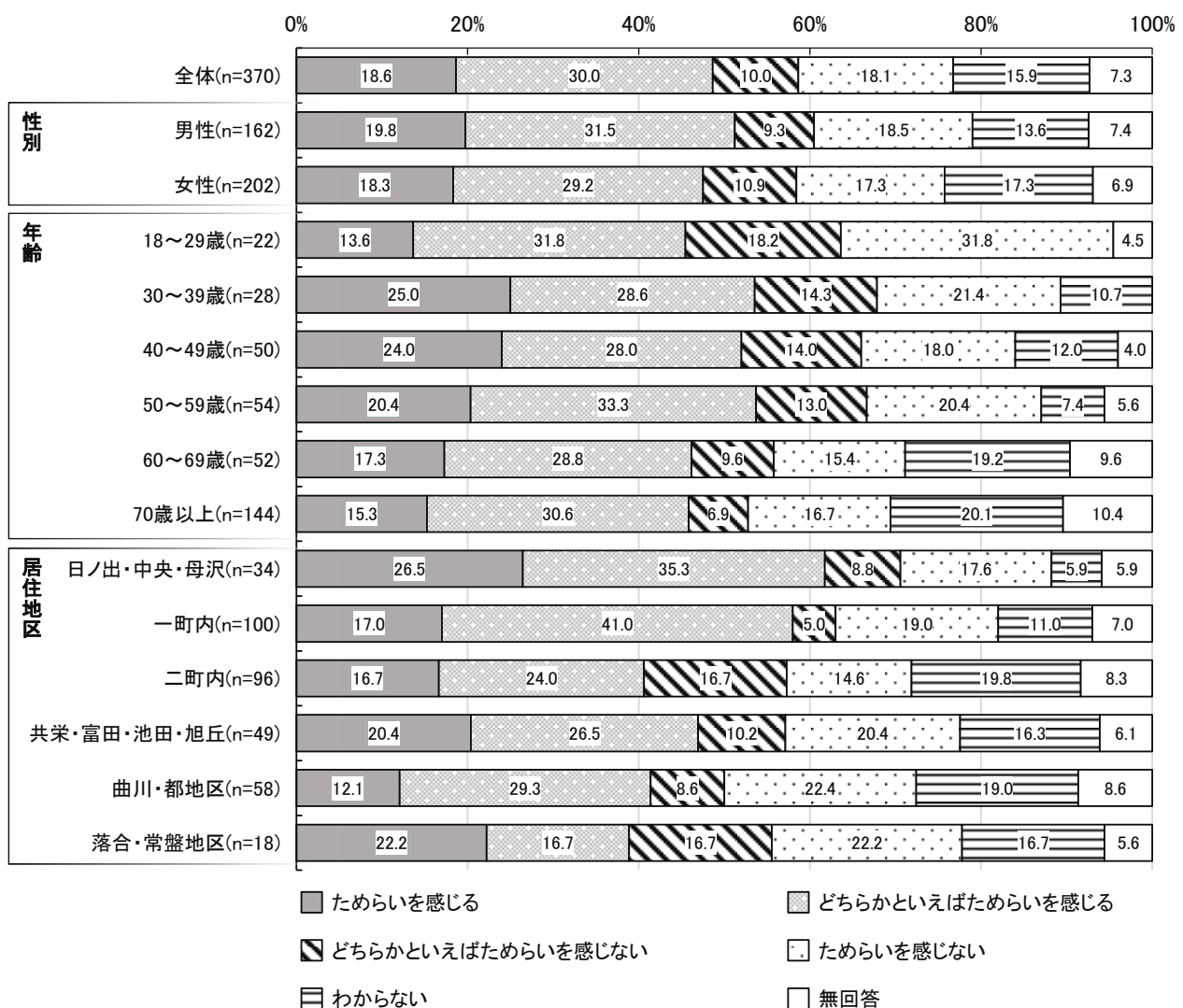


問33 あなたは、悩みを抱えたときやストレスを感じたときに、誰かに相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じますか。(1つに○印)

誰かに相談したり助けを求めたりすることにためらいを感じるかについては、「どちらかといえばためらいを感じる」が30.0%と最も高く、次いで「ためらいを感じる」(18.6%)、「ためらいを感じない」(18.1%)、「わからない」(15.9%)、「どちらかといえばためらいを感じない」(10.0%)の順となっています。

属性別にみると、性別では、あまり大きな差はみられませんでした。年齢別では、「ためらいを感じない」では、18～29歳が31.8%で他の年代に比べて割合が高くなっています。

【誰かに相談したり助けを求めたりすることにためらいを感じるか】



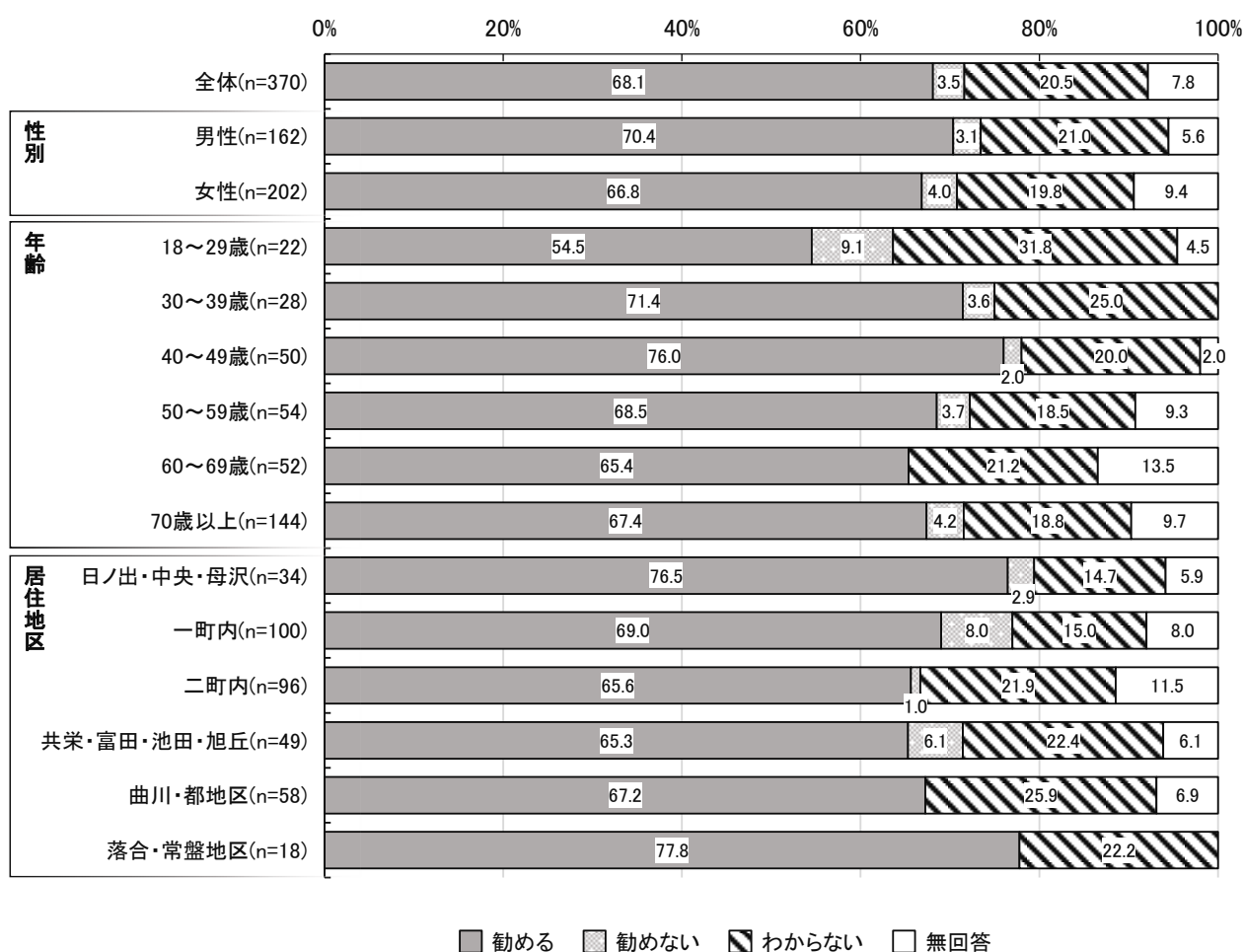
7 うつ病についておたずねします。

問34 あなたは、あなたが、家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき、専門の相談窓口へ相談することを勧めますか。(1つに○印)

あなたは身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき、専門の相談窓口へ相談することを進めるかについては、「勧める」が68.1%、「勧めない」が3.5%、「わからない」が20.5%となっています。

属性別にみると、性別では「勧める」では、男性が70.4%で女性よりも割合がやや高くなっています。年齢別では、「勧める」では、18～29歳が54.5%で他の年代に比べて割合が低くなっています。

【身近な人にうつ病の相談窓口へ相談することを進めるか】

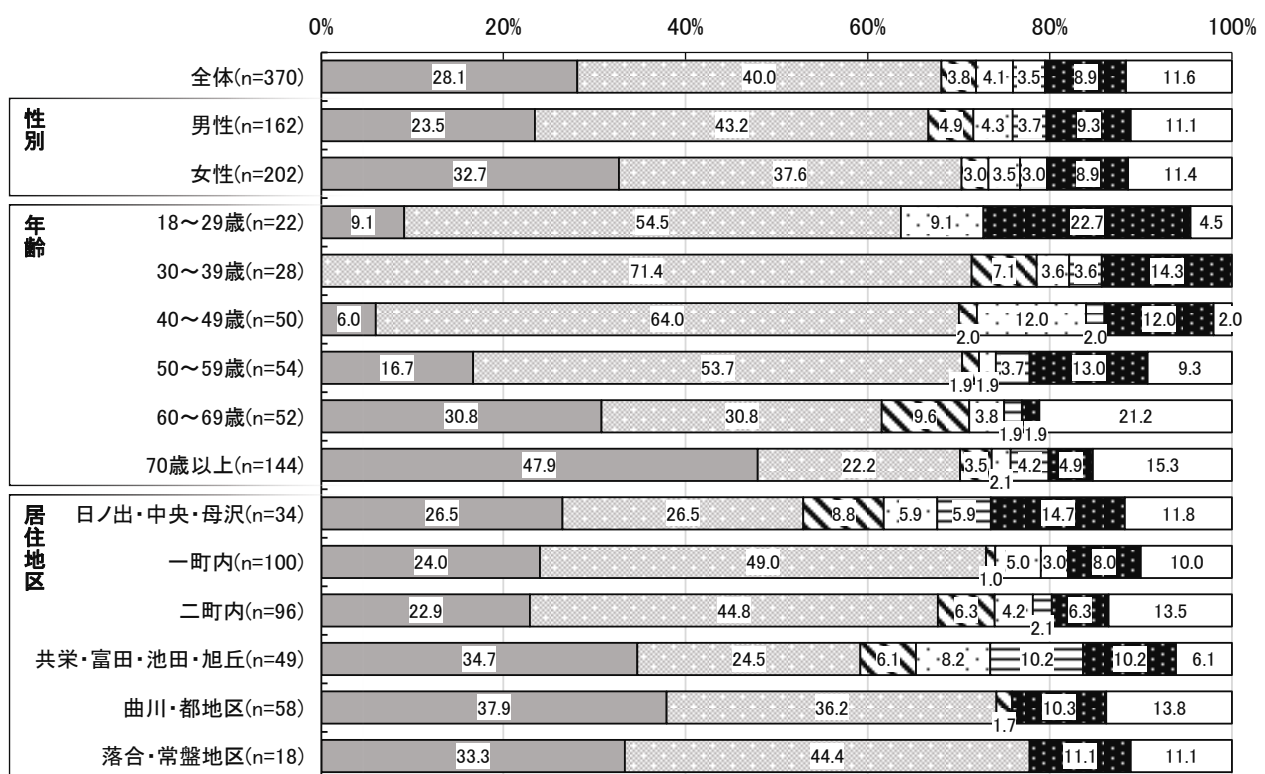


問35 もし仮に、あなたが自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、以下の専門窓口のうち、どれを利用したいと思いますか。(1つに○印)

自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、利用したい専門窓口については、「精神科や心療内科等の医療機関」が40.0%と最も高く、次いで「かかりつけの医療機関(精神科や心療内科等を除く)」(28.1%)、「何も利用しない」(8.9%)、「いのちの電話等民間機関の相談窓口」(4.1%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「かかりつけの医療機関(精神科や心療内科等を除く)」では、女性が32.7%で男性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「何も利用しない」では、18～29歳が22.7%で他の年代に比べて割合が高くなっています。

【「うつ病のサイン」に気づいたとき、利用したい専門窓口】



- ☒ かかりつけの医療機関(精神科や心療内科等を除く)
- ☒ 精神科や心療内科等の医療機関
- ☒ 保健所など公的機関の相談窓口
- ☐ いのちの電話等民間機関の相談窓口
- ☐ その他
- ☒ 何も利用しない
- ☐ 無回答

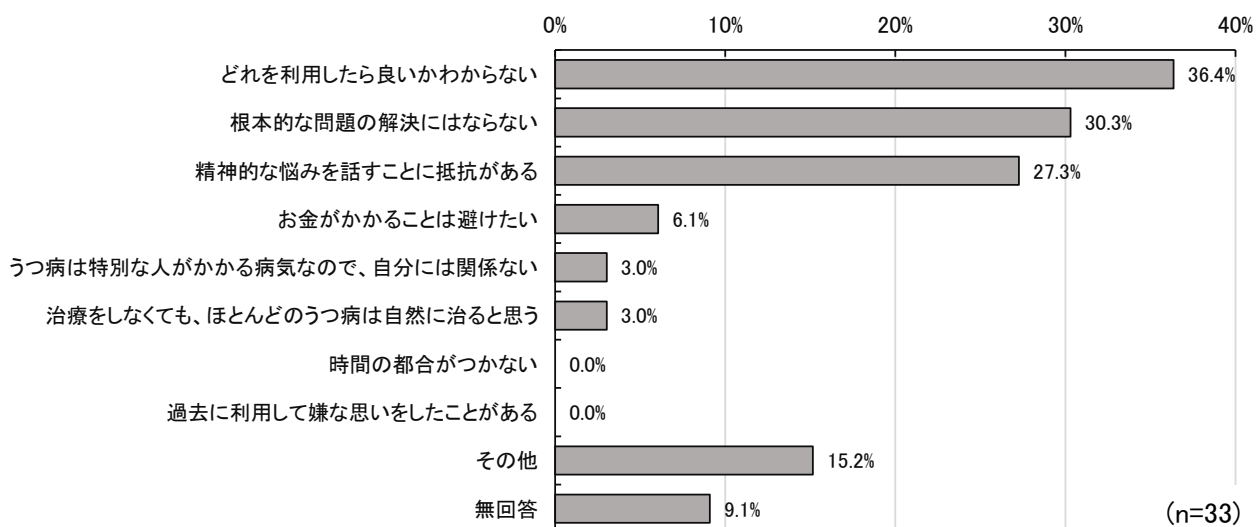
問35-1

問35で「6. 何も利用しない」と回答された方におたずねします。

自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたときに、何も利用しないのはなぜですか。(○印はいくつでも)

自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたときに何も利用しない理由については、「どれを利用したら良いかわからない」が36.4%と最も高く、次いで「根本的な問題の解決にはならない」(30.3%)、「精神的な悩みを話すことに抵抗がある」(27.3%)、「お金がかかることは避けたい」(6.1%)等の順となっています。

【何も利用しない理由】



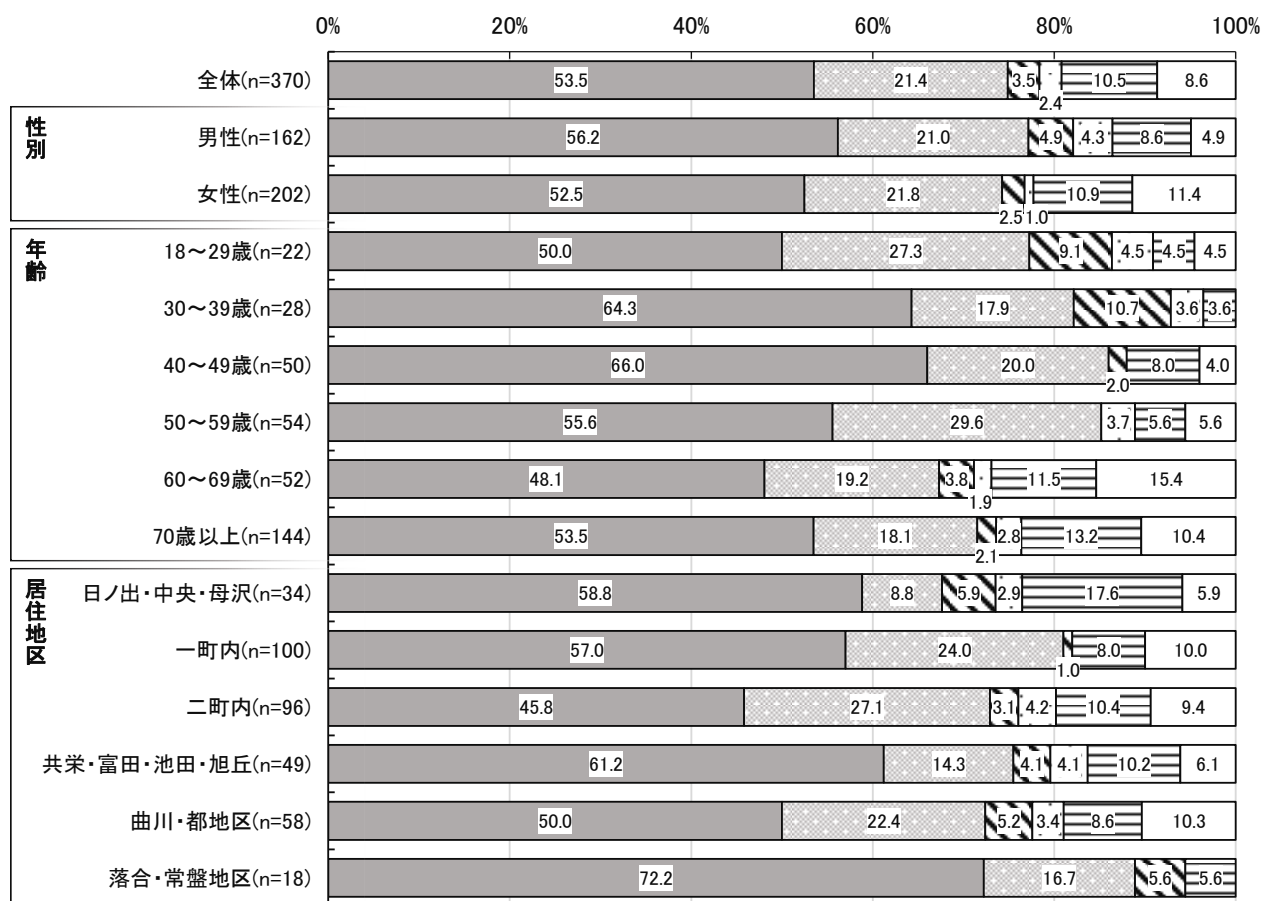
8 今後の自殺対策についておたずねします。

問36 あなたは、児童・生徒が、自殺予防について学ぶ機会があった方が良いと思いますか。(1つに○印)

児童・生徒が、自殺予防について学ぶ機会があった方が良いと思うかについては、「そう思う」が53.5%とも次いで「どちらかといえばそう思う」(21.4%)、「わからない」(10.5%)、「あまりそう思わない」(3.5%)、「そう思わない」(2.4%)の順となっています。

属性別にみると、性別では、あまり大きな差はみられませんでした。年齢別では、「そう思う」では、60～69歳が48.1%で他の年代に比べて割合が低くなっています。居住地区別では、「そう思う」では、落合・常盤地区が72.2%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【自殺予防について学ぶ機会があった方が良いと思うか】



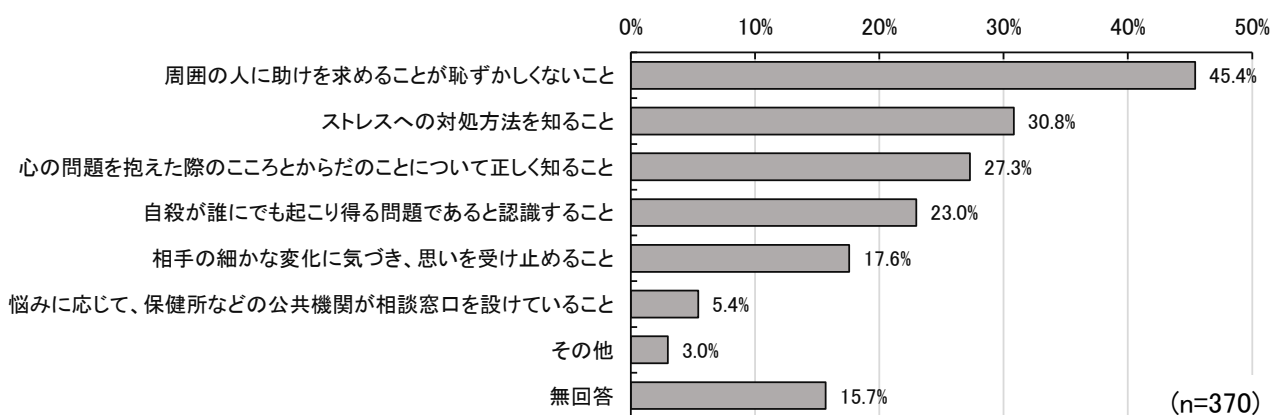
■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ▨ あまりそう思わない □ そう思わない ▨ わからない □ 無回答

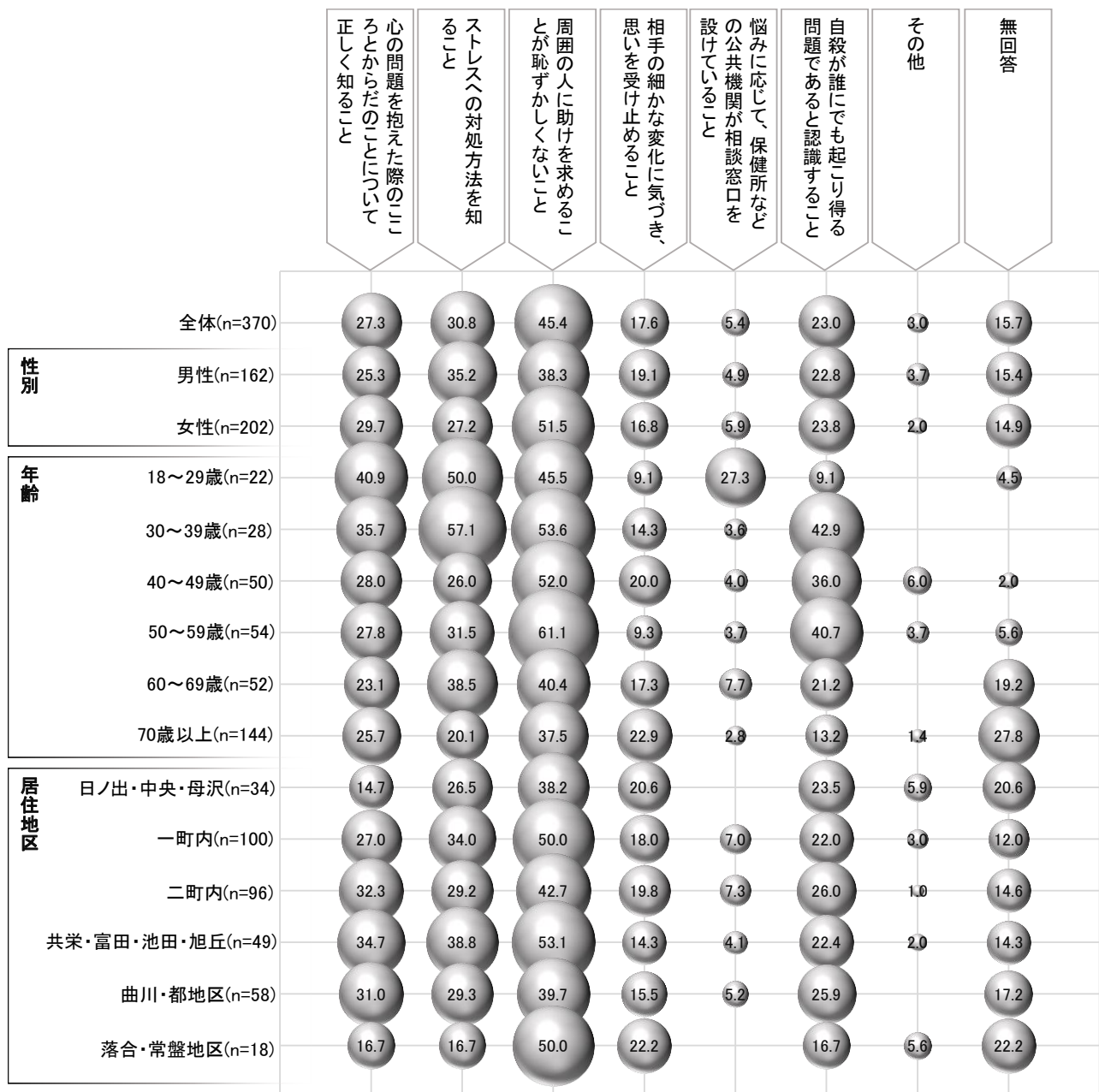
問37 あなたは、児童・生徒の段階において、どのようなことを学べば、自殺予防につながりますか。(〇印は2つまで)

児童・生徒の段階において、どのようなことを学べば、自殺予防に繋がると思うかについては、「周囲の人に助けを求めることが恥ずかしくないこと」が45.4%と最も高く、次いで「ストレスへの対処方法を知ること」(30.8%)、「心の問題を抱えた際のこころとからだのことについて正しく知ること」(27.3%)、「自殺が誰にでも起こり得る問題であると認識すること」(23.0%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「周囲の人に助けを求めることが恥ずかしくないこと」では、女性が51.5%で男性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「悩みに応じて、保健所などの公共機関が相談窓口を設けていること」では、18～29歳が27.3%で他の年代に比べて割合が高くなっています。

【どのようなことを学べば、自殺予防に繋がると思うか】



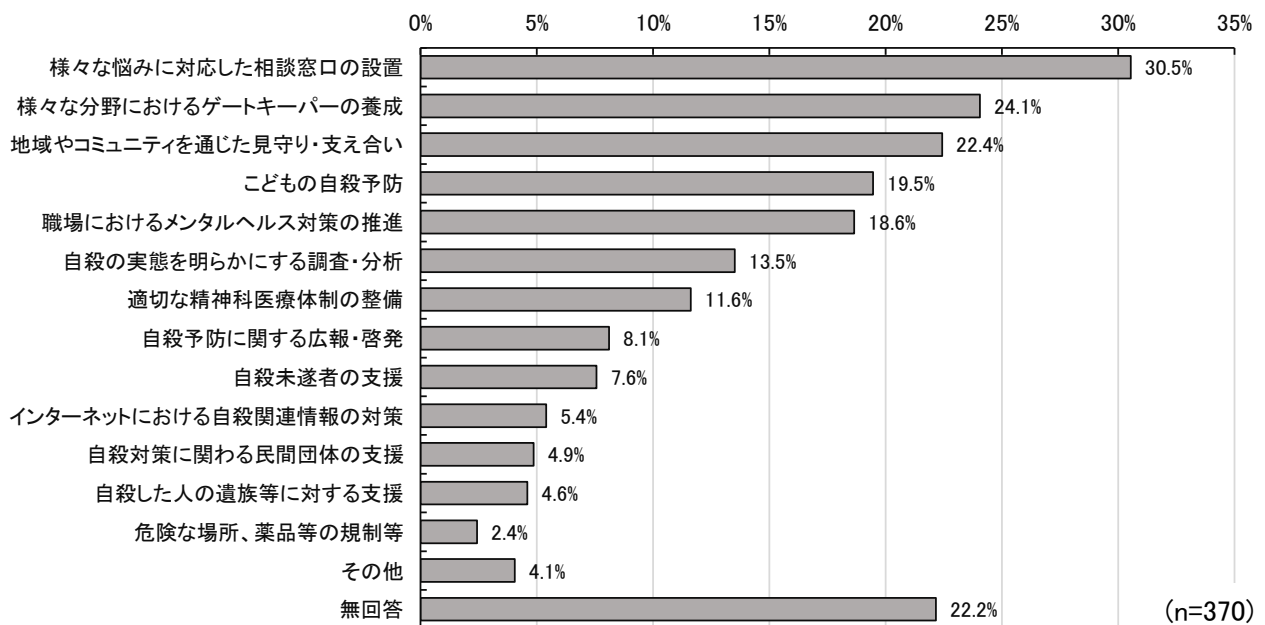


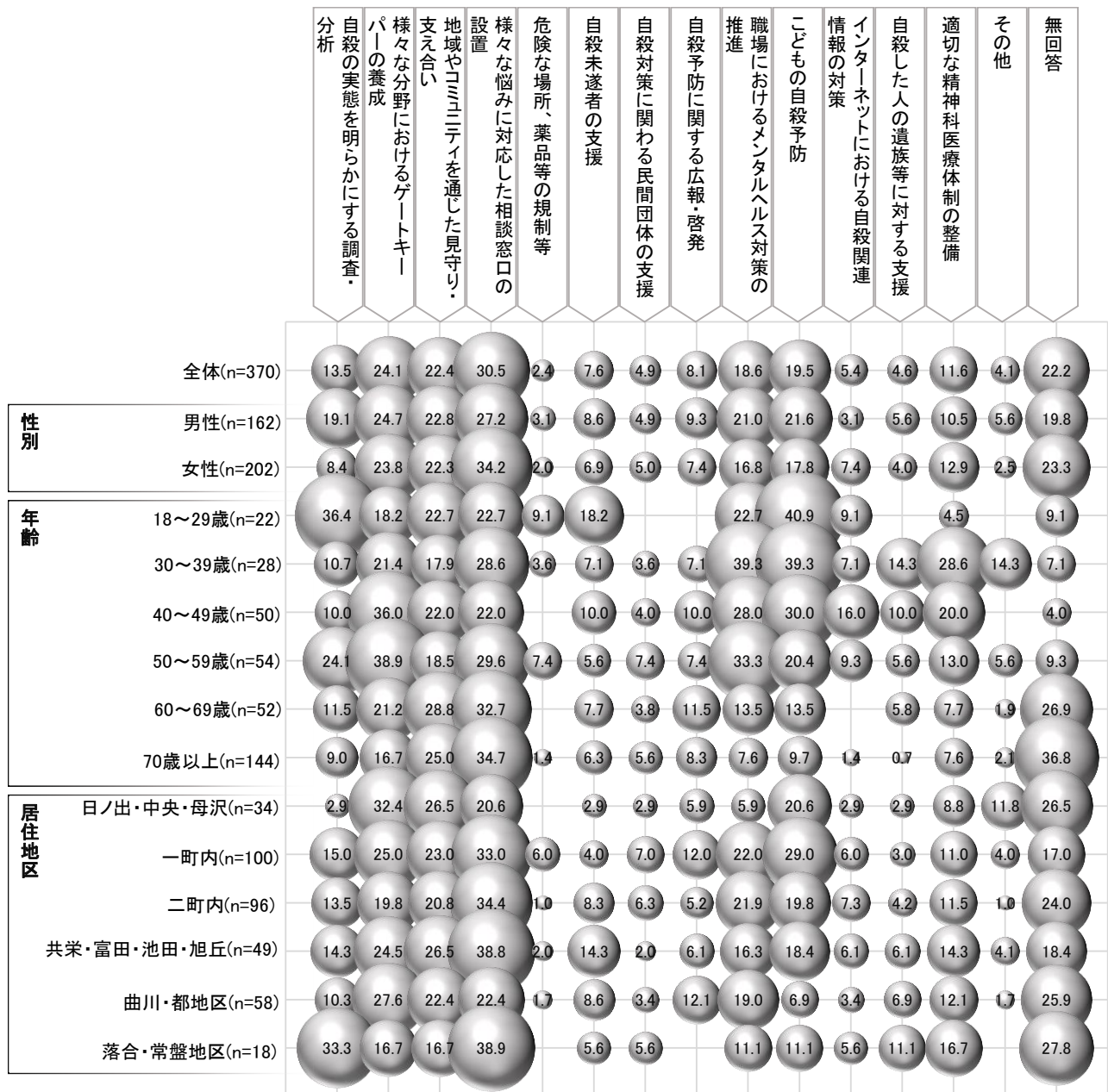
問38 あなたは、今後求められるものとして、どのような自殺対策が必要になると思いますか。(〇印は3つまで)

今後求められる自殺対策については、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が30.5%と最も高く、次いで「様々な分野におけるゲートキーパーの養成」(24.1%)、「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」(22.4%)、「こどもの自殺対策」(19.5%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」では、男性が19.1%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」では、18～29歳が36.4%で他の年代に比べて割合が高くなっています。

【今後求められる自殺対策について】





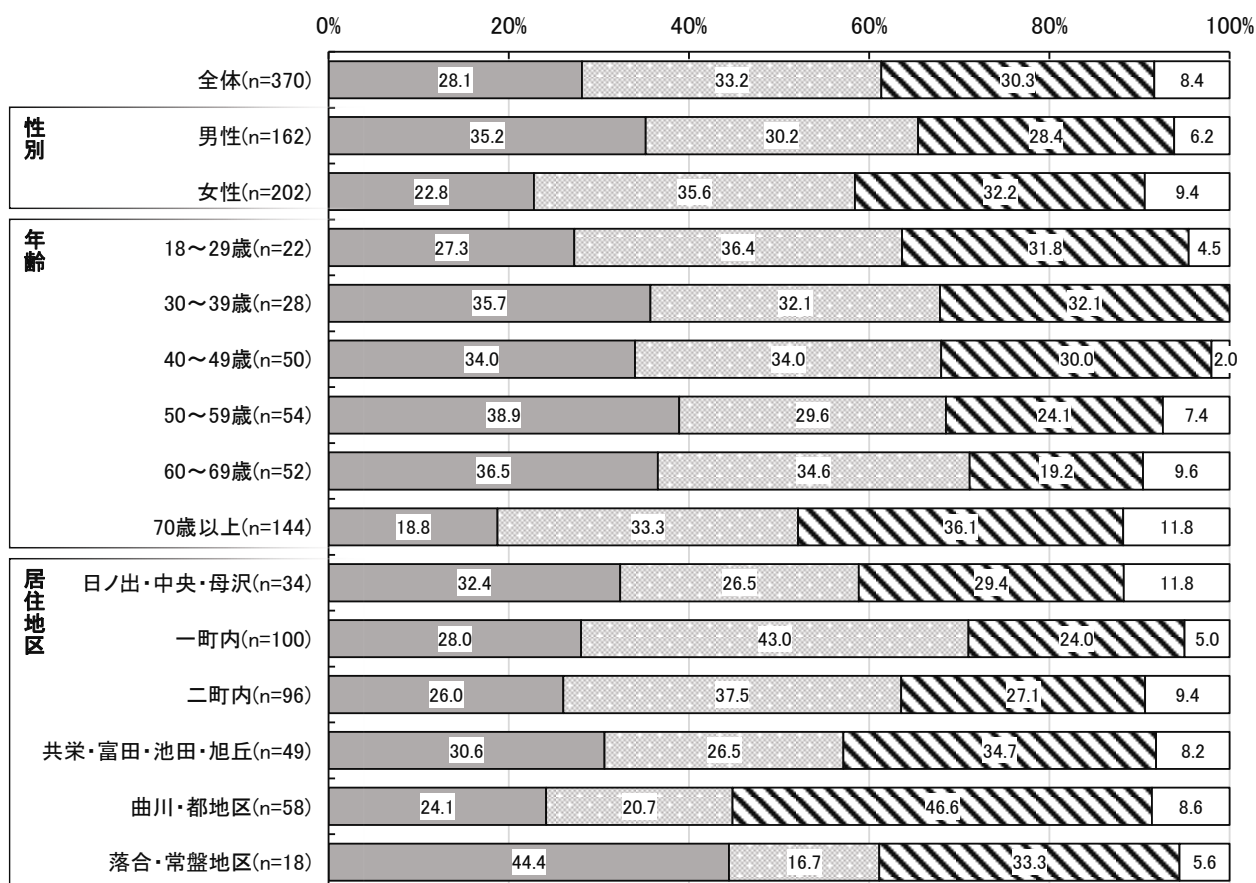
9 権利擁護・成年後見制度についておたずねします。

問39 判断能力が不十分な高齢者や障がい者（児）の権利を保護する「成年後見制度」があります。あなたは、成年後見制度の内容を知っていますか。（1つに○印）

成年後見制度の認知については、「どういった制度か知っている」が28.1%、「制度の名称は聞いたことがあるが、内容は知らない」が33.2%、「知らない」が30.3%となっています。

属性別にみると、性別では、「どういった制度か知っている」では、男性が35.2%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「どういった制度か知っている」では、70歳以上が18.8%で他の年代に比べて割合が低くなっています。居住地区別では、「どういった制度か知っている」では、落合・常盤地区が44.4%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【成年後見制度の認知について】



■ どういった制度か知っている ■ 制度の名称は聞いたことがあるが、内容は知らない ■ 知らない □ 無回答

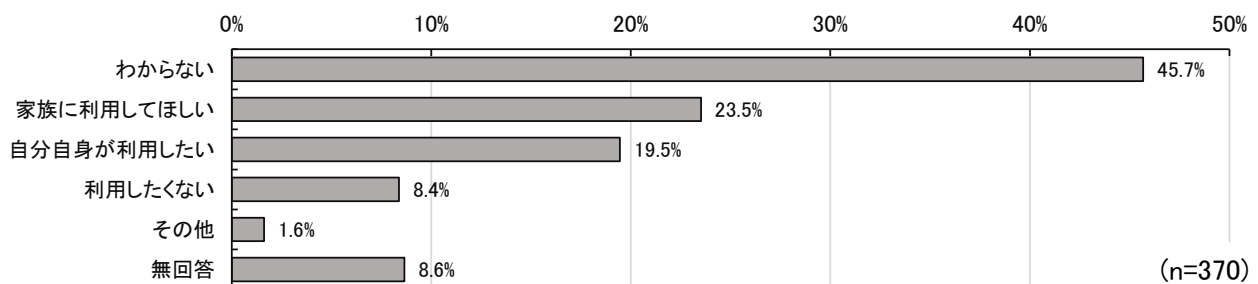
問40

あなた自身や親族が認知症等により判断が十分にできなくなった時、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(〇印はいくつでも)

成年後見制度の利用意向については、「わからない」が45.7%と最も高く、次いで「家族に利用してほしい」(23.5%)、「自分自身が利用したい」(19.5%)、「利用したくない」(8.4%)の順となっています。

属性別にみると、性別では「家族に利用してほしい」では、男性が27.8%で女性よりも割合がやや高くなっています。年齢別では、「自分自身が利用したい」では、18～29歳が4.5%で他の年代に比べて割合が低くなっています。

【成年後見制度の利用意向】



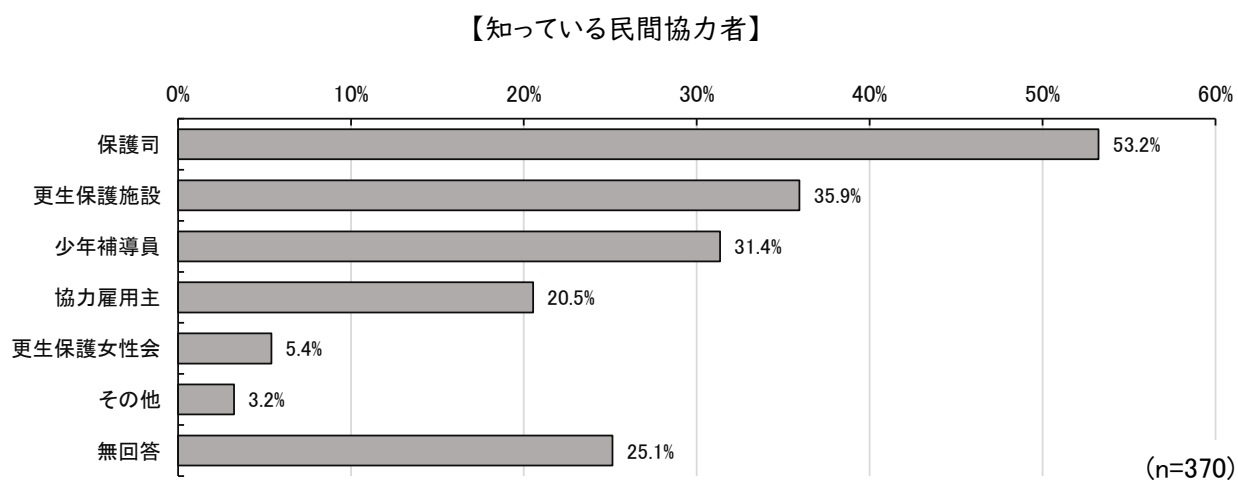
		自分自身が利用したい	家族に利用してほしい	利用したくない	わからない	その他	無回答
性別	全体(n=370)	19.5	23.5	8.4	45.7	1.6	8.6
	男性(n=162)	16.0	27.8	11.1	44.4	1.2	6.8
	女性(n=202)	22.8	20.8	6.4	46.0	2.0	9.4
年齢	18～29歳(n=22)	4.5	27.3	4.5	63.6		4.5
	30～39歳(n=28)	28.6	39.3	3.6	42.9		
	40～49歳(n=50)	20.0	22.0	4.0	56.0	2.0	2.0
	50～59歳(n=54)	29.6	25.9	7.4	44.4	1.9	3.7
	60～69歳(n=52)	15.4	17.3	11.5	46.2	3.8	9.6
	70歳以上(n=144)	16.7	22.2	11.8	38.2	1.4	13.9
居住地区	日ノ出・中央・母沢(n=34)	23.5	29.4	11.8	35.3		5.9
	一町内(n=100)	17.0	27.0	6.0	43.0	1.0	9.0
	二町内(n=96)	20.8	28.1	3.1	45.8	4.2	8.3
	共栄・富田・池田・旭丘(n=49)	18.4	20.4	8.2	57.1	2.0	4.1
	曲川・都地区(n=58)	25.9	13.8	13.8	44.8		10.3
	落合・常盤地区(n=18)	5.6	22.2	27.8	44.4		5.6

10 地域における再犯防止についておたずねします。

問41 犯罪をした人が立ち直り、再犯をしないようにすることに協力する民間協力者があります。あなたは、どのような民間協力者を知っていますか。(〇印はいくつでも)

どのような民間協力者を知っているかについては、「保護司」が53.2%と最も高く、次いで「更生保護施設」(35.9%)、「少年補導員」(31.4%)、「協力雇用主」(20.5%)、「更生保護女性会」(5.4%)の順となっています。

属性別にみると、性別では、「少年補導員」では、男性が37.0%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「保護司」では、18~29歳が22.7%で他の年代に比べて割合が低くなっています。



		保護司	協力雇用主	更生保護施設	更生保護女性会	少年補導員	その他	無回答
性別	全体(n=370)	53.2	20.5	35.9	5.4	31.4	3.2	25.1
	男性(n=162)	54.9	25.9	37.7	6.2	37.0	3.7	21.6
	女性(n=202)	53.0	16.8	35.1	5.0	26.7	2.5	27.2
年齢	18～29歳(n=22)	22.7	9.1	50.0	4.5	36.4		18.2
	30～39歳(n=28)	60.7	17.9	46.4	10.7	21.4	3.6	14.3
	40～49歳(n=50)	60.0	20.0	52.0	8.0	38.0	2.0	14.0
	50～59歳(n=54)	66.7	29.6	46.3	3.7	33.3	5.6	14.8
	60～69歳(n=52)	65.4	34.6	32.7	9.6	28.8		25.0
	70歳以上(n=144)	47.9	16.7	23.6	3.5	30.6	3.5	34.0
居住地区	日ノ出・中央・母沢(n=34)	35.3	17.6	17.6		23.5	5.9	35.3
	一町内(n=100)	56.0	18.0	39.0	5.0	28.0	4.0	23.0
	二町内(n=96)	62.5	20.8	45.8	5.2	36.5		20.8
	共栄・富田・池田・旭丘(n=49)	55.1	20.4	32.7	6.1	34.7	4.1	22.4
	曲川・都地区(n=58)	43.1	22.4	25.9	3.4	29.3	3.4	27.6
	落合・常盤地区(n=18)	61.1	38.9	38.9	16.7	38.9		27.8

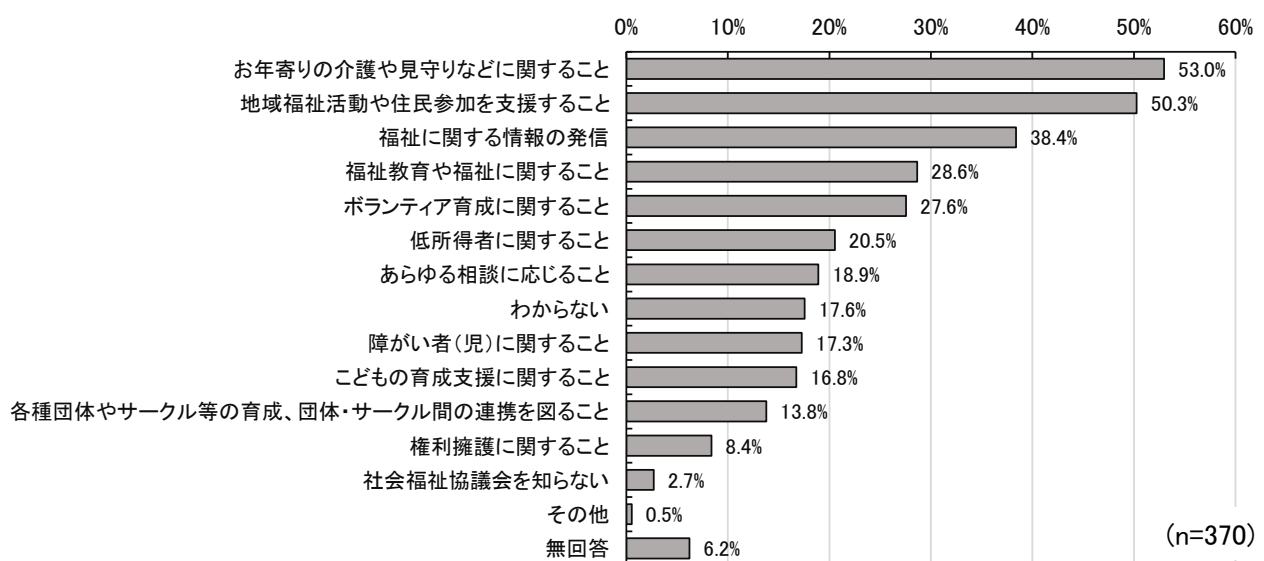
11 社会福祉協議会の活動についておたずねします。

問42 あなたが知っている社会福祉協議会の活動は次のうちのどれですか。(〇印はいくつでも)

知っている社会福祉協議会の活動については、「お年寄りの介護や見守りなどに関すること」が53.0%と最も高く、次いで「地域福祉活動や住民参加を支援すること」(50.3%)、「福祉に関する情報の発信」(38.4%)、「福祉教育や福祉に関すること」(28.6%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「障がい者(児)に関すること」では、男性が24.7%で女性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「地域福祉活動や住民参加を支援すること」では、18~29歳が22.7%で他の年代に比べて割合が低くなっています。

【知っている社会福祉協議会の活動】



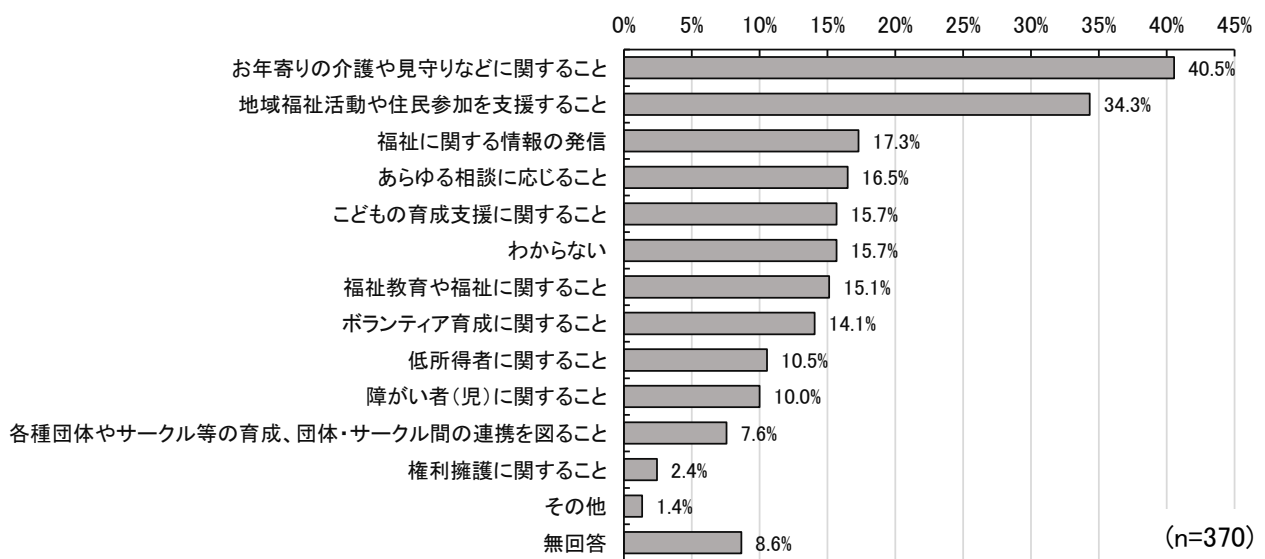
		地域福祉活動や住民参加を支援すること	ボランティア育成に関すること	福祉教育や福祉に関すること	福祉に関する情報の発信	お年寄りの介護や見守りなどに関すること	障がい者(児)に関すること	こどもの育成支援に関すること	低所得者に関すること	あらゆる相談に応じること	各種団体やサークル等の育成、団体・サークル間の連携を図ること	権利擁護に関すること	その他	わからない	社会福祉協議会を知らない	無回答
性別	全体(n=370)	50.3	27.6	28.6	38.4	53.0	17.3	16.8	20.5	18.9	13.8	8.4	0.5	17.6	2.7	6.2
	男性(n=162)	51.9	27.8	27.8	38.3	54.9	24.7	19.1	19.1	21.6	12.3	11.1	0.6	20.4	4.3	4.9
	女性(n=202)	50.0	28.2	30.2	39.6	52.5	11.9	15.3	22.3	16.8	14.9	6.4	0.5	14.9	1.5	6.9
年齢	18～29歳(n=22)	22.7	9.1	27.3	13.6	45.5	4.5	4.5	9.1	13.6	4.5	9.1		40.9		4.5
	30～39歳(n=28)	53.6	35.7	42.9	50.0	57.1	17.9	14.3	28.6	14.3	14.3	7.1		17.9	10.7	
	40～49歳(n=50)	54.0	38.0	34.0	32.0	52.0	16.0	34.0	22.0	12.0	22.0	8.0		22.0	2.0	2.0
	50～59歳(n=54)	61.1	38.9	42.6	51.9	59.3	33.3	25.9	35.2	27.8	18.5	16.7		13.0	3.7	1.9
	60～69歳(n=52)	51.9	32.7	19.2	44.2	46.2	25.0	21.2	34.6	21.2	15.4	15.4		19.2		7.7
	70歳以上(n=144)	52.1	22.2	22.9	36.1	56.9	11.1	9.0	11.8	18.8	11.1	4.2	1.4	11.8	1.4	9.0
居住地区	日ノ出・中央・母沢(n=34)	38.2	23.5	20.6	26.5	50.0	11.8	20.6	23.5	20.6	17.6	11.8		26.5	2.9	5.9
	一町内(n=100)	50.0	29.0	33.0	39.0	62.0	15.0	11.0	20.0	18.0	16.0	12.0	1.0	16.0	2.0	7.0
	二町内(n=96)	58.3	35.4	31.3	39.6	46.9	15.6	21.9	20.8	19.8	16.7	7.3	1.0	19.8	1.0	6.3
	共栄・富田・池田・旭丘(n=49)	44.9	24.5	30.6	46.9	57.1	26.5	12.2	22.4	24.5	12.2	8.2		12.2	2.0	6.1
	曲川・都地区(n=58)	53.4	17.2	19.0	39.7	55.2	15.5	15.5	19.0	15.5	8.6	3.4		12.1	5.2	3.4
	落合・常盤地区(n=18)	50.0	44.4	33.3	44.4	61.1	38.9	38.9	33.3	16.7	5.6	11.1		27.8		5.6

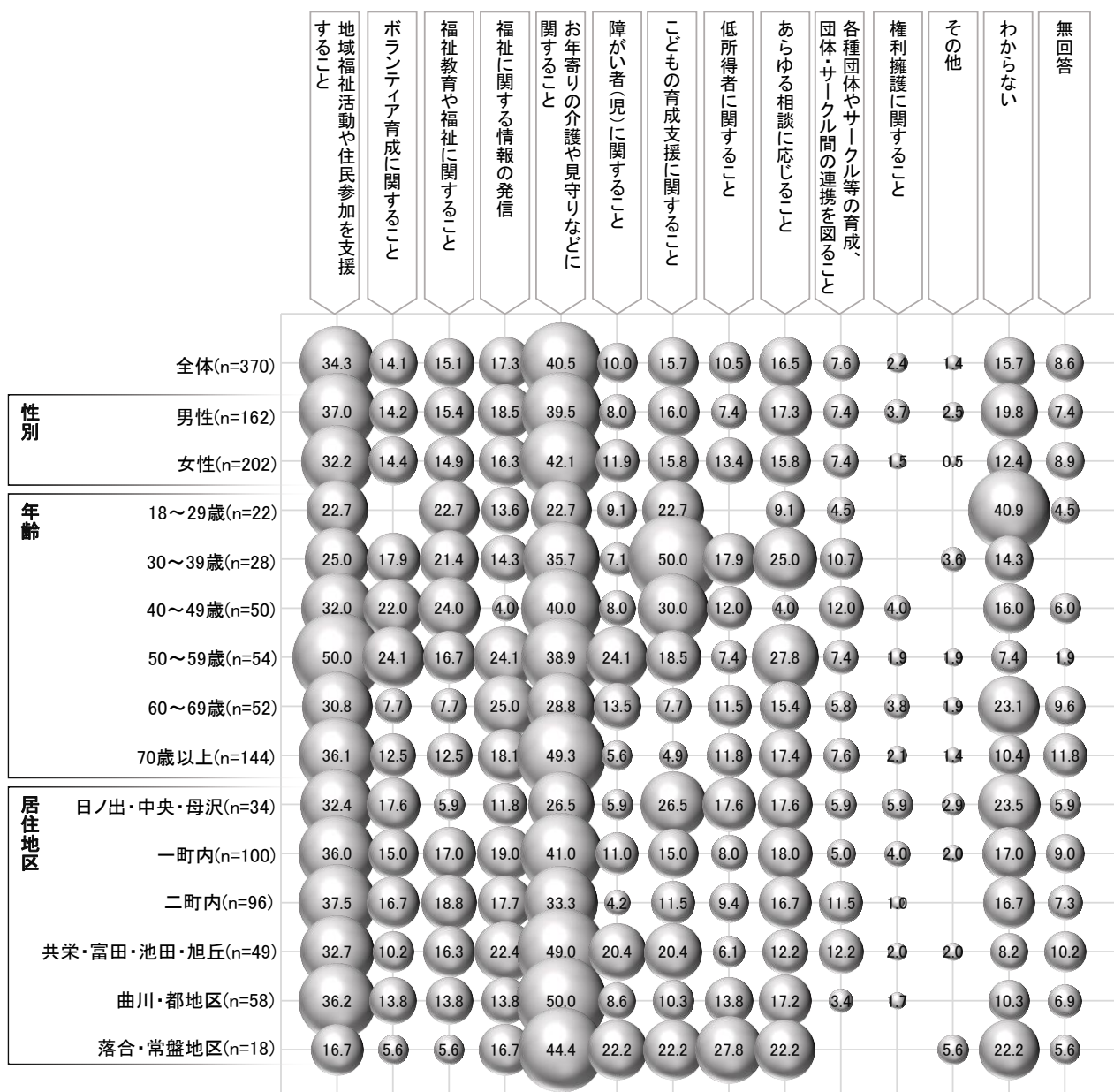
問43 あなたは、社会福祉協議会に今後どのような分野での役割を期待しますか。(〇印は3つまで)

今後、社会福祉協議会に期待することについては、「お年寄りの介護や見守りなどに関すること」が40.5%と最も高く、次いで「地域福祉活動や住民参加を支援すること」(34.3%)、「福祉に関する情報の発信」(17.3%)、「あらゆる相談に応じること」(16.5%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「低所得者に関すること」では、女性が13.4%で男性よりも割合がやや高くなっています。年齢別では、「こどもの育成支援に関すること」では、30～39歳が50.0%で他の年代に比べて割合が高くなっています。

【今後、社会福祉協議会に期待すること】





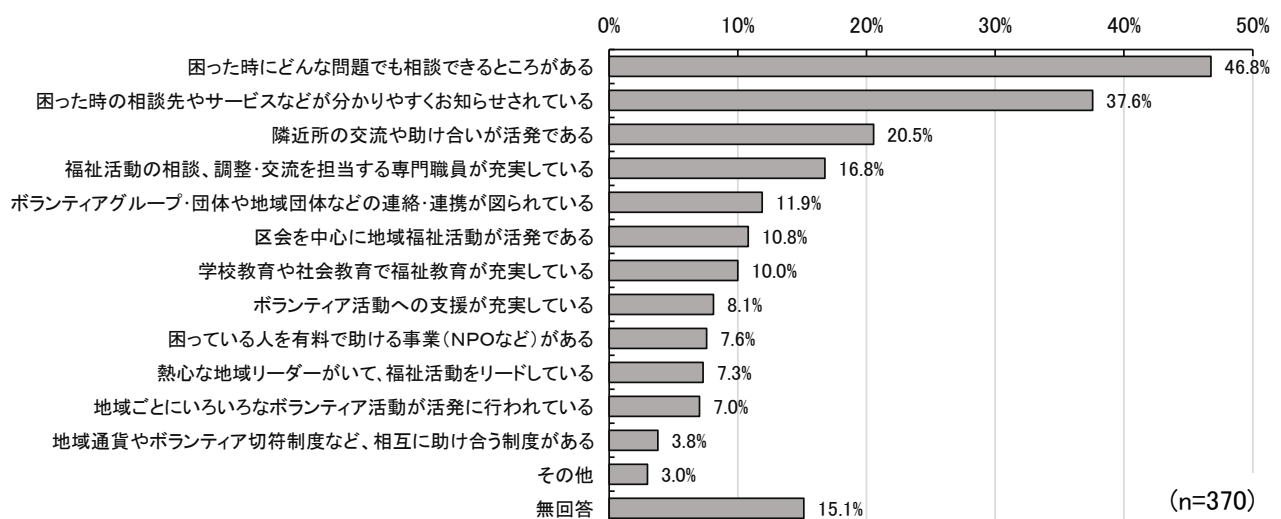
12 今後の福祉のあり方についておたずねします。

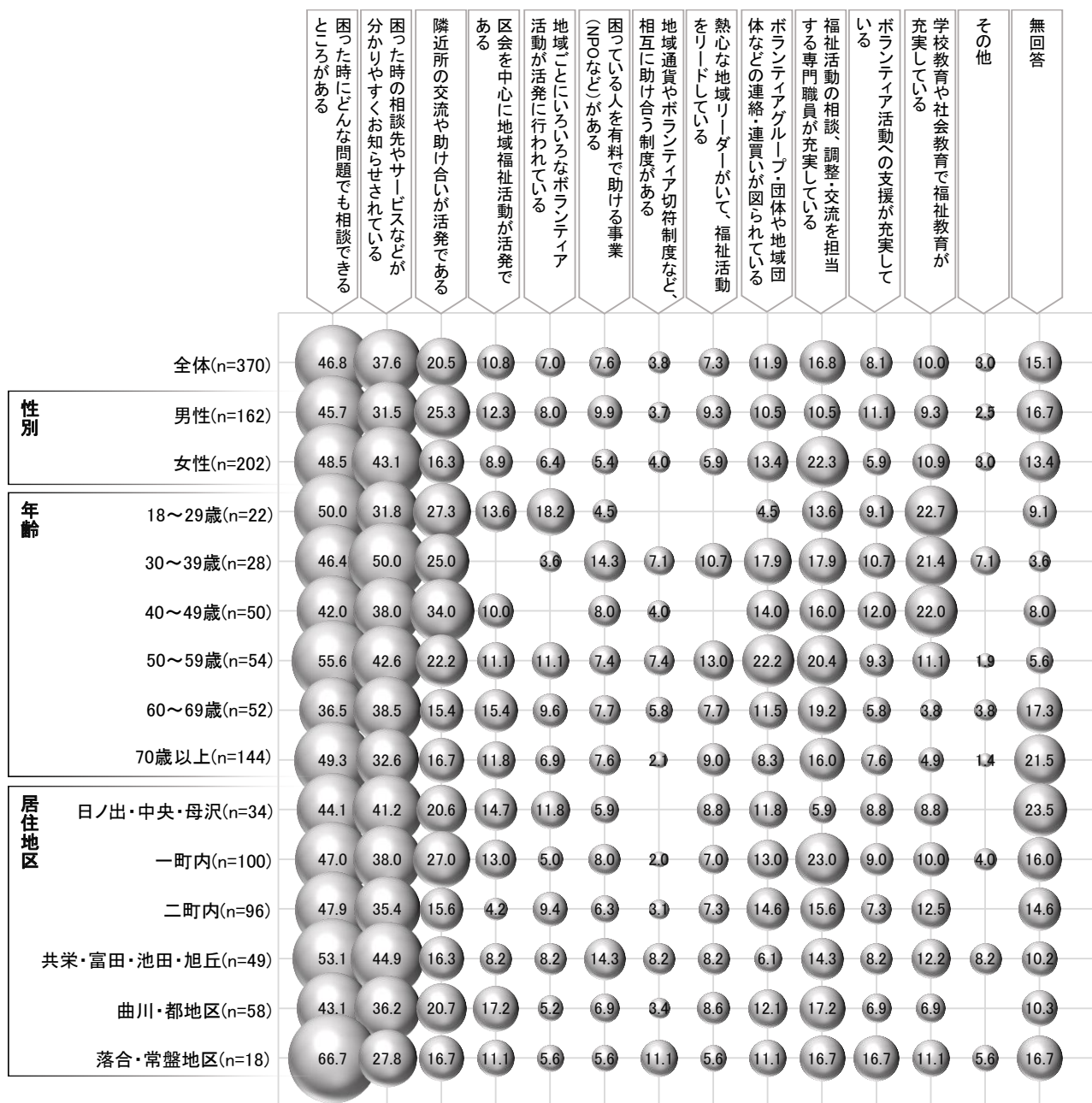
問44 困った時に助け合えるむらとはどのようなむらだと思いますか。(〇印は3つまで)

困ったときに助け合えるむらとはどのようなむらだと思うかについては、「困ったときにどんな問題でも相談できるところがある」が46.8%と最も高く、次いで「困った時の相談先やサービスなどが分かりやすくお知らせされている」(37.6%)、「隣近所の交流や助け合いが活発である」(20.5%)、「福祉活動の相談、調整・交流を担当する専門職員が充実している」(16.8%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「福祉活動の相談、調整・交流を担当する専門職員が充実している」では、女性が22.3%で男性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「地域ごとにいろいろなボランティア活動が活発に行われている」では、18～29歳が18.2%で他の年代に比べて割合が高くなっています。居住地区別では、「困った時にどんな問題でも相談できるところがある」では、落合・常盤地区が66.7%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【困った時に助け合えるむらとは】



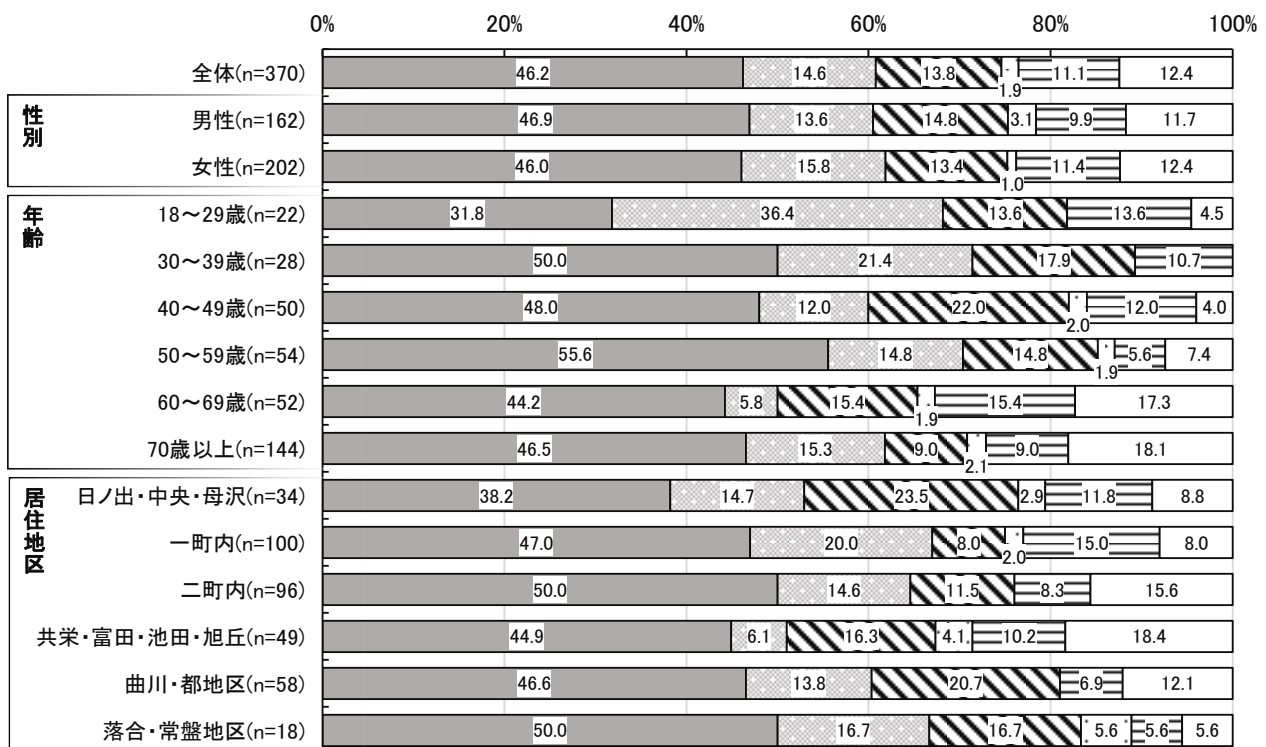


問45 あなたは、地域での福祉活動を推進していくうえで、住民と行政との関係はどうあるべきだとお考えですか。(1つに○印)

地域での福祉活動を推進していくうえで、住民と行政との関係はどうあるべきかについては、「福祉サービスの充実のために、住民も行政も協力し合い、協働して共に取り組むべきである」が46.2%と最も高く、次いで「家庭や地域をはじめ住民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助すべきである」(14.6%)、「行政が担当すべきだが、手の届かない部分は住民が協力すべきである」(13.8%)、「わからない」(11.1%)、「福祉サービスは行政が担当すべきで、住民はあまり協力することはない」(1.9%)の順となっています。

属性別にみると、性別では、あまり大きな差はみられませんでした。年齢別では、「家庭や地域をはじめ住民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助すべきである」では、18～29歳が36.4%で他の年代に比べて割合が高くなっています。

【住民と行政との関係性について】



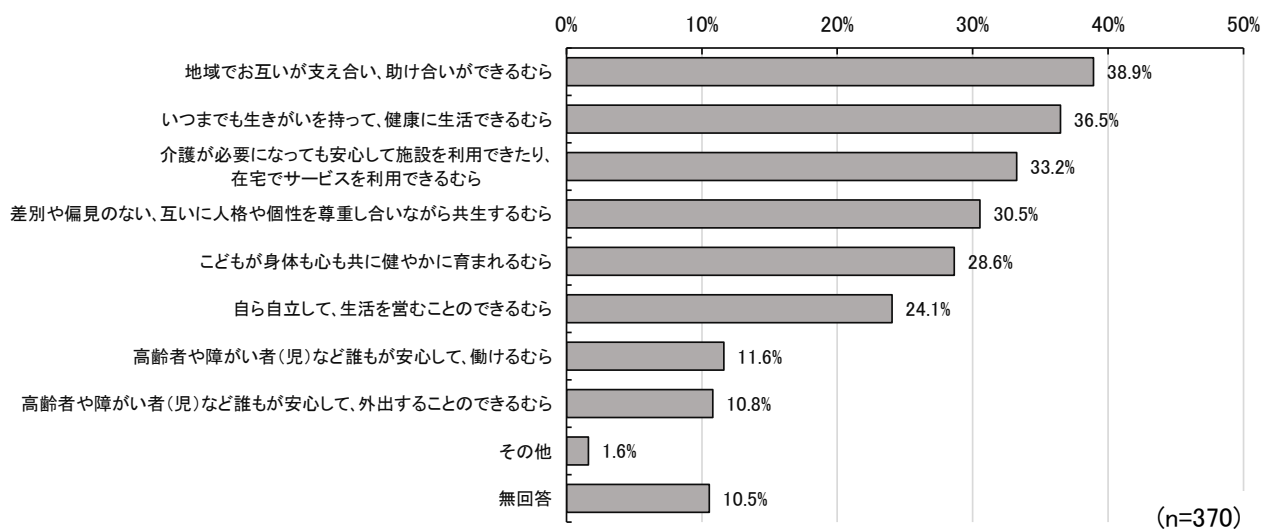
- ☒ 福祉サービスの充実のために、住民も行政も協力し合い、協働して共に取り組むべきである
- ☒ 家庭や地域をはじめ住民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助すべきである
- ☒ 行政が担当すべきだが、手の届かない部分は住民が協力すべきである
- ☐ 福祉サービスは行政が担当すべきで、住民はあまり協力することはない
- ☐ わからない
- ☐ 無回答

問46 あなたは、赤井川村をどんな「福祉のむら」にしたいと思いますか。(〇印は3つまで)

赤井川村をどんな「福祉のむら」にしたいかについては、「地域でお互いが支え合い、助け合いができるむら」が38.9%と最も高く、次いで「いつまでも生きがいを持って、健康に生活できるむら」(36.5%)、「介護が必要になっても安心して施設を利用できたり、在宅でサービスを利用できるむら」(33.2%)、「差別や偏見のない、互いに人格や個性を尊重し合いながら共生するむら」(30.5%)等の順となっています。

属性別にみると、性別では、「介護が必要になっても安心して施設を利用できたり、在宅でサービスを利用できるむら」では、女性が46.0%で男性よりも割合が高くなっています。年齢別では、「こどもが身体も心も共に健やかに育まれるむら」では、30～39歳が60.7%で他の年代に比べて割合が高くなっています。

【赤井川村をどんな「福祉のむら」にしたいか】



		自ら自立して、生活を営む ことができるむら	地域でお互いが支え合い、助 け合いができるむら	差別や偏見のない、互いに 人格や個性を尊重し合いなが ら共生するむら	こどもが身体も心も共に 健やかに育まれるむら	高齢者や障がい者(児)など誰 もが安心して、働けるむら	高齢者や障がい者(児)など誰 もが安心して、外出すること のできるむら	介護が必要になっても安心し て施設を利用できたり、在宅 でサービスを利用できるむら	いつまでも生きがいを持って 健康に生活できるむら	その他	無回答
性別	全体(n=370)	24.1	38.9	30.5	28.6	11.6	10.8	33.2	36.5	1.6	10.5
	男性(n=162)	30.2	40.7	32.7	26.5	9.9	6.8	17.3	39.5	0.6	11.7
	女性(n=202)	19.8	37.1	29.2	30.7	13.4	13.9	46.0	34.2	2.0	9.4
年齢	18～29歳(n=22)	22.7	59.1	36.4	50.0	13.6	18.2	9.1	13.6		4.5
	30～39歳(n=28)	32.1	32.1	28.6	60.7	8.6	7.1	25.0	46.4	8.6	
	40～49歳(n=50)	26.0	48.0	32.0	52.0	6.0	16.0	26.0	30.0		4.0
	50～59歳(n=54)	22.2	48.1	33.3	35.2	11.1	13.0	35.2	38.9	1.9	7.4
	60～69歳(n=52)	28.8	36.5	30.8	15.4	17.3	11.5	34.6	40.4	1.9	7.7
	70歳以上(n=144)	22.2	34.0	29.2	13.9	11.1	9.0	41.7	40.3	0.7	16.7
居住地区	日ノ出・中央・母沢(n=34)	20.6	44.1	38.2	20.6	17.6	8.8	29.4	35.3		8.8
	一町内(n=100)	28.0	43.0	36.0	39.0	14.0	9.0	32.0	33.0	2.0	8.0
	二町内(n=96)	25.0	40.6	21.9	28.1	7.3	11.5	33.3	42.7	1.0	11.5
	共栄・富田・池田・旭丘(n=49)	16.3	28.6	40.8	26.5	10.2	10.2	40.8	32.7	2.0	12.2
	曲川・都地区(n=58)	17.2	37.9	17.2	24.1	10.3	13.8	32.8	39.7		15.5
	落合・常盤地区(n=18)	55.6	33.3	55.6	16.7	11.1	16.7	38.9	27.8		5.6

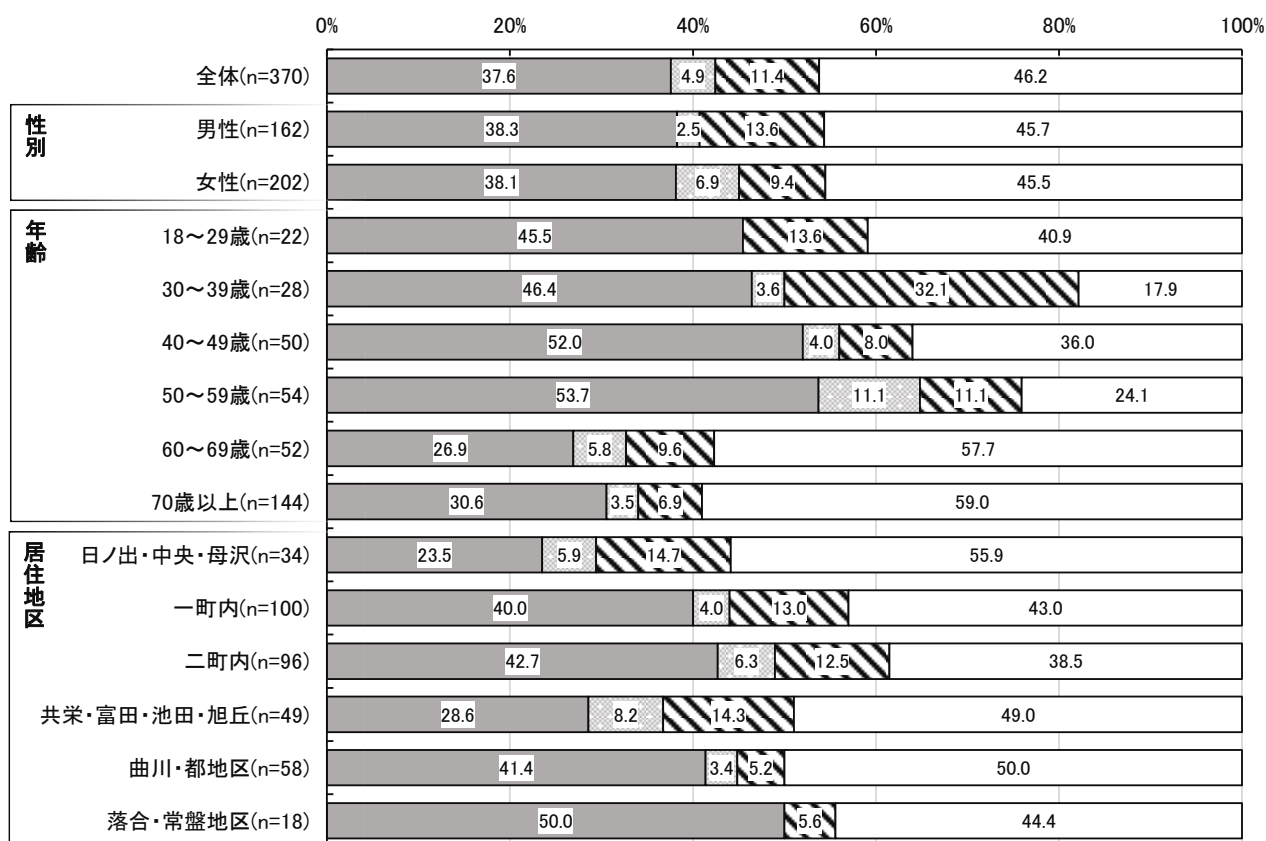
13 むらバスについておたずねします。

問47 むらバスを利用したことがある方（ご家族の利用を含む）に伺います。昨年4月からむらバスを運行していますが、「公共交通の利便性が変化した」と感じられますか。（〇印は1つまで）

むらバスの運行で「公共交通の利便性が変化した」と感じられるかについては、「利便性が「よくなった」と感じる」が37.6%、「利便性が「悪くなった」と感じる」が4.9%、「民間バス路線と「変わらない」」が11.4%となっています。

属性別にみると、性別では、「利便性が「悪くなった」と感じる」では、女性が6.9%で男性よりも割合がやや高くなっています。年齢別では、「民間バス路線と「変わらない」」では、30～39歳が32.1%で他の年代に比べて割合が高くなっています。居住地区別では、「利便性が「よくなった」と感じる」では、落合・常盤地区が50.0%で他の地区に比べて割合が高くなっています。

【むらバスの運行で「公共交通の利便性が変化した」と感じるか】



■ 利便性が「よくなった」と感じる ■ 利便性が「悪くなった」と感じる ■ 民間バス路線と「変わらない」 □ 無回答

問47-1

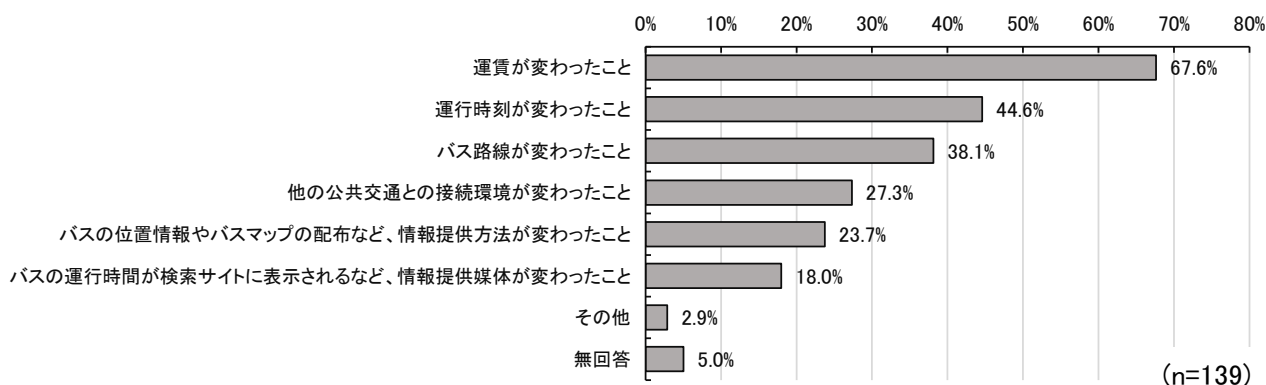
問47で「1. よくなった」「2. 悪くなった」と回答された方におたずねします。

「①よくなった」、「②悪くなった」と感じるについてお答えください。(〇印はいくつでも)

①よくなったと感じること

よくなったと感じることについては、「運賃が変わったこと」が67.6%と最も高く、次いで「運航時刻が変わったこと」(44.6%)、「バス路線が変わったこと」(38.1%)、「他の公共交通との接続環境が変わったこと」(27.3%)等の順となっています。

【よくなったと感じること】



②悪くなったと感じること

悪くなったと感じることについては、「運航時刻が変わったこと」が66.7%と最も高く、次いで「他の公共交通との接続環境が変わったこと」(38.9%)、「バス路線が変わったこと」(16.7%)等の順となっています。

【悪くなったと感じること】

